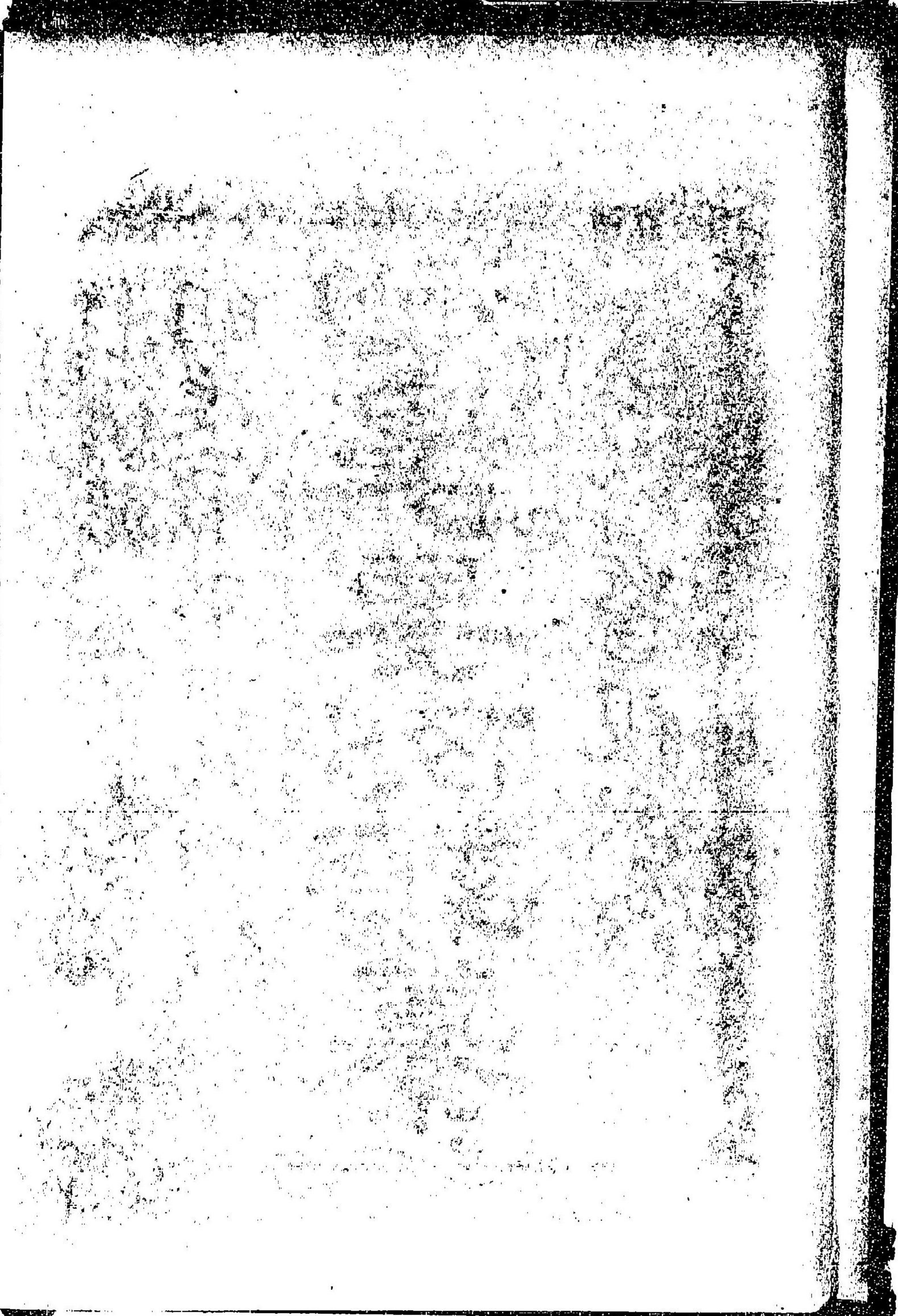


明治二十年五月三日内務省文書 3804

明治二十年四月刊行

# 警事要例彙纂

警視廳藏版



C2  
711  
082

例言

- 一本書ハ端ヲ本課參照ノ爲メ刑法治罪法ニ關係アル諸規則及ヒ内訓伺指令等ヲ類集セシモノナリ然ルニ之ヲ便ナリトシ騰寫ヲ望ムモノ少カラズ因テ今訂正増補ノ勞ヲ取り更ニ印刷シ名ケテ刑事要例類纂ト云フ但内訓伺指令ハ官報等ニ登載ノモノ、ミヲ掲ク
- 一本書中ニ輯ル所ノモノハ十四年一月ヨリ十九年十二月ニ至ル乃チ六ケ年間ノ發令ニ係ルト雖モ而カモ重要吃緊ノ關係ヲ有スルモノハ其以前ト雖モ亦之ヲ編入シ其刑法治罪法ニ關係薄キモノ以テ參照ノ用ニ供スヘキモノハ敢テ之ヲ漏サス亦參照ノ部ニ編入セリ
- 一本書ハ索引ニ便スル爲メ大別シテ刑法治罪法監獄陸海軍表式及參照ノ六部トシ部中尙ホいろは數字等ノ符號ヲ以テ其類ヲ小別ス
- 一本書目錄ノ外別ニ又年月番號ノ順序ヲ追ヒ各官省ニ區別シテ其目錄ヲ付ス亦是レ索引ニ便スル爲メナリ
- 一本書中事ノ各部ニ關係アルモノハ其重ナル部中ニ之ヲ編入シ其他ハ目錄ノミヲ存シテ之ヲ省ク蓋シ混淆ニ涉ルヲ恐レテナリ
- 一本書中追加ニ係ルモノハ直ニ本文ニ挿入シ別ニ年月日ヲ記セス其改正削除ニ係ルモノモ

亦此例ニ依ル

一本書中勅令布告ニ係ルモノハ單ニ勅令布告ト記シ各省ノ布達訓令等ニ係ルモノハ省名ヲ加フ

明治二十年四月

編者識

警事要例類纂索引

太政官及内閣ノ部

年	元	七	八	十	十四	種類	番號	符號	種類	番號	符號	種類	番號	符號
廿二月	廿三月	廿四月	廿五月	廿六月	廿七月	布告	七十七	九	布告	七十九	三	布告	八十一	一
無號	百廿五	百廿六	百廿七	百廿八	百廿九	布告	七十八	三	布告	八十	一	布告	八十二	一
一	二	三	四	五	六	布告	七十九	三	布告	八十一	三	布告	八十三	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十	一	布告	八十二	一	布告	八十四	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十一	一	布告	八十三	一	布告	八十五	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十二	一	布告	八十四	一	布告	八十六	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十三	一	布告	八十五	一	布告	八十七	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十四	一	布告	八十六	一	布告	八十八	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十五	一	布告	八十七	一	布告	八十九	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十六	一	布告	八十八	一	布告	九十	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十七	一	布告	八十九	一	布告	九十一	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十八	一	布告	九十	一	布告	九十二	一
一	二	三	四	五	六	布告	八十九	一	布告	九十一	一	布告	九十三	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十	一	布告	九十二	一	布告	九十四	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十一	一	布告	九十三	一	布告	九十五	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十二	一	布告	九十四	一	布告	九十六	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十三	一	布告	九十五	一	布告	九十七	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十四	一	布告	九十六	一	布告	九十八	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十五	一	布告	九十七	一	布告	九十九	一
一	二	三	四	五	六	布告	九十六	一	布告	九十八	一	布告	一百	一

索引

年	種類	番號	符號	年	種類	番號	符號	年	種類	番號	符號
十四	布告	八十三	ね一	十四	遠	十一	や一	十四	遠	五十三	さ四
	遠	八十一	お一		遠	八十二	う二		遠	八十六	う一
十五	布告	一	う一	十五	布告	四	く五	十五	布告	五	ね一
	布告	十六	る十一		布告	二十	い三		布告	二十三	か三
	布告	三十	る四		布告	三十三	る三		布告	三十七	い五
	布告	六十	て三		布告	七十三	い六		布告	三十七	い五
十六	布告	二	る一	十六	布告	三	ぬ二	十六	布告	八	ぬ七
	布告	三十三	ふ三		布告	二十四	く二		布告	三十七	く六
	布告	四十二	わ十二		布告	四十九	り一		遠	五十三	や一
	遠	六十二	お十四		布告	九	く十		遠	五十七	を七
十七	布告	一	ほ三	十七	布告	八	く四	十七	布告	三十一	な一
	遠	十	ほ四		遠	二十七	く十		遠	九十七	を七
十八	布告	二	つ一	十八	布告	十二	ち一	十八	布告	三十一	な一
	布告	四十二	る十一		布告	十二	く廿五		遠	六十三	は十二
十九	法律	一	く十七	十九	勅令	四十	ふ一	十九	勅令	四十四	く七
	法律	一	て一		勅令	四十	ふ一		勅令	四十六	つ六

年	種類	番號	符號	年	種類	番號	符號	年	種類	番號	符號
十四	乙	五	さ一	十四	乙	四十一	お二	十四	乙	六十三	お九
	乙	六十四	お十一		乙	三十一	ど十四		乙	三十九	お十六
十五	乙	十九	ど十四	十五	乙	二十六	ね七	十五	乙	三十一	お八
	乙	十八	を六		乙	十九	ど八		乙	三十一	お八
十六	乙	四	を十二	十六	乙	二十六	ね七	十六	乙	三十五	の六
	乙	三十八	を六		乙	十九	ど八		乙	三十五	の六
十七	乙	三十二	を三	十七	乙	三十四	つ十三	十七	乙	三十五	の六
	五月五日番	外ほ五			乙	三十四	つ十三		乙	三十五	の六
十八	甲	二十五	お二十	十八	甲	二十六	ね三	十八	九月十日番	外お四	
	甲	二十五	お二十		甲	二十六	ね三		九月十日番	外お四	
十九	甲	四	お廿一	十九	乙	一	お廿一	十九	省令	二十四	を五

索引

三

二

内務省ノ部

大藏省ノ部

陸軍省ノ部

年	種類	番號	符號
十四	布達	二	や三
十六	乙	八	く十二
十九	省令甲	十八	ほ八
十九	令	十五	く廿七
	乙	百二	く十九
	乙	百九	ま二
	乙	百十	ま一

海軍省ノ部

年	種類	番號	符號
十六	乙	三	く二十
十七	乙	三	く十六
十八	丙	六十五	く十八
十八	丙	四十七	く廿二
	丙	六十三	く十五
	丙	六十六	や四
	丙	八	ま五
	丙	六十四	く十六

司法省ノ部

年	種類	番號	符號
十	丁	四十六	へ十一
十一	丁	廿四	乙二
		六十一	月番外乙二

年	種類	番號	符號
十二	丁	五	乙二
十三	丁	廿八	乙四
十四	甲	四	乙一
	丙	六	は六
	丙	十五	う二
	丙	十九	け十一
	丁	十七	か二
	丁	廿六	む四
	丁	三十一	を十三
十五	丙	三	つ十六
	丙	八	の二
	丙	十二	を十三
	丙	十六	ね四
	丙	二十	は九
	丙	二十四	は二
	丙	三十三	ゆ十八
	丁	七	ゆ六
	丁	十九	乙二
	甲	五	か二
	丙	七	は七
	丙	十六	ち九
	丙	二十	よ十二
	丁	十八	む一
	丁	廿七	ら三
	丁	三十三	ゆ十二
	丙	四	よ二
	丙	九	ね三
	丙	十三	い四
	丙	十七	き三
	丙	二十一	る六
	丙	二十五	を十一
	丙	三十四	れ二
	丁	十一	ら二
	甲	七	を三
	丙	十二	な九
	丙	十七	よ十七
	丁	九	乙二
	丁	二十一	ら一
	丁	二十八	よ十七
	丁	三十四	け十
	丙	五	む四
	丙	十	か四
	丙	十四	よ十二
	丙	十八	の二
	丙	二十二	か五
	丙	二十六	を九
	丙	三十五	き一
	丁	十四	よ十六
	甲	八	あ一
	丙	十三	か二
	丙	十八	け十二
	丁	十三	く七
	丁	三十五	む二
	丁	三十九	ら二
	丙	六	よ十三
	丙	十一	に一
	丙	十五	ゆ五
	丙	十九	き二
	丙	二十三	け十三
	丙	三十二	か五
	丁	五	け二
	丁	十五	乙二

引索

五

四

十五年			十六			十七			十八		
種類	番號	符號	種類	番號	符號	種類	番號	符號	種類	番號	符號
丁	十七	よ十五	丁	十八	よ十五	丁	十九	け十四	丁	二十	け十四
丁	二十四	よ十	丁	二十五	乙二	丁	二十六	乙二	丁	二十七	け十五
丁	三十一	け二	丁	三十二	け六	丁	三十三	の四	丁	三十四	け十五
丁	四十一	い六	丁	四十二	ね十	丁	四十三	の四	丁	四十四	け十九
丁	四十九	乙三	丁	五十	乙四	丁	五十一	に五	丁	五十二	け十九
丁	六十一	け廿二	丁	六十二	外ね六	丁	六十三	ら二	丙	六十四	け九
丙	一	よ七	丙	二	に二	丙	三	を三	丙	四	け九
丙	八	た二	丙	九	を六	丙	十	ら二	丙	十一	け八
丁	十五	を十二	丁	十六	か二	丁	十七	ね五	丁	十八	け十六
丁	二十五	ね六	丁	二十六	ね九	丁	二十七	乙八	丁	二十八	け二十
丁	二十八	け四	丁	二十九	た二	丁	三十	乙八	丁	三十一	乙三
丁	三十九	ね十	丁	四十	け一	丁	四十一	乙三	丁	四十二	乙三
丙	一	わ七	丙	二	を四	丙	三	わ三	丙	四	乙二
丙	六	は十一	丙	七	ね一	丙	八	を十四	丙	九	十一
丁	十一	け十七	丁	十二	を八	丁	十三	ね五	丁	十四	よ十八
丁	十一	け十七	丁	十二	を八	丁	十三	ね五	丁	十四	よ十八

六

警視廳ノ部

十八			十九		
年	種類	番號	年	種類	番號
十八	達	八	十九	省令甲	三七
十八	符號	う十一	十九	省令甲	四七
十八	種類	達	十九	省令甲	五七
十八	番號	九	十九	省令甲	六七
十八	符號	う十二	十九	省令甲	七六
十八	種類	達	十九	省令甲	八六
十八	番號	九	十九	省令甲	九六
十八	符號	う十二	十九	省令甲	一〇六
十八	種類	達	十九	省令甲	二〇六
十八	番號	九	十九	省令甲	三〇六
十八	符號	う十二	十九	省令甲	四〇六
十八	種類	達	十九	省令甲	五〇六
十八	番號	九	十九	省令甲	六〇六
十八	符號	う十二	十九	省令甲	七〇六
十八	種類	達	十九	省令甲	八〇六
十八	番號	九	十九	省令甲	九〇六
十八	符號	う十二	十九	省令甲	一〇〇六
十八	種類	達	十九	省令甲	一一〇六
十八	番號	九	十九	省令甲	一二〇六
十八	符號	う十二	十九	省令甲	一三〇六

刑事要例類纂索引終

刑事要例類纂目次

刑法ノ部

(い) 全般ニ關スル事

新舊比照法ノ事

一  
同 丁

(一) 刑法實施前ニ發布ノ法律規則ニ係ル罰例并其裁判管轄ノ事

三 丁

(二) 舊軍律及普通刑法共ニ罪名アリテ所犯刑法施行以前ニ係ル者處

分方ノ事

五 丁

(四) 軍人常人役限内老病收贖及存留養親ノ事

同 丁

(五) 法律上ニ稱スル戰時ハ其都度布告ヲ以テ定ムル事

六 丁

(六) 陸軍上等卒憲兵卒雇員ハ刑法上官吏ニ準スル事

同 丁

(七) 生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル被告人ハ十二月ヲ以テ生月トスルコ

(二) 在リ

(ろ) 刑期計算ニ關スル事

(一) 舊刑ニ處セラレタル者ニ係ル刑期ノ事

七 丁

(二)	上告者ノ趣意立タサルモ原裁判破毀ノ節ハ原裁判宣告ノ日ヨリ起算シ哀訴ノ日數ハ除去ノ事	八	丁
(三)	受刑者并檢察官ヨリ上告シタル場合ニ係ル刑期計算方ノ事	九	丁
(四)	曆ニ從テ計算スル方法ノ事	十	丁
(五)	前判ト欠席裁判ト數罪俱發ニ照シタル片計算法ノ事	十二	丁
(六)	法律上ノ期限ヲ經過シ趣意書ヲ出シタル者ニ係ル刑期計算方ノ事	同	丁
(七)	上告趣意書ヲ出シタル後五日內ニ其取消ヲ願出ル者ニ係ル刑期計算方 <small>(三七)</small> ノ事	十三	丁
(八)	既決囚ヲ取調ノ爲メ未決監ニ收禁シタル場合ト雖モ其日數ハ刑期ニ算入ノ事	十四	丁
(九)	假出獄停止ノ申渡前ト雖モ現ニ繫獄スル日數ハ刑期ニ算入 <small>(北二)</small> ノ事	同	丁
(十)	一罪上告保釋中他罪取調ノ爲メ拘留セラレタル日數モ上告ニ係		

(十一)	ル刑期ニ算入ノ事	十四	丁
(十二)	上告中ノ前判ニ係ル滯監日數ヲ後判ノ刑期ニ算入ノ事	十五	丁
(十三)	拘留中ノ日數ヲ主刑期限ニ算入スヘキ場合ハ附加刑ナル監視ノ期限ニモ亦算入スヘキ事	十六	丁
(十四)	欠席裁判ニ關スル刑期 <small>(三六)</small> ノ事		
(十五)	他罪ノ爲メニ處刑セラレタル片上告ニ係ル刑期重キ片ハ刑法第百二條ニ依ル <small>(三五)</small> ノ事		
(は)	贓物及沒收ニ關スル事		
(一)	新法實施前ノ犯罪ト雖モ其徵價處分ハ新法ニ從フヘキ事	十七	丁
(二)	犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ依テ得タル物件其所有主ヘ假渡ノ事	十八	丁
(三)	贓金贓物ヲ以テ買取交換シタル物品ハ仍ホ贓物トスル事	同	丁
(四)	置捨品其他檢事ノ拘收シタル事主不分明ナル物品ハ行政官ノ處分ニ任ヌヘキ事	十九	丁
(五)	贓品ヲ拾得届出タルモ犯者就縛ノ目的ナキ片ハ其品類等ヲ詳記		



(六)	シ置キ物品ハ事主ヘ下付ノ事	二十丁
(七)	官ニ保管中ノ贓物等遺失盜難ニ罹リタルキ賠償處分方ノ事	同丁
(八)	事主ノ有無ニ依テ贓物ヲ區處スル方法ノ事	二十一丁
(九)	囚徒ノ請願ニ依リ獄吏ノ賣却シタル沒收物件ニ關スル事	二十二丁
(十)	沒收物件ハ公告ノ末所有主アレハ直ニ還付スル事	同丁
(十一)	截斷スヘキ金銀貨幣ハ沒收スヘキモノ、外行政官ノ處分ニ任スヘキ事	二十三丁
(十二)	異種ニ屬スル沒收物件ハ檢察官ヨリ警察官ニ交付保存セシムル事	同丁
(十三)	沒收物件ハ裁判所ヨリ地方廳ヘ引繼キ該廳ニ於テ賣却スヘキ事	二十五丁
(十四)	沒收物件ハ會計主任ヘ引渡サス直ニ地方廳ニ引繼クヘキ事	同丁
(十五)	沒收物件取扱手續ノ事	同丁
(十六)	勅奏任官華族帶勳者ニ關スル事	
(一)	勅奏任官華族帶勳有位ノ犯罪者ハ現行犯ノ外奏聞後處分スヘキ事	

(二)	前項ノ者ヲ出廷セシメ及換刑シテ輕禁錮拘留ニ處スル場合モ前同様ノ事	二十六丁
(三)	勳章視奪及停止ノ事	二十七丁
(四)	勳章年金視奪及停止取扱手續ノ事	二十八丁
(五)	内外國ノ勳章ヲ帶ヒタル内外國人身分取扱方ノ事	同丁
(六)	富籤密賣淫賭博ニ關スル事	三十丁
(一)	富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ贖買シタル者處分方ノ事	三十一丁
(二)	密賣淫處分ノ事	三十二丁
(三)	賭博犯處分規則ノ事	同丁
(四)	懲罰ハ禁錮ニ準シ服役セシメ其他總テ監獄則ニ依テ處分スル事	三十三丁
(五)	賭博犯人逃走シ及其逃走者ヲ藏匿セシ者ハ刑法ニ依テ處分シ偽證報告ハ刑法ニ依ラサルコト	同丁
(六)	懲罰假免者過料不納ノ節入獄換罰スル事	三十四丁

(七)	過料不納者身代限り請求書ニ印紙貼用スル事	同	丁
(八)	軍籍ニ在ル者賭博犯處分ノ節通報方ノ事	三十五	丁
(一) 雜			
(一)	無燈乘馬ノ軍人處罰セサル事	三十五	丁
(二)	治産ノ禁ヲ受ケタル者及舊法禁獄五年ニ處セラレタル者ノ所有ニ係ル財産取扱方ノ事	同	丁
(三)	監視ハ體刑ニ限り附加スヘキモノタル事	三十六	丁
(四)	舊法ノ囚徒新法實施後罪ヲ犯シタルキハ假出獄ヲ許サハル事	同	丁
(五)	刑事ノ被告人ニ係ル氏名年齢等ノ詐稱ハ罪トセサル事	三十七	丁
(六)	刑法第八十五條ノ發覺ハ被害者確認ノ後官ニ發覺シタルモノモ包括スル事	三十八	丁
(七)	官吏ニ文書ヲ送致シ侮辱シタルモノハ目前ト全視スル事	同	丁
(八)	司法官警察官公務時間外ニ係ル職務責任即チ刑法二百七十七條ニ關スル事	三十九	丁

(九)	公務ニ關係ナキ事件ニ付囑托ヲ受ケ疾病證書ヲ作りタル醫師ハ刑法第二百十條ニ處スル事	同	丁
(十)	刑法第二百五十六條ノ醫師ニハ獸醫ヲ包含セサル事	四十	丁
(十一)	籍面ニ登記ナキモ養子女又ハ夫婦ノ實アルモノハ法律上差別ナキ事	同	丁
(十二)	子孫父祖ノ借用證書ヲ偽造シ金圓ヲ騙取セントスル所爲ハ法律上罪トセサル事	四十二	丁
(十三)	土著ノ盜取ハ刑法三百六十六條其産物ハ三百七十三條ニ問ヒ尤モ惡意ナキハ府縣違警罪目ニ加ヘテ問フモ妨ナキ事	四十三	丁
(と)			
(一)	刑法附則ノ事	四十四	丁
(二)	他ノ地方トハ他府縣ヲ指ス事	五十四	丁
(三)	附則第四十九條ノ費額ハ各裁判所ニ於テ其程限ヲ定ムヘキ事	五十五	丁
(四)	監視假免ノ具狀方ハ所屬長官ヲ經由(在リニ)ノ事		

(五)	被監視者ヲ送致スルハ警察傳遞ニ及ハサル事	五十五丁
(六)	被監視者ニ添付スヘキ裁判宣告書謄本ニ關スル事	五十六丁
(七)	被監視者送致中逃亡セシキ逮捕處分ヲ爲スヘキ官署ノ事	五十七丁
(八)	被監視者旅行ノ節監視票ヲ携帶其地ノ警察署ニテ認印ヲ受ル事	五十八丁
(九)	別房ニ留置シタル監視人ハ司獄官ニテ監督逃走ノキハ監視規則ニ依ル事	同丁
(十)	甲地ノ被監視者乙地警察署ニテ認印ヲ受クル事	五十九丁
(十一)	警察署ノ距離往復一泊以上ノキハ郡役所戸長役場又ハ巡查交番所ニテ檢印ノ事	同丁
(十二)	監視執行地ニ關スル事	六十二丁
(十三)	陸海軍ニ係ル被監視者ヲ警察署ニ送付(二十廿六)ノ事	六十三丁
(十四)	監視票及旅券様式ノ事	六十三丁

治罪法ノ部

(ち)	全般ニ關スル事	七十七丁
(一)	普通治罪法ト海陸治罪法ト交渉事件處分方ノ事	同丁
(二)	無能力者法律上ノ代人民事擔當人ノ事	七十八丁
(三)	商船内犯罪取扱規則ノ事	七十九丁
(四)	海上路程ノ猶豫ノ事	八十丁
(五)	治罪法第二百六條第二百七條ノ處分ハ五日間ニテ妨ケナキ事	同丁
(六)	准現行犯ノ事	同丁
(七)	家宅搜索ノ制限ニ拘ハラサルモノノ事	同丁
(八)	犯人自撃及戸主承諾ノ場合ハ家宅搜索制限ニ拘ハラヌ且證人ノ資格ナキ者モ立會人ト爲シ得ル事	同丁
(九)	實印ニ捺印代用ノ事	八十一丁
(り)	裁判所ノ開閉ニ關スル事	八十一丁
(一)	高等法院ヲ開カサルキハ通常裁判所ニテ裁判シ得ル事	八十一丁
(二)	重罪裁判所ハ一年ヲ四期ニ分チ隨時開庭ノ事	八十二丁

(一)	陪席判事ノ員數及ヒ陪席補充判事選任方ノ事	八十四丁
(二)	重罪裁判所ヲ始審廳ニ關ク其所長ヲ重罪裁判長ト爲シ得ル事	同丁
(三)	重罪裁判所ヲ始審廳ニ關ク其職員任命方并ニ書類取扱方ノ事	同丁
(四)	重罪裁判所ノ檢察官事故アルル代理補充方ノ事	八十五丁
(五)	重罪裁判所ヲ始審廳ニ關ク其事件ニ係ル事實ノ探討及景況報告方等ノ事	八十六丁
(六)	豫審係解免ノ違ナキマテハ職務繼續ノ事	同丁
(七)	豫審上書記ノ立會ナクシテ訊問シ得ル事	同丁
(八)	檢察官私訴ノ裁判ニ立會サルモ背法ニアラサル <small>(三四ニ在リ)</small> 事	同丁
(九)	書記ノ立會ナク訊問シ得ルト雖モ令狀ハ勿論終結言渡書ニ書記連署ノ事	八十七丁

十

(一)	裁判管轄ニ關スル事	八十七丁
(二)	裁判所位置區畫表并支廳ノ權限本廳全様ノ事	百二丁
(三)	重罪裁判所ノ管轄ハ始審裁判所ノ管内ヲ一區畫トスル事	百三丁
(四)	沖繩地方ノ犯罪處分ハ地方廳ニ於テシ且治罪手續便宜ノ事	同丁
(五)	札幌根室ノ裁判所ニ於テハ治罪手續便宜ノ事	同丁
(六)	札幌根室ノ裁判所ニ重罪裁判所ヲ開キ且治罪手續便宜ノ事	同丁
(七)	減輕ニ依リ輕罪以下ニ處スル重罪事件ハ輕罪裁判所ニテ管轄スル事	百四丁
(八)	逮捕ノ裁判所ニ於テ囑托ニ依リ犯罪地分明ノ被告人ヲ管轄スル事	同丁
(九)	豫審ヲ要セサル輕罪事件ハ治安裁判所ニ於テ便宜ノ手續ニ依リ裁判シ得ル尤其手續ニ付テハ上訴ヲ許サ、ル事	同丁
(十)	豫審ヲ要スル輕罪事件ニテモ或ル治安裁判所ニテハ便宜ノ手續ニ依リ裁判シ得ル事	同丁

- (十) 伊豆七島小笠原島裁判事務行政官ニ委任ノ事 百五丁
- (十一) 糠戸、空知、釧路、築治監ノ囚徒ハ獄吏ニ於テ裁判シ其重罪事件ハ札幌、根室裁判所ニテ裁判スル事 同丁
- (十二) 軍籍ヲ脱シタル已決囚犯罪ノ節ハ地方裁判所ニ送付シ又全囚徒ハ地方監獄ヘ交付ノ事 百六丁
- (十三) 規則犯罪ノ違警罪ニ係ル裁判管轄(ハニナセ)ニ在リノ事 同丁
- (を) 書類送達裁判費用ニ關スル事
  - (一) 書類送達ハ治罪法第廿四條ノ制限ニ拘ハラサル事 百七丁
  - (二) 大審院ヘ送達スル上告書類ニ月日記載ノ事 同丁
  - (三) 監獄々舎ニ在ル被告人ニ係ル書類送達方ノ事 同丁
  - (四) 已決囚ニ係ル裁判宣告書寫ハ司獄官ヘ送達シ并ニ證人トシ呼出シ用濟ノ片全官ヘ報知ノ事 百八丁
  - (五) 重罪事件ニ付他ノ裁判所ヘ移サレタル場合ニ係ル書類送達方ノ事 同丁

- (六) 豫審判事ノ囑託ニ係ルモノ、外警察官ノ處分ニ屬スル費用ハ裁判費用ニ立タサル事 百九丁
- (七) 官吏職務上刑事證人トナリシ場合ニ係ル旅費日當請求方ノ事 同丁
- (八) 免訴無罪者ニ係ル裁判費用渡方ノ事 百十丁
- (九) 官ノ擔當ニ屬スル裁判費用ハ裁判所ヨリ支出ノ事 百十一丁
- (十) 司法警察官巡查證人トシテ呼出ノ片送達費ハ拂フニ及ハサル事 同丁
- (十一) 證人鑒定人等ノ旅費日當等ハ官廳ヨリ立換ニ及ハサル事 百十二丁
- (十二) 刑事ニ付戸長ヲ經テ送達スル書類ニ係ル賃錢ノ事 同丁
- (十三) 無資力違警罪ニ係ルノ外言渡書ノ謄本拔書ヲ求ムル費用ハ上納スヘキ事 百十三丁
- (十四) 前項違警罪ト雖モ正式ニ係ルモノハ其費用徴收ノ事 同丁
- (わ) 告訴告發證據搜查豫審ニ關スル事
  - (一) 支廳ノ管轄ニ屬スル告訴告發取扱方ノ事 百十三丁
  - (二) 自告罪ニ係ル告訴ノ棄權効力ノ事 百十四丁

- (三) 郵便犯則ハ告發ニ併セテ不足稅徵收ノ請求ヲ受理スヘキ事 百十五丁
- (四) 雇員官吏ノ資格ニテ告發スルハ治罪法第九十六條ニ從フ事 百十六丁
- (五) 治罪法第九十六條ニ依リ告發スル官吏ハ要償ノ責任ヲ負ハサル事 百十七丁
- (六) 豫審ノ證據ハ其充分ナル旨ヲ記載セハ充分ナル事 百十八丁
- (七) 戶長役場備付ノ書類差押方ノ事 百二十丁
- (八) 治罪法第二百六十一條ニハ事實及法律ノ兩證據ヲ包含スル事 百二十一丁
- (九) 訴訟關係ノ書類ニハ豫審判事ニ於テ年月日番號ヲ付シ認印ノ事 百二十二丁
- (十) 司法警察官ノ集會監臨ノ事件ニ係ル調書ノ効力ノ事 百二十三丁
- (十一) 解剖ハ檢事ノ許可ヲ要スル事 百二十四丁
- (十二) 司法官ニ移ス迄ノ檢視處分ハ行政事務ニ屬スル事 同 丁
- (十三) 稅則ニ係ル搜查ハ租稅官吏モ爲スヲ得及ヒ之ヲ拒ム者アルモ強テスルノ權アル事 百二十五丁
- (十四) 犯罪搜查及豫審終結方ノ事 同 丁

(か) 警部巡查憲兵并官吏呼出ニ關スル事

- (一) 治安裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開クハ警部ニテ檢事ノ職務代理ノ事 百二十六丁
- (二) 巡查ニテ警部ノ代理ヲ爲シ又其代理中取扱ノ事件ニ付テハ裁判上渾テ警部ト全權ノ事 百二十七丁
- (三) 憲兵ノ將校下士ハ司法警察官卒ハ巡查全權ノ事 百二十八丁
- (四) 調書ヲ作りシ司法警察官ヲ證人トスルハ報知書ニテ出庭セシメ書記ノ次席ニテ陳述ノ事 同 丁
- (五) 治罪法第九十六條其他總テノ官吏職務上ニ關スル事件ニ付呼出方ノ事 同 丁
- (六) 司法警察官公務時間外ニ係ル職務責任即刑法二百七十七條ニ關スル(ハニ)事 同 丁
- (よ) 令狀ニ關スル事
- (一) 勾引狀ニ係ル訊問期限ノ夜間留置ノ事 百二十八丁
- (二) 勾引狀ノ期限ニ休暇日ヲ算入セサル事 百二十九丁

- (三) 勾留狀ノ期限經過スルモ公判ニ付シタル上ハ其効力ヲ失ハサル事 同 丁
- (四) 司法警察官ニ於テ令狀ヲ發シ得ル事 百三十丁
- (五) 司法警察官ノ發付スル令狀中ニ收監狀ヲ含有シ及收監表差出方ノ事 同 丁
- (六) 司法警察官ノ發付スル收監狀ニ係ル程式ノ事 百三十一丁
- (七) 公使館雇ノ内國人ニ對スル令狀發付方ノ事 百三十二丁
- (八) 豫審ヲ要セサル體刑ノ輕罪ニ付テハ呼出狀發布前ニ令狀ヲ發シ得ル事 同 丁
- (九) 體刑ニ該ル事件ニ付豫審終結前ニ收監狀ヲ發シ得ル事 百三十三丁
- (十) 他管ニ令狀ヲ帶行スルハ急速事件人相書ニテ搜查逮捕ヲ請求スルハ重大事件ニ限ル事 百三十三丁
- (十一) 犯人ノ携帶スル三歳以上ノ小兒引渡(附十五)方ノ事 同 丁
- (十二) 逃走ノ已決囚ニ對スル令狀ハ檢事又ハ警部ニテ發スル事 百三十五丁
- (十三) 前項ノ令狀發付方手續及ヒ其逮捕ヲ囑托スルハ潛匿通過スヘ

＊地ニ限ル事

- (十四) 已決囚ニ對スル令狀發シ方及其送致方(參三)ノ事 同 丁
- (十五) 軍人軍屬ノ未已決囚逃走シタル節捕縛方ノ事 同 丁
- (十六) 治罪法第百三十五條ニ依リ發スル人相書々式ノ事 百四十四丁
- (十七) 諸令狀様式ノ事 同 丁
- (十八) 令狀ノ料紙半紙ヲ用フルモ妨ケナキ事 百五十八丁
- (た) 賣付保釋ニ關スル事
- (一) 賣付手續ノ事 百五十八丁
- (二) 保釋賣付中被告人取締方ノ事 同 丁
- (三) 司法警察官ニ於テ賣付ヲ爲シ得ル事 百五十九丁
- (四) 上告中原裁判ノ刑期經過スルト否トニ拘ハラズ保釋賣付ヲ爲シ得ル事 百六十一丁
- (五) 保釋賣付ハ他ノ裁判所ヘ移サレタル場合ト雖モ當然取消ト爲スヘカラサル事 同 丁

(九) 囑託處分ニ關スル事

- (一) 治安判事ニ囑託シ得ル事件ハ司法警察官ニモ全權ノ事 百六十二丁
- (二) 樺戸、空知、釧路、在囚ニ訊問ノ事件ハ司獄官ニ囑託シ得ル事 同 丁
- (三) 證據物品管轄地外ニ在ルル送致方囑託ニ關スル事 同 丁
- (四) 陸軍々法會議ニ於テ實地取調方ヲ司法官警察官ニ囑託シ得ル  
(三在リ)事 同 丁
- (五) 檢事分局へ被告人送致後證據取調等司法警察官ニ囑託シ得ル事 百六十三丁
- (六) 辨護人ニ關スル事
- (一) 辨護人ヲ用ヒサル裁判モ有効ノ事 同 丁
- (二) 宣告ノ日辨護人出庭シ難キルハ其資格ヲ有スル者ヲシテ代人タ  
ラシムル事 百六十四丁
- (七) 控訴上告哀訴再審及刑ノ執行ニ關スル事
- (一) 輕罪控訴規則ノ事 百六十五丁
- (二) 控訴裁判ノ執行ハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テシ及其所在地

ノ監獄署ニテ服役セシムル事

- (三) 甲地ノ在囚ハ控訴ノ爲メ一時乙地ニ送致セシモ控訴ノ刑輕キル  
ハ甲地ニテ執行ノ事 百六十八丁
- (四) 檢察官私訴ノ裁判ニ立會ハサルモ背法ニアラサルヲ以テ越權ト  
シテ控訴スルヲ得サル事 百六十九丁
- (五) 上告中他ノ犯罪アルルキハ其裁判ヲ俟タヌ裁判シ并其刑期起算方  
ノ事 同 丁
- (六) 罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ノルハ其十分一ノ金額納置  
ノ事 百七十丁
- (七) 上告後被告人取消願ヲ出シタル節開屆方ノ事 同 丁
- (八) 上告ノ末全部破毀セラレタル場合ト雖モ私訴ニ對シ何等ノ申立  
ナキルハ更ラニ其裁判ヲ爲スニ及ハサル事 百七十一丁
- (九) 哀訴ハ代人アル場合ノ外爲スヲ得サル事及其期限ノ起算裁判  
ノ執行方ニ關スル事 百七十二丁



- (十) 再審ノ訴ハ檢察官モ爲シ得ル事 百七十四丁
- (十一) 罰金料ノ納入各地ニ散在スルルハ其徵收方他ノ裁判所ニ囑托ノ事 百七十五丁
- (十二) 追徴金不納者ニ係ル身代限ハ總テ民事ノ規則ニ從フ事 同 丁
- (十三) 罰金ヲ換ヘタル禁錮十日以下ナルルハ警察署留置場ニテ執行シ得ル事 同 丁
- (十四) 病氣ニ依リ死刑ノ執行停止ヲ決スルハ檢察官ノ指揮ニ在ル事 百七十六丁
- (十五) 死刑ヲ受ケタル者ノ上告哀訴ニ係ル宣告文ヲ犯由牌ニ記載方ノ事 同 丁
- (十六) 死刑者ノ犯由牌榜示方ノ事 百七十七丁
- (ね) 犯罪處分ノ報告ニ關スル事
  - (一) 刑事裁判言渡ヲ本籍ニ通知スル(廿十二ニ在リ)事 百七十八丁
  - (二) 勳章褫奪ハ前項ノ通知ニ併セ通報スル事
  - (三) 帶動者ニ公權褫奪停止ヲ言渡シタルルハ勳章等ヲ添ヘ司法省ヘ

- (四) 屈出ノ事 同 丁
- (五) 喪章ヲ沒收スヘキ場合モ前項ニ準スル事 百七十九丁
- (六) 官吏及ヒ陸海軍恩給例其他ニ依リ恩給ヲ有シ又ハ退隱扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ處分シタルルハ司法省ヘ屈出ノ事 同 丁
- (七) 陸海軍恩給例ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ公權ヲ褫奪停止シタルルハ大藏省ヘ通牒スヘキ事 同 丁
- (八) 前項ノ處分ヲ受ケタル者アルルハ管轄廳ヨリ内務省ヘ屈出ヘキ事 百八十丁
- (九) 華族ヲ拘留シ又ハ處刑シタルルハ宮内省ヘ通牒スヘキ事 同 丁
- (十) 船長運轉手機關手罪ヲ犯シ輕重罪ノ刑ニ處シタルルハ農商務省ヘ屈出ヘキ事 同 丁
- (十一) 醫師ノ業體ニ關スル犯罪處分ノ節ハ内務省ヘ通牒スル事 百八十一丁
- (十二) 軍籍ニ在ル者地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルル其通報(廿七ニ在リ)方ノ事

- (十二) 軍籍ニ在ル者賭博犯處分ノ節通報(在リ八ニ)方ノ事 百八十二丁
- (十三) 陸軍常備下士卒違警罪處分ノ由本人所管ニ通知スヘキ(在リ九ニ)事 百八十四丁
- (な) 違警罪ニ關スル事
  - (一) 違警罪即決例ノ事 同 丁
  - (二) 違警罪ノ再犯加重ハ裁判所ノ管轄ニ依ルヘキ事 百八十五丁
  - (三) 即決處分ハ他府縣ヘ囑托シ得ル事 同 丁
  - (四) 正式裁判ニ係ル訟廷内治罪手續ハ治罪法ニ從フヘキ事 同 丁
  - (五) 豫審終結并大審院ニテ移サレタル事件ハ即決裁判ヲ經サルモ違警罪裁判所ニテ受理スル事 同 丁
  - (六) 檢察官告訴告發其他ノ理由ニ依リ認知シタル違警罪事件ハ警察官ヘ送致スヘキ事 百八十六丁
  - (七) 規則犯罪ニシテ違警罪ニ當ルモノハ警察署ニテ裁判スル事 同 丁
  - (八) 地方違警罪ヲ設ケタルルハ主務省ヘ届出ヘキ事 百八十七丁

- (九) 警察署管轄司法省ヘ届出ヘキ事 同 丁
- (十) 刑法ニ正條アルモ害少ク且惡意ナキモノハ地方違警罪目ニ設ケテ問フモ妨ケナキ(在リ十三)事
- (十一) 陸軍常備下士卒違警罪處分ノ由本人所管ヘ通知スヘキ(在リ九ニ)事 百八十八丁
- (ら) 印章ニ關スル事
  - (一) 判事檢事書記ノ印章ノ事 同 丁
  - (二) 各裁判所ノ印章ノ事 同 丁
  - (三) 治安裁判所ニ輕罪裁判所ヲ關クルハ其管轄輕罪裁判所又ハ支廳ノ名ヲ用ヒ其印ヲ捺スル事 百九十丁
- (む) 書記局訟廷使丁ニ關スル事
  - (一) 書記局其他訟庭ノ掌職心得ノ事 百九十一丁
  - (二) 罰金科料裁判費用及沒收物品ノ徵收ハ書記局擔當ノ事 同 丁
  - (三) 罰金科料徵收及民刑事其他預リ金取扱方ノ事 百九十二丁

(四)	檢察官ニ於テ要ムル裁判所ノ命令書及言渡書ノ謄本等ハ書記局ニテ作ルヘキ事	百九十三丁
(五)	使丁規則ノ事	同 丁
(ろ)	雜	
(一)	大審院各裁判所公庭取締ノ爲メ巡查ヲ派遣スル事	百九十六丁
(二)	巡查兵員要求使用方ノ事	同 丁
(三)	氏名詐稱鑑札ヲ受ケタルハ即時犯ナル事	同 丁
(四)	連續犯罪ノ事	百九十七丁
(五)	裁判傍聽席ノ事	百九十九丁
(六)	欠席裁判ニ係ル刑期並改障期限ニ關スル事	同 丁
(七)	被告人所在ノ監倉異ナルニ依リ面接願ヲ許可スル裁判官ニ區別アル事	二百 丁
(八)	期滿免除ト舊惡減免例圖トニ關スル事及其私訴裁判管轄ノ事	二百一丁
(九)	司法警察假規則附錄ニ關スル事	二百三丁

監獄ノ部

(十)	府縣會議員ノ拘引ニ付議長ノ承諾ヲ要セサル事	二百六丁
(十一)	東京始審裁判所ニ檢事分局設置及其事務取扱心得ノ事	同 丁
(十二)	警視廳部内ノ司法警察官事務取扱心得ノ事	二百七丁
(ろ)	全般ニ關スル事	
(一)	監獄則ノ事	二百十一丁
(二)	築治監ヘ入ルヘキ囚徒及其費用區分ノ事	二百四十五丁
(三)	右費用管理方ノ事	二百四十六丁
(四)	無期徒刑ノ女囚地方監獄ニ留置及其費用ノ事	同 丁
(五)	軍籍ヲ脱シタル已決ノ囚徒地方監獄ヘ交付 <small>(ニ在リ)</small> ノ事	同 丁
(六)	沖繩縣人民徒流刑處分方ノ事	同 丁
(七)	假留監設置ノ事	同 丁
(八)	假留監設置ト雖モ監獄則第五十八條ノ報告ハ舊ニ依リ爲ス事	同 丁

- (九) 覆面及罰具ノ事 二百四十七丁
- (十) 在監人ノ食料増減ニ關スル事 同 丁
- (十一) 舊律ニ依テ處分セラレタル者ニ與フヘキ工錢區分ノ事 同 丁
- (十二) 懲役終身囚無期刑ニ處セラレタル場合ニ係ル囚籍記載及懲罰方ノ事 二百四十八丁
- (十三) 囚徒ノ怠慢等ハ獄則ニ依テ處罰スル事 同 丁
- (十四) 別房留置者犯則ノ節處罰方ノ事 二百四十九丁
- (十五) 無籍及ヒ引取人ナキ三歳以上ノ小兒ハ別房ニ留置ノ事 同 丁
- (十六) 無籍在監人ニ係ル就籍處分方ノ事 同 丁
- (十七) 入監ノ際隱匿シタル書類及實印ハ沒收セサル事 二百五十丁
- (十八) 囚徒ノ預リ貨幣引換ニ係ル事 同 丁
- (十九) 死刑執行迄未決監ニ拘留シ及ヒ執行ノ際獄衣着用ニ及ハサル事 二百五十一丁
- (二十) 刑死者及死亡者ノ遺骸解剖ニ關スル事 同 丁
- (廿一) 囚徒ノ死亡ハ變死ノ外届出ニ及ハサル事 二百五十四丁

(廿二) 別房留置ノ監視人司獄官吏ニテ監督(廿九ニ在リ)ノ事

(の) 囚人送致ニ關スル事

- (一) 囚人護送傳遞方ノ事 二百五十四丁
  - (二) 被告人ヲ他ノ監倉ニ移ス場合ニ係ル手續ノ事 二百五十六丁
  - (三) 宣告後犯人ヲ司獄官へ護送ノ節ハ宣告書寫ヲ添ヘキ事 二百五十七丁
  - (四) 檢證ノ爲メ囚人ヲ連行スルルハ警察署へ護送方通知スヘキ事 同 丁
  - (五) 右ノ節ハ巡查ヲシテ護送セシムヘキ事並其費用ハ警察費ヨリ支辨ノ事 同 丁
  - (六) 徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒送致方并聯合府縣ノ事 同 丁
  - (七) 終身懲役ニ處セラレタル者モ右達ニ依ルヘキ事 二百五十九丁
  - (八) 已決囚ヲ控訴院へ召喚中所在地監獄ニ押送留置及其費用ノ事 同 丁
  - (九) 海軍々人軍屬ノ犯罪者依頼ニ依リ警察署ニテ傳遞スル(廿ニ在リ)ノ事 同 丁
- (九) 假出獄及假出場ニ關スル事

- (一) 假出獄停止手續ノ事 二百六十丁
- (二) 前項書式中證票ヲ紛失シタル者ニハ證票取上ノ四字ヲ省キ并ニ刑期ニ關スル事 二百六十二丁
- (三) 假出獄具狀方ハ所屬長官ヲ經由スル事 二百六十三丁
- (四) 舊法ニ處セラレタル者新法實施後重輕罪ヲ犯シタルルハ假出獄ヲ許サ、ル(ハ四ニ)在リ(ニ)ノ事 二百六十三丁
- (五) 假出場規則ノ事 二百六十三丁

陸海軍之部

- (一) 陸軍刑法ノ事 二百六十七丁
- (二) 陸軍治罪法ノ事 二百八十八丁
- (三) 海軍刑法ノ事 三百二丁
- (四) 海軍治罪法ノ事 三百二十六丁

(く) 刑法治罪法ニ關スル事

- (五) 新舊比照法(ハ三)ノ事 三百四十三丁
- (六) 軍衛ニ於テ處シタル罰金科料ハ直ニ換刑ノ處分ヲ爲シ得ル事 三百四十六丁
- (七) 陸軍々人軍屬違警罪處分例及海軍々人ノ違警犯憲兵ニテ處分ノ事 同 丁
- (八) 軍人常人役限内老病收贖及存留養親(ハ四ニ)ノ事 同 丁
- (九) 陸軍常備下士卒違警罪處分ノルハ本人ノ所管ヘ通知スヘキ事 三百四十七丁
- (十) 軍人ノ賭博犯ハ憲兵ニテ處分スル事 三百四十八丁
- (十一) 軍籍ニ在ル者賭博犯處分ノ節其通報方(ハ八ニ)ノ事 同 丁
- (十二) 砲工上等監護及樂長ノ犯罪ハ將校ト全ク處斷スル事 三百四十八丁
- (十三) 普通治罪法ト陸海軍治罪法ト交渉事件處分方(ハ一ニ)ノ事 同 丁
- (十四) 徵兵例違犯者裁判所管轄ノ事 三百四十九丁
- (十五) 海軍東京軍法會議并海軍東京監獄署條例ノ事 同 丁
- (十六) 鎮守府軍法會議并鎮守府監獄署條例ノ事 三百五十三丁
- (十七) 海軍東京軍法會議當分閉鎖其管轄事件ハ鎮守府軍法會議ノ審判ニ付スル事 三百五十七丁

- (十八) 海軍ニ係ル罪犯取扱及行刑ニ關スル手續方法ノ事 同 丁
- (十九) 陸軍犯罪取扱手續并書式ノ事 三百六十丁
- (二十) 海軍ニ於テ監視ニ付スヘキモノハ最近警察署ヘ送付シ其住居ナキモノハ監獄ノ別房ニ留置スル事 三百九十二丁
- (廿一) 陸軍軍人軍屬ニシテ監視ニ付セラレタルモノ東京囚獄ヨリ警察署ヘ護送ノ事 同 丁
- (廿二) 海軍軍人軍屬ノ犯罪者遠隔ノ地ヘ護送スルルルハ警察署ニ依頼シテ傳遞護送シ及其費用賠償方ノ事 三百九十三丁
- (廿三) 軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スヘキルハ主理辯明書ヲ訴訟書類ニ添ヘ所管長ヲ經テ大審院ヘ送付ノ事 同 丁
- (廿四) 陸軍軍法會議ニ於テ被告事件尋問ノ未實地取調ヲ要スルルルハ司法官警察官ニ囑托シ得ル事 同 丁
- (廿五) 舊軍律ニ依リ文武大小ノ官ニ補スルヲ禁セラレシモノ解禁方ノ事 三百九十四丁

(ろ) 憲兵ニ關スル事

- (廿六) 生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル被告人ハ十二月ヲ生月トスル事 同 丁
- (廿七) 軍籍ニアルモノ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルルル通知方ノ事 同 丁
- (一) 憲兵條例ノ事 三百九十五丁
- (二) 憲兵行政警察事務規程ノ事 四百三丁
- (三) 陸軍警察假規則ノ事 四百四丁
- (四) 海軍警察心得ノ事 四百十四丁
- (ま) 監獄ニ關スル事
- (一) 陸軍監獄署官吏服務概則ノ事 四百十五丁
- (二) 陸軍監獄則ノ事 四百三十丁
- (三) 海軍東京監獄署條例(ニ在リ)ノ事
- (四) 鎮守府監獄署條例(ニ在リ)ノ事
- (五) 海軍監獄則ノ事 四百三十八丁

表式ノ部

(け)

- (一) 各表并登記簿進達目錄凡例ノ事 四百五十七丁
- (二) 刑事裁判統計表并書例ノ事 四百六十六丁
- (三) 重輕罪公判登記簿徴收箇條書ノ事 四百八十四丁
- (四) 重輕罪登記簿書例并取扱順序ノ事 四百八十六丁
- (五) 重輕罪登記簿徴收箇條書補正ノ事 四百九十五丁
- (六) 特赦表ハ本省ニ於テ編纂ニ付差出ニ及ハサル事 五百八丁
- (七) 新聞及演説上ノ犯罪事件ニ係ル表式ノ事 同 丁
- (八) 違警罪即決表并ニ書例ノ事 五百十丁
- (九) 輕罪控訴事件表并書例ノ事 五百十八丁
- (十) 治罪法ニ依テ調製スル各罪事件表式ノ事 五百二十三丁
- (十一) 警察署ニ於テ審判シタル違警罪表式ノ事 五百三十八丁
- (十二) 前科取調方并既決犯罪表式ノ事 五百四十丁

(十三)	各罪事件表進達及備置方ノ事	五百四十四丁
(十四)	即決ニ係ル遊警罪事件表調製及登記方ノ事	五百四十五丁
(十五)	即決ニ係ル遊警罪控訴事件表調製方ノ事	五百四十六丁
(十六)	輕罪ニ係ル控訴事件表調製方ノ事	同 丁
(十七)	豫審上免訴ニ係ル故障事件表調製方ノ事	同 丁
(十八)	治安裁判所ニ開キタル輕罪裁判所ニ係ル檢事處分表調製方ノ事	同 丁
(十九)	法律上ノ減輕ニ依ル輕罪事件ニ係ル公判表編製方ノ事	五百四十七丁
(二十)	豫審中止ニ係ル事件表式記載上區別方ノ事	同 丁
(廿一)	重罪裁判所ノ取扱ニ係ル執行件數等報告方ノ事	同 丁
(廿二)	表記擔任者裁判官檢察官ニ質問ノ節應答方注意ノ事	五百四十八丁
(廿三)	刑事裁判表用紙調製本省ヨリ下渡ノ事	同 丁

參照ノ部  
(ふ) 裁判所ノ官制ニ關スル事



(一)	裁判所官制ノ事	五百四十九丁
(二)	同 處務規程ノ事	五百五十九丁
(三)	裁判所職員考績條例ノ事	五百六十七丁
(こ)	行政裁判ニ關スル事	
(一)	郡區戸長ニ對スル詞訟ヲ地方裁判所ニテ掌理スル事	五百七十一丁
(二)	前項ノ私訴取扱ニ關スル事	同 丁
(三)	人民ヨリ官府ニ對スル控訴ニ付テハ經伺ニ及ハサル事	五百七十四丁
(は)	民事ニ關スル事	
(一)	治安并始審裁判所權限ノ事	五百七十五丁
(二)	民事裁判ノ言渡ニ判定ノ理由ヲ明示スヘキ事	五百七十六丁
(三)	民事ノ裁判執行方ノ事	同 丁
(四)	民事上誤寫ニ起因スル失費辦償方ノ事	五百七十七丁
(て)	登記法ニ關スル事	
(一)	登記法ノ事	五百七十八丁

(二)	公證人規則ノ事	五百八十七丁
(三)	公證猶豫願手續消滅シ假差押ハ裁判所ニ請求ノ事	六百三丁
(四)	抗告手續ノ事	六百四丁
(五)	登記所ノ位置及管轄區域ノ事	六百六丁
(六)	登記ヲ乞フ手續ノ事	同丁
(あ)	代理人後見人ニ關スル事	
(一)	所屬代理人規則ノ事	六百九丁
(二)	代人差出方及其制限ノ事	同丁
(三)	後見人職務權限ノ事	六百十丁
(さ)	外國人ニ關スル事	
(一)	警察上外國人取扱ニ關スル規則ハ内務省ヘ稟議スヘキ事	六百十丁
(二)	外國人ノ遵奉スヘキ行政規則ハ外務省ヘ叶議スヘキ事	六百十一丁
(三)	朝鮮人犯罪取扱方ノ事	同丁
(四)	各廳ヨリ各國公使ニ對スル公務ノ照會ハ外務卿ニ於テ爲ス事	同丁

- (五) 外國政府并外國人民ヨリ我政府ニ對スル訶詆ハ司法省ニテ取扱  
フ事 六百十一丁
- (六) 公使館員ニ係ル犯罪處分方(ラ九ニ)ノ事
- (七) 公使館雇ノ内國人ニ對スル令狀發付方(ヨ七ニ)ノ事
- (七) 内訓伺ニ關スル事 六百十二丁
- (一) 法律ニ關スル注意ヲ要スヘキ條件司法省ヨリ通牒ノ事 同 丁
- (二) 内訓條例ノ事 六百十三丁
- (三) 伺請訓等ノ書面ハ各事各條ニ記載スヘキ事 六百十四丁
- (イ) 雜
- (一) 司法警察ニ關スル細則ハ其地ノ檢事ヘ叶議ノ事 同 丁
- (二) 傍聽禁止ニ係ルモノハ其以前ノ辯論モ新聞紙ニ記載スヘカラサ  
ル事 同 丁
- (三) 新聞持主編輯人體刑ニ處セラレ上告保釋中モ其新聞紙ニ署名シ  
得ル事 同 丁

(四)	廢戶主并財産管理方ノ事	六百十五丁
(五)	府縣限リ布令スル條例裁判所ニ通牒及司法省へ届出方ノ事	六百十六丁
(六)	裁判所ヨリ管内一般ノ人民へ達方ノ事	六百十七丁

刑事要例類纂目錄終

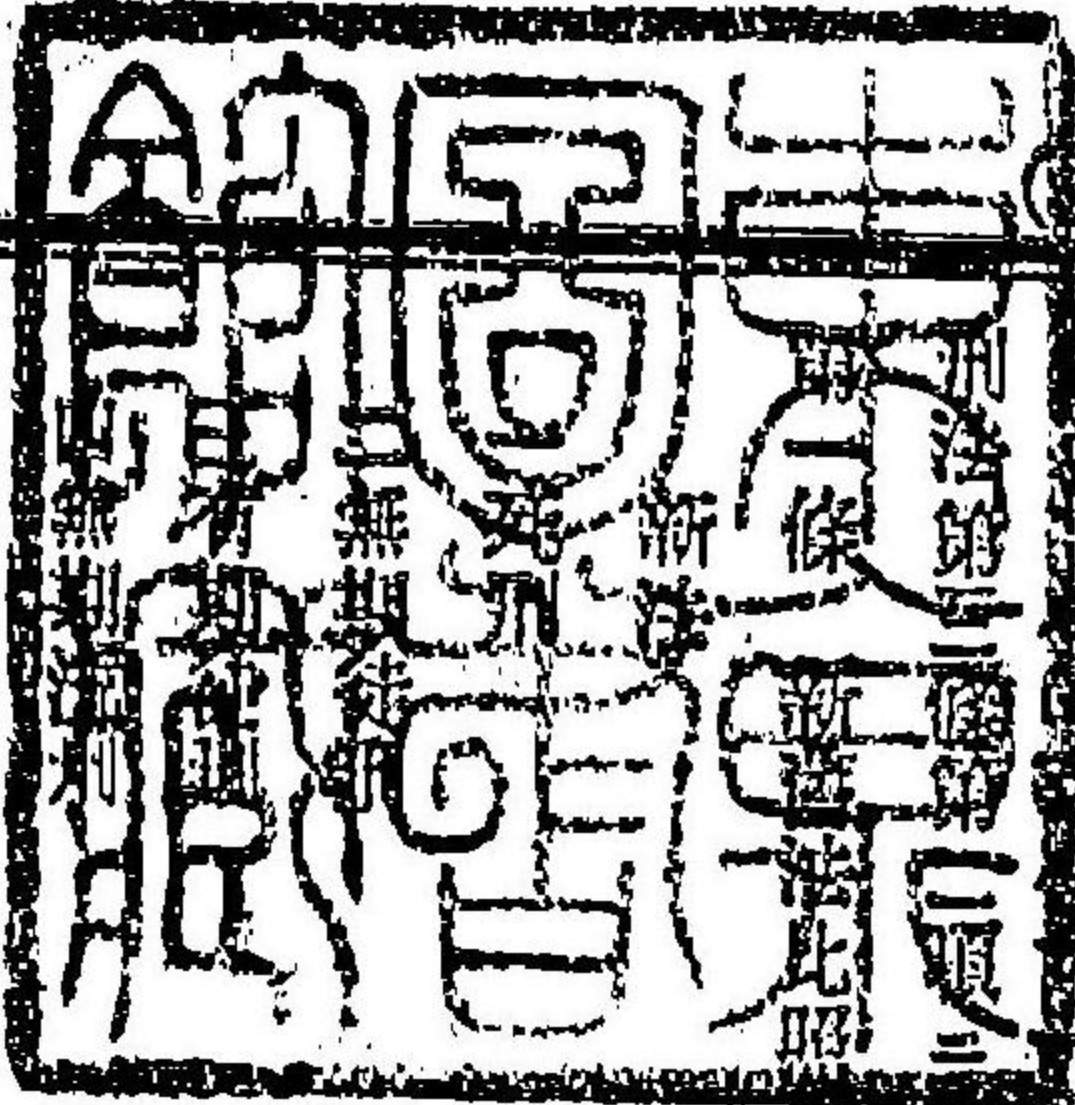
刑事要例類纂

刑法之部

(い) ○全般ニ關スル事

布告 十四年十二月廿

刑法第二條第二項ニ依リ新刑法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ  
新法 舊法  
無期 斬絞  
無期 懲役終身  
無期 禁獄終身  
無期 懲役十年  
無期 懲役七年  
無期 禁獄十年



- 五有期流刑
- 六重懲役
- 七輕懲役
- 八重禁獄

- 懲役終身
- 禁獄終身
- 懲役十年
- 懲役七年
- 禁獄十年

刑法ノ部 ○全般ニ關スル事

九輕禁錮

禁獄七年

十重禁錮

懲役十一年以下

十一輕禁錮

禁獄十一年以下

十二罰金

罰金二圓以上

十三拘留

拘留十日以下

十四科料

科料二圓未滿

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得

又舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等クシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從

フ 舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照ラシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過

ルコトヲ得ス 舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下

若シ舊法新法ノ刑其短期等クシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ於テニ

月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照シ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但

舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓

ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セ

ス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華土族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

布告 十四年十二月廿八日 第七十二號

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スル

(二)

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス  
但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

同 十八年十月一日水戸始審  
裁判所檢事ヨリ司法省へ

科料拘留ニ處ス可キモノ取扱ヒノ儀ハ明治十四年第七十二號<sup>(前)</sup>同年第八十號<sup>(一)</sup>一布告及ヒ明治十七年第四二一六號內訓等ニ資リ明治十五年一月一日前後御發布法律規則ヲ區分シ當廳若クハ地方警察署分署ニ於テ處分シ來リ候處本年第三十一號違警罪即決例<sup>(一)</sup>御發布正式ノ裁判ハ治罪法ニ從ヒ處辨相成候就テハ科料罪ノ儀ハ自今總テ同裁判所ノ管轄ニ歸シ隨テ右七拾二號布告第七條ハ自然消滅候儀ト相心得可然哉

(三)

指令 十八年十月  
二十四日

同ノ趣明治十五年已前頒布ノ法律規則中拘留科料ノ刑ニ該ルモノハ仍ホ從前ノ通十四年第七十二號公布ニ依リ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

布告 十五年四月八日  
第貳十號

舊軍律及ヒ普通刑法共ニ罪名アリテ所犯刑法施行以前ニ係ル者ハ本年一月第四號布告<sup>(一)</sup>ノ例ニ準シ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス可シ

但罰金科料ニ該ル者ハ明治十四年<sup>(二)</sup>第八拾壹號布告<sup>(一)</sup>ニ依ルヘシ

司法省達 十五年四月十四日丙第十三號大審院  
裁判所審視廳府廳(東京府ヲ除ク)へ

軍人軍屬役限内老疾收贖及存留養親ノ儀別紙ノ通陸軍省ヨリ太政官へ相伺ヒ朱書ノ通御裁令相成候條常人ニ付テモ右ニ照準處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候儀ト心得ヘシ

(別紙)

同 十五年二月  
十日

陸軍軍人軍屬ノ犯罪舊軍律ニ依リ流刑徒刑等ニ處スル者其刑期中ハ總テ普通懲役人同様ノ取扱ニテ即チ役限内老疾收贖及存留養親等願出候者ハ常律ニ照シ差許來候處新刑法ニ於テハ右等廢止セラレ候得共客年十二月以前既ニ願出調査中ニ係ル者ハ勿論其未タ願出サル者

(四)

及新律實施ノ後陸軍刑法第二條新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ舊法ニ處シタル者ハ自今以後ト雖モ總テ舊律ニ照シ處分致候方至當ト相考候間何分ノ御指揮有之度此段相伺候也  
(朱書) 十五年三月廿九日

伺ノ通

布告 十五年八月五日  
第三十七號

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

司法省達 十五年八月廿一日丁第四  
拾一號大審院裁判所へ

今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

太政官達 十五年八月十五日

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候儀ト

可相心得此旨相達候事

布告 十五年十二月廿  
八日第七十三號

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス憲兵卒ノ職務ニ對シ罪

ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

伺 十六年十一月廿日  
略照ヨリ司法省へ

第一條 雇員犯罪處分ノ義ニ付本年十月第四八二五號ヲ以テ御内訓ノ次第有之右ハ戸長役

(六) (五)

(一)

場筆生ノミナラス一般雇員ト雖モ官吏ノ行フヘキ職務ニ付テノ犯罪及ヒ他人ノ其職務ニ對シタル犯罪ハ總テ官吏ト同シク處分スヘキモノニ可有之依テハ官林看守人ノ如キモ其山林ノ竹木ヲ竊取シタルハ刑法第二百八十九條ニ依リ處分シ又其職務執行中即チ官林監視ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ看守人ニ抗拒シ或ハ其目前ニ於テ侮辱シタル者ハ刑法第三章第二節ノ各條ニ依リ處分スヘキ哉

第二條 一般雇員並官林看守人等官吏ノ職務 看守人ハ官林 監視ニ際シ 行フニ因リ重罪輕罪アルヲ

認知又ハ思料シタル時之ヲ告發スルニハ治罪法第九十六條ニ依ルヘキモノニ候哉

指令 十六年十月廿日

第一條 官林監守ノ如キハ官吏ノ行フヘキ職務ト爲サハルニ依リ監視人職務ニ付テノ犯罪

及職務ニ對スル犯罪ハ官吏ト同視シテ處分スルヲ得ス

第二條 一般ノ雇員ハ官吏ノ職務ヲ行フ場合ニ限り伺ノ通其他職務ヲ行フニ際シ重罪輕罪

アルヲ發見セシ時ハ當然告發ノ責任ハアルヘシト雖モ治罪法第九十六條ニ依ルヘキ者

ニ非ヌ山林監守人ニ付テモ亦同シ

ろ ○刑期計算ニ關スル事

伺 十七年十月廿一日大  
分縣ヨリ司法省へ

本年八月御省第三八一號内訓千葉縣同第一條ニ對シ云々御指令有之候處茲ニ明治四年七月

刑法ノ部 ろ○刑期計算ニ關スル事



廿一日準流十年ノ旨渡ヲ受ケ處刑中逃走外ニ在テ又犯罪ニ依リ同六年十二月十七日從新拘  
 役十年加役七十日ノ處刑中同十年四月二日再ヒ逃走セシニ依リ棒鎖二日ノ上懲役終身ニ處  
 ヒラレ服役中同囚ノ逃走ヲ報シタルニ依リ減一等懲役十年トナリタル者アリ右ハ千葉縣伺  
 ト事情相違ノ際モ有之候ヘハ矢張該内訓ニ基キ刑法第五十二條ニ從ヒ逃走棒鎖等ノ日數ヲ  
 除キ最前受刑ノ日明治四年七月廿一日ニ溯リ已ニ役過セシ日數四年三百十九日自明治四年七月廿一日至同六年二月十八日  
 十年四月一日日數三年百六十日合セテ本支ノ如シテ懲役十年ノ内ヨリ扣除シ刑期ヲ計算致  
 可然哉

指令 十七年十一月廿日

同之趣明治十年四月二日即チ懲役終身ノ宣告アリタル日ヨリ刑期ヲ起算スル義ト心得可シ

同 十六年十一月十二日  
茨城縣ヨリ司法省ヘ

刑ノ旨渡ヲ受ケタル者上告ヲナシ上告者ノ主意相立タルモ大審院ニ於テ原裁判ノ幾分ヲ  
 破棄セラレタル節ハ原裁判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキ義トハ思料候ヘ共其判決ニ服セ  
 ス哀訴ヲナシ棄却セラレタル節モ亦原裁判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ可然哉

指令 十六年十一月廿一日

同之趣裁判宣告ノ日ヨリ起算ス可シト雖モ大審院ニ於テ破毀ノ旨渡アリタル翌日ヨリ哀訴  
 棄却ノ旨渡迄ノ日數ハ除去スル義ト心得可シ

(二)

(三)

同 十六年十一月一日  
城縣ヨリ司法省ヘ

刑ノ旨渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シタル後檢察官ヨリ又附帶ノ上告ヲナシ然ニ大審院於  
 テハ二者ノ上告棄却シタリ右刑期ハ原裁判旨渡ノ日ヨリ起算シ可然哉法律ニ正條ナキヲ以  
 テ此段相伺候

指令 十六年十一月十日

同ノ趣後判宣告ノ日ヨリ起算スヘシ但上告期限内檢察官ヨリ上告シタルモノニ係ル時ハ前  
 判宣告ノ日ヨリ起算スル義ト心得ヘシ

請訓 十七年七月十七日和歌山縣  
 那賀縣所檢事ヨリ司法省ヘ

刑ノ旨渡ニ對シ被告人自ラ上告シ檢察官亦附帶ノ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ二個ノ上告共  
 ニ棄却セラレタルハ刑法第五十一條第一ノ後段ニ依リ後判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘ  
 キ儀ト存候ヘ共同上ノ場合ニ於テ被告人上告旨趣ハ原裁判ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラ  
 サルモ他ニ不法ノ點アルヲ以テ大審院之ヲ破毀シタルモ又ハ檢察官附帶上告ノ旨趣ニ依リ  
 原裁判ヲ破毀シタルモ到底原裁判不法ナリシモノニ付被告人ノ之ニ服セスシテ上告セシ  
 ハ不當ナリト爲シガタク且原裁判ノ破毀ト爲リタルハ畢竟被告人ノ上告ニ因ルヲ以テ此二  
 個ノ場合ニ於テハ刑法第五十一條第一ノ前段ニ依リ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキ儀  
 ト相心得可然哉

(四)

内訓 十七年七月三十日

別紙請訓之趣ハ見解ノ通此旨及内訓候也

請訓 十六年九月二十六日(京都始) 審判所檢事ヨリ司法省へ

第一條 刑法第四十九條ニ略一年ト稱スルハ曆ニ從フトアリ右ハ平年ハ三百六十五日閏年ハ三百六十六日ヲ以テ計算スル儀ニ有之候哉果シテ然ラハ一年ノ刑ヲ言渡サレタル者平年ト閏年ト岐リタルトキハ受刑ノ年ノ日數ニ從フ可キヤ滿限ノ年ノ日數ニ從フ可キヤノ疑關ナキ能ハヌ何トナレハ受刑ノ年ノ日數ニ從フ時ハ例セハ平年三月五日ニ一年ノ刑ヲ言渡サレ翌年閏年ナレハ翌年三月三日滿限トナリ閏年三月五日言渡サレタル時ハ翌年三月五日滿限六日ニ放免スヘキ者ニ相成又滿限ノ年ノ日數ニ從フトキハ平年二月十日ニ一年ノ刑ヲ言渡サレ翌年閏年ナルトキハ翌年二月十日滿限十一日放免スヘキモノニシテ初年閏年ナレハ翌年二月八日滿限ト相成刑期區々ニ涉リ不穩當ノ様ニ有之抑右曆ニ從フトハ十二ヶ月ヲ以テ計算スル儀ニテ平年閏年ヲ論セス當年三月五日ニ一年ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ翌年三月四日ヲ以テ滿限ト相心得可然哉

第二條 重禁錮一年ノ刑ヲ受ケタル者六十日役過シテ逃走シ捕ニ就キタル時ハ一年ノ日數三百六十五日ノ内ヨリ右六十日ヲ扣除シ殘ル三百五日ヲ更ニ役セシム可キ哉將タ已ニ役過セシ日數二月ナルヲ以テ一年ノ月數十二ヶ月ノ内ニテ二月ヲ扣除シ殘ル十ヶ月ヲ更ニ

役セシメ可然哉

内訓 十六年十月十三日

請訓ノ趣ハ第一條第二條共後段見込ノ通

伺 十六年十月廿六日(京都府ヨリ司法省へ)

本年九月廿六日付京都輕罪裁判所檢事請訓其第二條ニ重禁錮一年ノ刑ヲ受タルモノ六十日經過シテ逃走シ云々ニ對シ本月十三日付請訓ノ趣ハ第一條第二條トモ後段見込之通ト内訓前有之候處當府ニ於テハ刑法第四十九條ニ據リ斯ノ如キモノハ一年ノ内ヨリ六十日ヲ扣除シ殘ル三百五日ヲ執行致來候處右内訓ノ通ニテハ一年ノ刑ヲ受タルモノ六十日經過シテ逃走スルモノハ其逃走スルカ爲メニ已ニ確定シタル裁判ノ刑期五日ヲ減縮スル儀ニテ稍不穩當ニ被考候如何相心得可然哉

指令 十六年十一月八日

伺ノ趣曆ニ從ソトハ一年ヲ三百六十五日トスルニ非スシテ曆ノ年月日ニ從ヒ計算スルヲ云フ即チ年ノ平閏ニ拘ハラヌ禁錮一年ニ處セラレタル者本年十一月一日ヨリ執行シタルハ明年十一月一日ニ之ヲ放免ス若シ明年一月二日ニ逃走シ同五月一日ニ捕ニ就キタルハ明年四月卅日マテヲ一年ト假定シ其内ヨリ前ニ執行ヲ經タル二ヶ月一日ヲ扣除シ平年ナルハ明後年二月廿七日ヲ以テ滿期トス依テ京都始審裁判所檢事會根藏藏へ前訓示ノ通心得

刑法ノ部 刑罰計算ニ關スル事

(五)

へん  
同 十六年九月十四日石川縣ヨリ司法省へ

爰ニ詐欺取財ノ犯罪人アリ其所在不分明ニ付甲地裁判所ニ於テ八月四日欠席ノ儘重禁錮三月罰金四圓監視六ヶ月ヲ言渡サレタリ然ルニ本犯ハ乙地ニ於テ毆打創傷事件ニ付七月廿五日全地監獄署ニ勾禁セラレタル事甲地裁判所へ相知レ八月十七日右欠席裁判言渡書ヲ乙地へ送致シタルヨリ即日本犯ニ告示シタリ然ル處全月廿七日乙地裁判所ニ於テ毆打創傷事件ト前罪詐偽取財ト二罪俱發一ノ重キニ問ヒ重禁錮二年ノ刑ニ處セラレタリ右刑期計算方後判二罪ヲ併セヨル處分ナルヲ以テ前判ニ不關後判言渡ノ日ヨリ起算候義ニ候哉又欠席裁判言渡ヲ聞知セシ八月十七日ヨリ起算シ後判ノ刑ニ併テ重禁錮二年ヲ執行候義ニ候哉

指令 十六年九月廿六日

後段何之通

司法省書記官通牒 十六年三月三十日各裁判所へ

裁判執行上刑期計算方ノ義ニ付神戸輕罪裁判所洲本支廳檢事代理檢事補江口三郎ヨリ甲號ノ通伺出タルニ依リ乙號ノ通り御指令相成候間爲御心得此段及御通牒候也

(甲號) 同 十六年三月一日

茲ニ竊盜事件ノ裁判言渡ヲ受ケタル被告人其言渡ヲ不當トシ上告申立タル未治罪法第四百

(六)

十七條ノ期限ヲ失シ趣意書差出セシモノアリ素ヨリ尋常上告ト全權大審院ノ判決ヲ經ルハ勿論ニ候モ前段法律上ノ期限ヲ失セシニヨリ裁判言渡ハ已ニ確定セシモノニシテ其執行ハ停止スヘカヲサルモノト思考致シ候然ルニ當時檢察官ニ於テ右告ノ爲メ之カ執行ヲ停止スル數日ニ及候處其果シテ停止スヘカヲサルモノトモハ今之ヲ執行スルニ當リ前停止ノ日數ハ刑期ヲ算セヌ目下執行ノ當日ヨリ起算スヘキ義ニ候哉將々全法第四百十七條ノ期限ヲ經過シタル日ヨリ起算スヘキ義ニ候哉

(乙號) 指令 十六年三月廿七日

何之趣治罪法第四百十七條ノ期限ヲ經過シテ趣意書ヲ差出シタルモハ原裁判所ニ於テ其上告ヲ却下シ其刑期ハ却下ノ日ヨリ起算スヘシ

司法省内訓 十五年十月二十八日大審院判所管視廳府廳(東京府ヲ除ク)

上告趣意書ヲ差出シタル后五日內ニ其取消ヲ願出ツル者刑期起算方ノ義ニ付長崎縣令内海忠勝ヨリ別紙甲號ノ通伺出候處乙號ノ通指令及候條爲心得此旨及内訓候也

(甲號) 同 十六年六月

上告書類趣意書差出シ后其期限五日內ニ取消ヲ願フ時期限ハ宣告ノ日ヨリ起算スヘキヲ御指令ヲ乞フ

(乙號) 指令 十六年六月

(八)

本月十六日附電信何ノ件被告人上告ヲ爲シタル場合ニ於テ上告書類未タ大審院ニ送致セサル前其願下ヲ申出タルハ原裁判所長之レヲ開屆其開屆ノ日ヨリ刑期ヲ起算ス  
同 十六年六月二十一日  
京都府ヨリ司法省へ

茲ニ一人ノ未決監ニ收監セラレ審理中餘罪發シテ又收監狀ヲ發セラル、モノアリ而シテ第一ノ所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲナシ數日ヲ經テ第二ノ所爲ニ對シ放免ノ言渡ヲナシ又ハ刑ノ言渡ヲナスモノアリ此場合ニ於テハ未決監ニ收監中ト雖モ第一ノ刑期ハ刑法第五十一條ノ通計算シ可然哉前顯果シテ何ノ通ナルルハ已決囚ニシテ餘罪發シテ未決監ニ收監セラル、ハ其餘罪ノ罪トナルト否トヲ論セヌ其日數ハ刑期ニ算入スル義ト心得可然哉

附令 十六年六月三十日

何ノ通

請訓 十六年八月廿日水戸始審  
裁判所檢事ヨリ請訓摘要

第二條 檢察官ノ上告ニ係リ保釋ヲ得タル犯人又罪ヲ犯シ審問ノ爲メ拘留セラレ尋テ刑ノ言渡ヲ受テ其執行ヲ終リタル後上告ニ係ル事件判決トナリ其刑重キヲ以テ已ニ役過スル日數ヲ控除スル時右審問ノ爲メ拘留セラレタル日數モ亦刑期ニ通算スハヤ哉刑法第五十一條第二項上告中拘禁ヲ受ケタル日數ヲ刑期ニ通算スルハ畢竟犯人原裁判ニ服從シ上告中原裁判言渡ノ爲メ拘留セラル、ハ犯人ノ自ラ求ムル處ニアラサルヲ以テノ故ナラン然

(十)

ラハ則上告中他ノ犯罪ノ爲メニ拘留セラル、ハ素原裁判言渡ニ因ルニアラス毫モ上告ノ事件ニ關セサルモノニシテ即犯人自ラ求ムル所ナリ尋常上告中拘留セラレタルモノトハ大ニ性質ヲ異ニシ其日數ハ刑期ニ通算スヘキモノニアラサル様思考致候へ共疑義ニ涉リ候條此段仰御内訓候也

内訓 十六年九月十八日

第二條 前段見解ノ通

請訓 十六年九月二十六日山形始審  
判所米澤支廳檢事ヨリ司法省へ

例ハハ茲ニ重禁錮三月ニ處セラレタル者アランニ該言渡檢事ノ上告ニ係リ其后滯監二月ニシテ保釋ヲ許サレタリ然ルニ保釋中餘罪發覺シ又ハ更ニ罪ヲ犯シタルヲ以テ大審院ノ判決ヲ待タス直ニ重禁錮五月ニ處スルノ裁判言渡アリタル場合ノ如キハ上告ニ係ル事件ノ刑期ニ拘ハラス其執行ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ被刑者ハ前裁判ニ於テ已ニ二月ノ滯監アルヲ以テ此滯監二月ヲ扣除シ執行官ハ餘ル三月ノ執行ヲ爲スヘキ哉將タ上告ニ係ル事件ト本件トハ全ク別物ナルニ依リ之ヲ扣除スルノ限ニアラサルヤ若シ扣除スヘカラサル者トセハ後發ノ罪ニ依リ受ケタル刑執行済ノ后大審院ニテ上告ヲ棄却セラレ又ハ前判ノ刑期ヨリ輕キ重禁錮二月ニ處スルノ言渡アリタルルノ如キハ前後併セテ七月ノ拘束ヲ爲スニ至リ被刑者ニ於テハ其不利尠少カラヌ且刑法第百二條ノ精神ニモ戻ル様被考疑義決兼候條此段請訓

(一十)

(二十)

候也

内訓 十六年十月九日

請訓ノ趣前段見解ノ通

司法省書記官通牒 十六年三月二十九日大審院 裁判所附録(東京府ヲ除ク)

監視日數起算方ノ義ニ付別紙甲號ノ通り警視總監樺山資紀ヨリ伺出乙號ノ通御指令相成候間爲御心得及御通牒候也

(甲號) 伺 十六年三月十四日

刑法第五十一條第一項犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナルキ及第二項檢察官上訴ノ場合ニ係ル刑期計算法ハ例セハ爰ニ十六年三月一日重禁錮三ヶ月監視六ヶ月ニ處セラレタル犯罪事件ニ付上訴ヲ爲シ八月一日更ニ重禁錮一ヶ月監視六ヶ月ニ處セラレタル前判宣告ノ日即チ三月一日ヨリ刑期ヲ起算スル義ニ可有之因テ其監視ハ刑法第四十條第一項ニ據リ主刑ノ終リタル日即三月三十一日(滯獄中)ヨリ起算シ執行致來候且又客年十月三日内務卿へ監視中ノ者嫌疑ノ際ヲ以テ檢事へ引渡シタル末豫審廳ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケタルキハ滯獄日數即チ警察署へ引渡ノ當日ヨリ免訴ノ言渡ヲ受ケタル日マテヲ監視限内へ算入可致哉ノ伺ニ伺ノ通ト指令相成候ニ付旁前顯ノ如ク確信致居候處本年一月八日字和島輕罪裁判所ヨリ御省へ重禁錮三ヶ月監視六ヶ月ニ處セラレタル犯罪事件ニ付檢事ヨリ上告ニ及ヒ大審院ニ

(一)

於テ上告ヲ棄却シ上告中主刑滿限トナリタル場合ニ於テ監視日數起算方伺ニ出監ノ日ヨリ起算スヘキモノトスト御指令有之候ニ付疑義相生候條至急何分ノ仰御指令候也

(乙號) 指令 十六年三月廿七日

伺之趣拘留中ノ日數ヲ主刑期限ニ算入スヘキ場合ハ附加刑ナル監視ノ期限ニモ亦算入スル儀ト心得ヘシ

但シ本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候事

(は) ○贓物及沒收ニ關スル事

○司法省内訓 十六年一月大審院 裁判所附録

新法實施以前ノ犯罪實施後處斷スヘキ者徵償處分ニ付天草治安裁判所長判事三田昇馬ヨリ熊本始審裁判所長代理判事宮原前之ヲ經由シ甲號ノ通伺出タルニ依リ乙號ノ通及指令候條爲心得此旨及内訓候也

(甲號) 伺 十五年十二月

新法實施以前ノ犯罪ニシテ實施後發覺シタル時賠償處分被害者ノ請求賠償手續ハ刑法第二章第四節徵償處分明治十四年第六十七號布告第五章賠償處分法ニ從フト雖モ強竊盜詐欺取財等ノ舊法贓罪ニ係ルモノ、贓物已ニ費用ニ關スル分新法賠償法(第五章第六十二條第六十三條)ニ從フ時ハ法ノ既往ニ溯ルヲ覺テ依テ明治七年第二十八號本省御達ニ依リ本犯資

刑法ノ部 は○贓物及沒收ニ關スル事

力限り追徴ニ止メ可然哉

(乙號) 指令

伺ノ趣新法實施以前ノ犯罪ニシテ本年ニ至リ處断ス可キ事件ニ附帶スル贓物ノ返還損害ノ賠償ハ舊法一時ノ追徴例ニ依ラヌ總テ新法ニ依リ處分スル儀ト心得可シ

司法省達 十五年六月廿六日丙第二十四號大審院裁判  
所警視廳府廳(東京府ヲ除ク)東京憲兵本部へ

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉讓シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ沒收スヘキモノ若クハ證據ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アル迄其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クコトヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

請訓 十六年九月十七日經罪裁  
判所檢取ヨリ司法省へ

刑法第四十二條同第四十八條末項ノ旨趣ハ渾テ現ニ得ル贓ヲ指稱スルモノト了解罷在候處客年七月當裁判所ニ於テ贓金ヲ以買取シタル物品ヲ沒收セリ然ルニ當時檢事代理ハ之ヲ不當トシ被害者ヘ下付ヌヘキ趣意ヲ上告ス大審院ハ本年七月上告ノ如ク第四十八條ニ據リ裁決アリ右ハ凡ソ裁判例トナルヲ以テ之ニ倣フハ勿論ト雖大ニ疑團不少抑金ハ品ニ變化スルモ猶間接ノ贓トシ品ハ金ト同視スルモノトモ何度其種質ヲ變スルモ同ク原贓ト同視セサルヲ得ン爰ニ一例ヲ舉ケンニ農中吉商乙吉カ賣品タル反物數十ヲ盜ミ以農用牛馬數頭ヲ所

(二)

(三)

(四)

有セハ之ヲ押收シテ乙吉ニ還付スヘシ然ルニ被害者タルモノ、常情ハ素ヨリ原贓ノ返還若クハ相當ノ要償ニ可有之右牛馬ヲ還付セラル、如キハ迷惑僅少ナラザレハ之ヲ辭退セシニ判官ハ已ニ押收還付ノ宣告ヲナシタルハ如何トモスヘカラス其他言ヘカラサル障害アルニ至ラン右ハ法理上甚ダ了解致兼候間何分ノ御訓示ヲ仰ヤ候也

內訓 十六年十一月二日

請訓ノ趣贓金ヲ以テ買取シタル物品ハ勿論贓物ト交換シタル物品ト雖モ仍ホ贓物トシテ處分ス可キモノトス但還付ノ處分ヲ受クルモ被害者ニ於テ其物品ヲ領收セスシテ別ニ損害ノ賠償ヲ求ムルハ其隨意ナリトス此旨及內訓候也

伺 十六年九月八日板  
本縣ヨリ司法省へ

置捨品中贓物其他犯罪ノ證據トスヘキ物件アリ警察官ヨリ之ヲ檢事ニ送致セシニ犯人未タ捕ニ就カスシテ公訴期滿免除ノ期限ヲ經過シタルキハ其物品ハ行政官ノ處分ニ屬スルモノニ候哉果シテ行政官ノ處分ニ屬スルモノトモハ前顯ノ物品ハ勿論犯罪捜査ノ爲メ檢事ニ於テ直チニ勾收シタル物件中事主不分明ナルモノニシテ期滿免除ノ期限ヲ過キタルモノモ檢事ヨリ警察官ヘ引渡シ相成ヘキ筋ニ之レアルヘキ哉

指令 十六年九月十九日

伺之通

刑法ノ部 注○贓物及沒收ニ關スル事

(五)

同 十六年八月三十日  
陸軍省ヨリ司法省へ

爰ニ數種ノ物品盜難ニ罹リタル者數日ヲ經テ其物品ヲ拾得又ハ他人拾得テ之ヲ届出タル場  
合ニ於テ司法警察官ハ本犯雖タルヲ知ルニ由ナク到底就縛ノ目的ナクシテ假渡ヲ爲スモ結  
局事主ノ迷惑ニ相成ル可クト思料スルカ又ハ物品數十日ヲ經過スレハ腐敗ノ恐アル者ト見  
認レルルルハ其物品ノ數及ヒ價額品類等詳細登錄シ置キ之ヲ他日ノ證據物ト爲シ物品ハ直ニ  
事主へ下渡シ候テ不苦哉

指令 十六年九  
月十九日

何之通

司法省達 十四年三月四日丙第大書  
院院裁判所檢事督視院府取へ

贓物等官ニ於テ送致途中又ハ領置中遺失及ヒ盜難ニ罹リタルハ賠償處分ノ義ニ付甲號ノ通  
岩手縣ヨリ伺出太政官へ伺ノ上乙號ノ通及指令候條之レニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候爲  
心得此旨相達候事

(甲號) 同 十三年十  
月十九日

一竊盜等ノ贓金品及ヒ罪囚ノ所持金ヲ官廳ニテ領置中盜難ニ罹リ其盜犯捕ニ就クモ資力ナ  
キ時ハ固ヨリ事主ノ損失ニ歸ス可キ筋無之ニ付官之ヲ辨償ス可キ哉  
一前條盜難ニ罹リタルノ形跡明瞭ニシテ盜犯未タ捕ニ就カヌ又ハ該金品ヲ送致途中遺失シ

(六)

(七)

タルニ其證據顯然シテ未タ得者ノ無之如キハ其監守者ハ相當ノ處分ニ及ヒ事主へハ官ヨ  
リ之ヲ辨償ス可キ哉

指令 十四年三  
月三日

兩條共同之通

司法省達 十四年四月二十三日丙第七號大書院裁  
判所檢事督視院府取(東京府ヨリ除ク)

事主ノ有無ニ因テ贓物ヲ區處スル義ニ付舊兵庫縣大書記官原保太郎ヨリ甲號ノ通伺出候ニ  
付乙號ノ通太政官へ相伺候處丙號ノ通御裁令相成候條爲心得此旨相達候事

(甲號) 同 十三年十  
一月二日

爰ニ盜犯某甲捕拿所持物品出所ヲ問尋スルニ事主乙某方ニ於テ盜ミシ贓金ヲ以テ購求セシ  
品ナリト明供シ該犯拘置中逃走百方搜索スルモ踪跡ヲ不得然ルルハ贓金ニテ購求セシ物品  
事主乙某へ賠償ノ爲メ警察官ニ於テ下ケ渡可然乎若シ本件事主分明ナラサルハ官沒ス可  
キ哉

(乙號) 同 十四年四  
月十四日

兵庫縣大書記官原保太郎ヨリ別紙ノ通盜犯其贓取シタル金ヲ以テ購求セシ物品ハ事主アレ  
ハ警察官限リ下渡置キ事主不分明ナル時ハ官沒ヌヘキヤノ儀伺出候右ハ盜金ヲ以テ購求セ  
シ物品ハ即チ正贓現在ト同視ス可キ者ニ付事主アレハ事主ニ還給セサルヲ得ヌ若シ盜犯逃

刑法ノ部 は○贓物及沒收ニ關スル事

亡スレハ其贓品ノニ裁判所へ送付スルニ及ハサルニ付警察官限り假ニ下渡置キ追テ盜犯捕ニ就ク際其物品代價ヲ詳記シ盜犯始末書ト共ニ該裁判所へ送付シ若事主不明ナルトキハ一年間其品物ヲ領置シ仍ホ事主知レサレハ官沒シテ可然哉右ハ法律上成文無之ニ付此段相伺候

(丙號) 指令 十四年四月十八日

伺之趣ハ三年ヲ經テ仍ホ事主知レサレハ官沒スヘシ但罪證ニ必要ナラサル物件及久シキニ難堪モノハ時限ニ拘ハラヌ公賣シ其代金ヲ領置スルヲ得

同 十六年十二月五日附戸集  
治監ヨリ司法省ヘ伺摘要

第一條 已決囚徒入監ノ節所持ノ物品ヲ請願ニ任セ司獄官吏ヨリ他ニ賣却シタル後餘罪發覺シ右物品ハ曩ニ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルモハ其公商公賣ニアラサルモノ之ヲ買取ルト雖モ沒收スルノ限ニ無之候哉

指令 十七年一月十一日

第一條 見込之通

司法省達 十五年五月十一日丙部第二十號大審院  
裁判所署視廳府廳(東京府ヲ除ク)

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法第四十二條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシ

(九)

(八)

ト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所所在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間ヨリ起算スル日ニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直チニ之ヲ還付スヘシ爲心得此旨相達候事

但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

伺 十六年十月二日附并  
裁判所ヨリ司法省ヘ

豫審公判檢事ノ搜查等ニ於テ贋造金銀貨幣取扱規則ニ依リ截斷ス可キ金銀貨幣ヲ發見シ法ノ沒收ニ係ラサル時ハ其旨ヲ以テ裁判所所在ノ警察署ヘ引渡シ該貨幣ハ全署ノ處分ニ任セ可然哉

指令 十六年十月二十日

伺之通

司法省達 十八年七月二十八日丙部六號大審院裁判  
所署視廳府廳(東京府ヲ除ク)通兵本部ヘ

沒收物件處分ノ義ニ付左之通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御裁令相成候條自今處分方心得ノ爲メ此旨相達候事

伺 十八年六月九日

刑事裁判上沒收ニ係ル物件ハ破壞廢毀(類案ノ分)ノ后若クハ原形之儘總テ公賣ニ付シ其代金ハ雜收入トシテ國庫ニ納付スヘキノ成規ニ有之候處今般警視總監大迫貞清ヨリ別紙ノ通

(一十)

(十)



上申相成候因テ審按スルニ犯罪ノ用ニ供シタル器具ニシテ異種ニ屬スルモノ、如キハ警察官ニ於テ豫テ其製造法及用法等ニ注意シ置クキハ犯罪捜査上便利ヲ得ルヲ妙カラヌ犯迹ニ因テ使用ノ器具如何ヲ推知シ隨テ犯人ノ誰タルヲ發見スルノ場合亦之レナシトセサレハナリ自右異種ニ屬スル器具ノ如キハ其儘人民ニ私有セシムルキハ其危險測ル可カラサルヲ以テ必ス先ツ破壊スルニ非サレハ公賣ヌ可カラサルモノトス已ニ之ヲ破壊セシカ餘ス處ハ唯其原質物ノミ之ヲ公賣スルモ當ニ手數ヲ煩ハスノミニシテ巨額ノ收入ヲ得難キヤ明瞭ナリ就テハ自今檢察官ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件ノ異種ニ屬スル者其他警察上注意ヲ要スルモノト認メタルキハ之ヲ警視廳若クハ警察署ニ交付シ保存セシメ候様致度右ハ雜收入ニヨ關係候ニ付一應相伺候條至急何分ノ御指令相成度也

(朱書)

指令 十八年七月六日

伺之通

(別紙)

犯罪ノ用ニ供シタル器具ノ義ニ付上申 十七年十二月十五日  
 犯罪ノ用ニ供シタル器具ノ種類如何ヲ詳知スルハ犯跡鑑定等警察上最モ必要ノ事ニ付爾後其異種ニ屬スルモノハ之ヲ蒐集シテ當廳ニ保存致度就テハ當地方各裁判所ニ於テ沒收物品

(二十)

ノ内右等ノモノ有之節ハ其郡度當廳へ差廻候様御遠置相成度此段上申候也  
 太政官達 十八年十一月廿六日 第六十三號府縣へ

(三十)

裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼キ地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事  
 司法省達 十九年一月四日下第 壹號大審院裁判所へ

明治十八年太政官第六十三號達<sup>ハ</sup>ニヨリ沒收物件ハ都テ地方廳ニ引繼クヘキ旨被相定候ニ付テハ自今該物件ハ書記局ニ於テ會計主任へ引渡ヲ要セス直ニ地方廳ニ引繼クヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

(四十)

但地方廳ニ引繼ヲ爲スマテ會計主任へ一時其物件ノ假預ケ等ヲ爲スハ格別ナリトス  
 大藏省訓令 十九年四月十九日第 三號北海道府縣へ  
 明治十八年十一月太政官第六十三號達<sup>ハ</sup>ニ犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取扱フ可シ

第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルトキハ其物件受取ノ手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從ヒ得失ヲ量リ其廳ニ取寄セ又ハ其所在地ノ戶長ニ保管セシムヘシ  
 第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後三箇月以内ニ於テ公賣ニ付スヘシ但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラス總テ適當ノ地ヲ選定スルモノトス

刑部 刑部 〇贓物及沒收ニ關スル事

第三項 沒收物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ削除スヘシ  
 第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ  
 第五項 沒收ノ物件公賣ニ付スルモ買受人ナキヤ若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトキハ公賣ヲ停止シ爾後三箇月以内ニ於テ更ニ公賣ニ付スヘシ  
 第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價值ナシト認ムルモノ或ハ運搬費置場敷料ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付スルモ買受人ナク若クハ代價不相當ニシテ公賣ヲ停止シタルモノハ適宜處分スヘシ  
 第七項 沒收物件中其物品取扱上特ニ成規アルモノハ各主管廳ノ指揮ニ據リ之ヲ處分スヘシ

(二) ○勅奏官華族帶勳者ニ關スル事

司法省達 十五年三月廿七日丙第廿一號大審院  
 裁判所書記官府縣(東京府ヲ除ク)  
 令般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

(別紙)

司法省

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪

ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルコトヲ得此旨相達候事

明治十五年三月廿二日

太政大臣三條實美

司法省達 十六年五月十四日丙第廿二號大審院  
 裁判所書記官府縣(東京府ヲ除ク)

勅奏官華族並ニ有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通太政官へ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第十一號達ニト可相心得事

同 十六年三月三十一日

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日付ヲ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

(朱書)

指令 十六年五月八日

刑法ノ部 〇勅奏官華族帶勳者ニ關スル事

何ノ通

但明治十五年三月二十二日附其省へ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事

(三)

布告 十六年六月廿九日第二十二號

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋實付セラレタル時ハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ヌ又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受ルコトヲ得ヌ

關令 十九年七月一日附十九號各官廳へ

明治十六年九月第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續ヲ改正スルコト左ノ如シ

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ルハトキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項 懲戒例及免職條例ニヨリ免官セラレタル者

(四)

第四項 素行修マラヌ帶勳者タルノ面目ヲ汚ユ者

第二條 第一條第一項ニ觸ル、者輕罪ヲ犯シタル者ナルトキハ裁判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁へ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

第三條 第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者アルトキハ所屬長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第四條 賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ於テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第五條 褫奪ハ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シ本人へ傳達セシム

第六條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦全シ

第七條 褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局へ還納スヘシ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告書寫ヲ添フヘシ

第八條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁

(五)

判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ但公訴權消滅シタルモ若クハ放免ノ旨渡ラ爲シタルトキハ亦其事狀ヲ詳記シ之ヲ申告スヘシ

第九條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨリ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第十條 外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

司法省達 十五年十一月十五日丁第 五拾六號大審院裁判所ヘ

內國ノ勳章ヲ賜リタル外國人並外國ノ勳章ヲ佩ヒタル內國人身分取扱ノ儀ニ付別紙ノ通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

同 十五年五月廿六日

內國ノ勳章ヲ賜リタル外國人ハ內國人ノ帶勳者ト取扱ヲ同スヘキハ固ヨリ言ヲ竣タヌ亦內國人ニシテ外國ノ勳章ヲ帶ル者ニ於テモ勳章ハ外國ノ勳章ナレトモ其佩用ヲ許奪スル等ハ我政府ノ處置ニ係ルノミナラス其外國ノ勳章ヲ受ケタル者ハ該勳章ニ相當スルノ榮譽ヲ有スレハ之ニ相當スルノ取扱ヲ爲スヘキ者ト存候得共右ハ身分取扱上ニ關係スルコトニシテ別ニ可據法例ナキヲ以テ相伺候條果シテ其取扱ヲ內國帶勳者ト等クヌ可キ義ニ候ハ、外國ノ何々勳章ハ內國ノ何々勳章ニ相當スル者ナルヤ此段合テ至急何分ノ御指令有之度候也

(朱書)

(一)

指令 十五年十一月九日

何之趣 第一項 何之通 第二項 外國ノ勳章ヲ受ケル內國人ハ其受佩ヲ許否スルニ止ルモノニシテ身上特別ノ取扱ヲ要セサル義ト心得ヘシ

○富籤密賣淫賭博ニ關スル事

布告 十五年五月廿四日第廿五號

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ補助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハヌ二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ヌ

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵メタル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セズ

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

(參照)

布告 元年十二月廿三日

富興行ノ義ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ託シ興行致候向有之趣元來流季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ怠リ往々是ヲ爲メニ家産ヲ破蕩者モ不少哉ニ相聞ヘ以テノ外之事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相反リ候義ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

布告 十四年十二月九日 日第六十四號

密賣淫ノ義ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘ共當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

布告 十七年一月四日 第一號

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハ

(二) (三)

(別紙)

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦全シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視廳監府知事東京府縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

太政官達 十七年一月二十一日第十號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘ

本年第一號布告三ニ據リ懲罰ニ處シタル賭博犯人ハ明治十四年九月第八十一號達監獄則第一條第五項禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ準シ服役其他ノ方法共總テ該則ニ依テ處分スヘシ此旨相達候事

(四)

刑法ノ部 ほか○富籤密賣淫賭博ニ關スル事

(五)

内務省達 十七年五月五日番外警視  
賭博犯人入監者クハ留置中逃走シ又ハ逃走者ヲ藏匿隠避セシメタル者等ハ刑法第四百十二  
條以下各條ニ照シ法衙ニ於テ處分セラル、管ニ付爲心得此旨相達候事

同 十七年一月十一日新  
温縣ヨリ内務省へ

賭博犯ニ關スル證人偽證及ヒ証告者ハ無論刑法ニ依リ處分相成儀ト心得可然哉

指令 十七年一  
月十五日

本月十一日附電報何ノ趣ハ刑法ニ依ルノ限リニアラス

同 十八年十一月廿一日  
靜岡縣ヨリ内務省へ

假ニ懲罰ヲ免シ出獄セシメタルモノ主刑満期迄ニ過料金納完スル能ハサル場合ニ於テハ更  
ニ入獄セシメ其換罰ヲ執行シ可然哉

指令 十八年十一  
月廿七日

伺之通

同 十九年二月十二日鹿  
兒島縣ヨリ内務省へ

賭博犯過料不納者身代限り印紙費ハ何費目ヨリ出スカ人民ノ訴訟ト異ナルニ付無印紙ニテ

同 同キヤ

指令 十九年二月  
二十五日

(六)

(七)

(八)

(一)

(二)

賭博犯過料不納者身代限り印紙費ハ地方警察費ヨリ支辨スヘシ但印紙規則第五條ニ據リ貼  
用スルモノトス

陸軍省令 十九年五月十九日甲第十八號北海  
道函府縣東京府沖繩縣ヲ除クへ

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ノ處分ヲ受ケタルトキハ自今警察官ヨリ犯人本  
籍地ノ戸長ニ通報シ戸長ヨリ郡區駐在官ニ通報セシムヘシ

○雜

太政官達

十五年四月二十九日第二十二號内務陸軍海軍  
司法警視ノ各省廳府縣(東京府ヲ除ク)へ

刑法第四百廿七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人制服ヲ着用  
乘馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候條此旨相達候事

同 十七年四月廿五日福井  
縣ヨリ内務大藏兩省へ

第一條 刑法第三十五條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其重刑ノ終ル迄  
自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁スト有之右受刑者所有ノ公價證書家事ノ都合ニ依リ賣賣并ニ利

金受取方等親族協議ノ上連署之ニ戸長與印シ出願スル時ハ捺印並ニ利金交付方取計可然乎

第二條 前條果シテ伺ノ通ナルトハ舊法ニ據リ禁獄五年ニ處セラレシモノハ前全様相心得  
可然乎

指令 十七年七  
月九日

刑法ノ部

伺ノ趣左之通可相心得事

第一條ハ其受刑者ヲシテ家族又ハ親戚ノ内ニ就テ財産管理人ヲ擧定セシメ其氏名ヲ管轄裁判所ニ届出置キ他日賣買貸借等ノコアルハ都テ該所ノ處分ヲ仰カシムヘキモノニ付伺之場合ニ在リテハ其財産管理人ヨリ裁判所ニ申出其指揮ヲ得タル上ハ檢印ヲ爲スヘシ但公價證書ヲ賣渡スル證書裏面ニ別紙略書式ノ通り記載セシメ其他條例ニ據リ授受ノ手續ヲ爲スヘシ

(三)

第二條ハ總テ代理人ヲ以テ可取扱儀ト心得可シ

伺 十五年十一月盛岡始審  
裁判所ヨリ司法省へ

刑法第二百一條ニ於テ此節ニ記載シタル輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スト有之然ルニ第九十九條ノ刑ノ如キ輕罪ナリト雖モ只罰金ヲ科スルニ止リ致テ身體ヲ拘束スルコトナキヲ以テ之ヲ監視ニ付スルハ稍酷ナルカ如ク考量候へ共右輕罪ノ刑ニアルハ實決ノモノニ限り候義ト相心得可然哉

内訓

監視ハ體刑ニ附加スルニ止ルモノトス

(四)

伺 十六年八月二十三日  
官城縣ヨリ司法省へ

刑法第五十七條ニ曰刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サストアリ就テハ舊

(五)

法ニ處セラレ該刑期中新法實施后ニ至リ重罪輕罪ヲ犯セシ者モ亦假出獄ヲ許サ、ル義ニ可有之哉將々許スコトヲ得ヘキ哉若シ是レヲ許スモノトセハ其刑期四分ノ三計算方ノ如キハ舊刑殘日數ト新刑ニ處セラレタル日數トヲ合算スル義ト相心得可然哉

指令 十六年九月八日

伺之趣前段見込ノ通

司法省内訓 十六年十二月廿一日  
日第五九五五號

刑事被告人屬籍身分氏名等詐稱セシ者處分方ニ付是迄迄々指令若クハ訓示ニ及ヒ置候次第モ有之候處今般前橋始審裁判所長判事千谷敏徳請訓ノ件ニ對シ別紙ノ通及内訓候條爲心得此旨及内訓候也

(別紙)

請訓

刑事ノ被告人ニ於テ官署ヨリ取調ヲ受ルニ際シ屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱スル如キハ畢竟其犯罪事件ヲ辯護スル爲メニ外ナラサレハ刑法第二百三十一條ニ依リ處分スヘキ者ニ非スト思考候得共念ノ爲メ此段請内訓候也

内訓 十六年十二月廿一日

請訓ノ趣ハ見解ノ通此旨及内訓候也

(六)

司法省内訓

十五年十月四日大審院裁判所警視廳府縣東京府ヲ除ク憲兵本部ヘ

刑法第八十五條ノ發覺トハ其犯人ノ官ニ發覺シタル場合ニ限ラス被害者ニ於テ犯人ノ誰タルヲ確認シタル上ハ官ニ發覺シタルモノト全一ノモノトス此旨爲心得及内訓候也

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令内訓ハ取消候事

同

十七年三月十二日山形始審裁  
判所酒田支廳ヨリ司法省ヘ

(七)

官吏ノ職務ニ對シ文書ヲ直チニ其官吏ニ送致シ以テ侮辱シタル者法律ニ明文無之候處右ハ筆記セシ言語ナリトシ又直接之ヲ送致シタルヲ以テ目前ニ於テ爲セルト全一ナリトスル時ハ刑法第四百一一條初項ヲ以テ論ス可シト雖ヒ已ニ紙上ニ移シタル上ハ即文書ノ名ヲ命ス可クシテ之ヲ言語ト云フ可カラヌ又假令直接之ヲ送致スルモ其身全ク外ニ在レハ之ヲ目前ノ所爲ト云フ可カラサレハ該項ニ依ル可キモノニ非サル可シ然ルニ全條ノ次項ナル其目前ニ非スト雖ヒ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱スト云ヘル其刊行ノ文字ハ即印刷發行ノ二事ニシテ以テ世上ニ公行スルモノヲ云フカ如クナリト雖ヒ文書ハ必スシモ印刷ヲ要セス手書シタルモノモ亦之ニ含蓄セハ又必スシモ廣ク世上ニ發行スルモノノミナラス直ニ其官吏ニ送致スル者モ亦含蓄シタルモノニシテ該項ニ依リ論ス可キモノニ候哉又ハ假令其官吏ニ送致スルモ唯雙方間ニ在ルノミニシテ他人ニ漏泄セサルモノナレハ該項ニ含蓄セス到底刑法第二條ニ依リ論スルコトヲ得サル義ニ候哉

(八)

指令

十七年三月廿八日

伺ノ趣刑法第四百一一條第一項ニ依リ處分スル義ト心得ヘシ

請訓

十六年十月五日根室輕罪裁判所檢事ヨリ司法省ヘ

刑法第二百七十七條身體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サハル者ハ云々トアリ右ハ公務ノ餘暇則登樓ノ如キ場合ト雖モ該報告ヲ受ケタル以上ハ無論職權ヲ以テ其保護ノ處分ヲ爲スヘキモノト心得可然ヤ將タ公務ノ餘暇ナルヲ以テ治罪法第五條ニ依テ通常凡人ノ資格ヲ以テ其處分ヲ爲ス可キ歟

第二條 右第二百七十七條ニハ治罪法第六十條警視警部區長郡長治安判事警部ノ在ラサル

地ノ戶長等モ該條ヘ含蓄シ居ル無論ノ義ト心得可然哉

内訓

十六年十月三十日

第一條 職務外ノ時間ト雖モ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得但之ヲ爲サハルモ刑法ノ問フ處ニアラス

第二條 見解ノ通

請訓

十七年六月廿八日山形始審裁判所酒田支廳檢事ヨリ司法省ヘ

戶主ヲ廢スルカ爲メ又ハ被告人召喚ノ際或ハ保釋中呼出ノ節又ハ其他ノ事ニ因リ醫師囑託ヲ受ケ詐偽ノ疾病證書ヲ造リタル者ハ公務ヲ免ル可キタメノ一元素ナキカ故ニ刑法第二百



十五條ノ犯罪ニ非サル可シ然レモ不應爲ノ事タルハ勿論爲ニ害ヲ生スルモノナレバ刑法第  
二百十條二項ノ犯罪ニシテ該條ニ據リ處ス可キ者ニ候哉

内訓 十七年七  
月三十日

別紙何ノ趣ハ後段見解ノ通此旨及内訓候也

請訓 十七年八月廿日宮  
城縣ヨリ司法省へ

刑法第二百五十六條官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタルモノ云々トアリ該醫業トアルハ職醫モ  
包含セシヤ將々包含セサル義ト心得可然哉

内訓 十七年九  
月三日

別紙請訓之趣刑法第二百五十六條ハ職醫ヲ包含セサル義ト心得此旨及内訓候也

請訓 十六年十月十八日水戸縣  
裁判所檢事ヨリ司法省へ

婚姻又ハ養子養女ノ取組整ヒタル上ハ明治八年第二百九號御布告ニ基キ速ニ戸籍ニ登記ス  
ヘキハ勿論ナレモ邊土僻隅ノ愚民ニ至テハ其手續ヲ盡サハル者往々有之然ル内其妻ト稱ス  
ル者姦罪ヲ犯シ或ハ養子女ナル者祖父父母ト稱スル者ヲ毆打ナシタル等ノ節ハ何レモ戸  
籍上登記ナキヲ以テ姦罪ハ夫ト稱スル者ヨリ告訴スルモ處女ト見做シ不問ニ措キ毆打罪等  
ハ凡人ヲ以テ論スル義ニ可有之哉將々假令戸籍ニ登記セサルモ親族近隣ノ者モ夫婦若クハ  
養父子ト認メルニ於テハ明治十年本省丁第四十六號御達ニ基キ處分可然哉

(一十)

(十)

内訓 十六年十  
月廿六日

養子女戸籍登記以前犯罪處分ノ義請訓ノ趣右ハ後段見解ノ通

(參照)

太政官達 八年十二月九日第  
二百九號使府照へ

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁假令相對熟談ノ上タリトモ雙方ノ戸籍ニ登記  
セサル内ハ其效ナキモノト看做スヘク候條右等ノ届方等關ノ所業無之機精々説諭可致置  
此旨相達候事

司法省達 十年六月十九日丁第四十六號大  
審院上等裁判所地方裁判所へ

八年第二百九號御達ノ義ニ付有馬判事ヨリ甲號略ノ通伺出ニ因リ乙號略ノ通太政官へ上  
申候處丙號ノ通御裁令相成候條此段爲心得相達候事

(丙號)

伺之趣八年第二百九號ノ諭達後其登記ヲ怠リシ者アリト雖モ既ニ親族近隣ノモノモ夫婦  
若クハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ夫婦若クハ養父子ヲ以テ論ス  
可キ儀ト相心得ヘシ

請訓 十七年四月十日岡山始審  
裁判所檢事ヨリ司法省へ

刑法第二編第四章第四節中別ニ親屬ニ係ル不論罪ノ特例無之ニ付假令其祖父ヲ欺瞞シテ金

(二十)

員ヲ騙取センカ爲ノ目的ノミニ出テタル偽印偽證書ノ所爲ト雖モ猶ホ且之ヲ罰スヘキノ律  
 意ナルヤ抑モ偽印偽證書ノ所爲タルヤ竊取詐取ノ如キ特ニ父子間ノミニ直接スルノ類ニ異  
 ナリ之ヲ他人ニ公示シ之ヲ訟廷ニ提出スレハ則チ社會ニ公使シタルモノナルヲ以テ即チ社  
 會ノ信用ヲ害スルモノト云ハサルヘカラス且父祖モ亦社會ノ一部ニ屬スルヲ以テ假令父祖  
 ノミノ信用ヲ害スルニ於テモ亦以テ社會ノ信用ヲ害スルモノト云ハサルヘカラサルノ理ア  
 リ況ンヤ之ヲ公衆ニ公使スルヲヤ故ニ本按一ハ信用ヲ害スル罪ニシテ一ハ財產ニ對スルノ  
 罪ナルニ付其所爲自カラニ罪ニ判カレ彼此立法ノ主義相異ナルヲ以テ詐欺取財ノ罪ハ之ヲ  
 問ハサレモ偽印偽證書ノ罪ハ猶之ヲ罰スヘキ所以ナル乎  
 或ハ本節ハ偽造官印ノ條ニ異ナリ其起因タル偽造ノミヲ以テハ之ヲ罰セス必ス其結果タル  
 使用公使ヲ合スルニアルザレバ罰トナラサルモノニシテ而シテ其結果タル使用公使ハ即チ刑  
 法之ヲ問ハサルノ詐欺取財ニ係ルヲ以テ元來其罪ノ成リ立ツヘキ因果ノ結合セサルモノニ  
 付父祖ノ金匱ヲ騙取センカ爲ノ目的ノミニ出タル偽印偽證書ニシテ敢テ他人ヲ害スルニア  
 ラサル以上ハ之ヲ罰スルノ限リニアラサル乎本案疑義ノ事實ハ左ノ如シ  
 茲ニ甲乙丙ノ三人アリ乙ハ甲ノ養子ニシテ丙ハ其朋友ナリ乙放蕩ニシテ品行修ラス自ラ養  
 家ノ意ニ適セヌ早晚必離絶セラルヘキヲ知リ之ヲ準備ヲ爲サント欲シ竊ニ甲ノ印影ヲ盜用  
 シ以テ甲カ丙ヨリ金若干圓借用シタル證書ヲ偽造シ丙ニ其情ヲ告ケ事成ルノ後ハ該金ノ幾

(三十)

分ヲ與フヘキヲ約シ丙ヲシテ之ヲ出訴セシメタリ於是乙其引合人トシテ出廷シ該證書ハ甲  
 ノ囑ニ因テ之ヲ代書シ其金匱ハ即チ甲ノ借用シタルニ相違ナキ旨證據シ遂ニ甲ノ敗訴トナ  
 リタリ甲其裁判ニ服セズ未タ執行セサルニ際シ會其罪發覺ニ及ヒ甲亦之ヲ告訴シタリ如  
 此キ場合ニ於テ乙ヲ處スル如何ノ疑團ニ係ルモノナリ  
 丙訓 十七年五月十四日  
 子孫父祖ノ借用證書ヲ偽造シ金匱ヲ詐取セントシタル者處分ノ儀ニ付請訓ノ趣右ハ第二項  
 見解ノ通此旨及内訓候也  
 同 十六年九月三日愛  
 燒堀ヨリ司法省へ  
 道路堤防河川或ハ田圃山林等ノ土石ヲ掘取リ 刑法第六十二條 第四百十一條 第四百十二條  
 他ニ賣却シ利ヲ圖リタルモノアリ之ヲ法律ニ照スルハ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊  
 取シタル者ヲ以テ論スヘキ乎果シテ然ラハ第三百七十二條及第三百七十三條ノ田野又ハ山  
 林ニ於テ產物ヲ竊取シタル者ト權衡其當ヲ得サルカ如何トナレハ一ハ二年以上四年以  
 下ノ重禁錮ニシテ一ハ一年以上以下ノ重禁錮ナリ產物ヲ竊取スルモノハ輕キニ處セラ  
 レ土石ヲ竊取スルモノハ重キニ處セラレ其輕重ヲ失スレハナリ若シ又之ヲ第三百七十二條  
 第三百七十三條ニ該ルモノトナス乎其明文ナキヲ如何セン然リト雖モ之ヲ不問ニ付ストキ  
 ハ取締ノ道相立タサルハ令更旨ヲ俟タサル義ニ有之依テ右田圃山林ハ第三百七十二條第三

百七十三條ニ包含シタル者ト解釋シ道路堤防河川ハ本縣ニ於テ違警罪ニ相加ヘ可然哉將タ  
總テ違警罪ニ差加フヘキ義ニ可有之哉

指令 十六年九月  
二十二日

伺之趣盜情ニ出タル者ハ第三百六十六條產物タルヘキ土石ハ第三百七十三條ニ依リ處分ス  
ヘキモ其所爲些少ニシテ盜情ニ出タル者ハ違警罪目ニ加フルモ妨ナシ

○刑法附則及監視ニ關スル事

布告 十四年十二月十  
九日第六十七號

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑  
ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但  
立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印  
シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ  
果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産后一百日ヲ經テ更ニ司

刑法ノ部 〇刑法附則及監視ニ關スル事

法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親戚故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許スヘシ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ヌ可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ全居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辦ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得ヤル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁錮輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許スヘシ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦全シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀

ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ預メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ  
第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ  
第二十四條 除刑

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ  
犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送スヘシ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間遵守ス可キ條件ヲ讀開カセ監視ノ票ヲ下付スヘシ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間左ノ條件ヲ遵守ス可シ  
一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但其疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出

ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ  
犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數間ニ

販來リ直ニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ販着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ販着スル資力ナキ者亦全シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ販着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ヌ可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行スヘシ  
第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ヌ可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ヌ可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第廿七條第三及ヒ第廿九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ヌ可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ヌ可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ヌ可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ヌ可キ事

四 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營メントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ヌ可キ者ハ預メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ第廿二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第廿四條第廿五條第廿六條第廿九條第三十條ノ例ヲ適用ヌ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ヌ可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ得ヌ

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉

移スルコトヲ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

#### 第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニヨリ各地方適宜其額ヲ定ムヘシ

日當五十錢以下

旅費一里十錢以下

止宿料一宿二十五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ

給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖倉庫等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

#### 第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得

ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉讓ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判已ニ終リタル后ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本人死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更

ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得  
請訓 十五年十一月横濱縣罪  
裁判所ヨリ司法省へ

刑法附則第二十七條第四項擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サストアル該他ノ地方トハ甲乙府

(二)

縣ノ管轄ヲ分テタル義ナルヤ又ハ現ニ監視ヲ爲ス警察署所轄ノ管區外ヲ指シテ他ノ地方ト定メタル者ニ候哉文義上ヨリ見レハ無論甲縣ヨリ乙縣地へ旅行スル時ノ制裁ナル如クナレト今實際ニ就テ見ルニ警ハ一縣内ト雖モ甲ノ警察署ニ於テ監視スル者其所管外乙ノ警察署轄地ニ至ルニ道程數十里ヲ隔テ或ハ四五日程ノ旅行スル場合尠カラヌ此場合ト雖モ一縣内ニ在テハ第二十七條第四項ヲ適用ス可キ者ニ非サルカ如シ然レハ實際如是モ第二十七條ヲ適用セサルハ監視ノ効力ヲ保タヌ甚タ不都合有之候就テハ他ノ地方トハ府縣管轄外ヲ云乎又ハ警察署管外ヲ指ス義ニ候哉實際ニ照シ聊カ疑義ヲ抱ケ候ニ付此段仰内訓候也

(内訓)

別紙請訓ノ趣他ノ地方トハ他府縣ヲ指ス義ト心得ヘシ

司法省達 十六年十一月十六日丁第  
三十三號大審院裁判所へ

本年第三十九號ヲ以テ刑法附則第四十九條改正ノ義公布相成候ニ付テハ各管内ニ於テ專ラ

實際消費スル費額ヲ量定シ豫メ金額ノ程限ヲ設ケ速ニ當省へ可届出此旨相達候事

内務省訓示 十五年六月  
二日府縣へ

凡ソ監視ニ付セラレシ犯人ノ住所地ニ在テ一日程ヲ過クル者典獄若クハ檢察官ヨリ最近ノ警察署へ護送シ來ルルハ刑法附則第二十五條ノ手續ニ依ル可キ處中ニハ警察傳遞ヲ以テ送致スル向キ有之哉ニ相聞ヘ右ハ刑法附則ノ成文ニ背キ且費用ニモ差懸候義ニ付右等ノ義無

(三) (五)



(六)

之機可致此旨及訓示候也

同 十六年十二月十一日

福岡縣ヨリ司法省へ

刑法附則第二十三條犯人ヲ警察署ニ護送スルハ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スヘシトアルヲ以テ是迄裁判所ヨリ送付シタル刑名宣告書ノ謄本ハ監獄署ニ止メ置キ之ヲ謄寫シテ警察署へ差廻シ來リ候處監視ハ監獄署ニ於テ謄寫シタル宣告書ヲ以テ執行スルハ穩當ナラサル様思考シ少シク疑惑ヲ生シ相伺候

指令 十六年十二月二十八日

伺ノ趣監視執行ハ裁判所ヨリ送致シタル刑名宣告書ノ謄本ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但監獄署ニ於テハ之ヲ謄寫シテ止メ置ク儀ト心得可シ

同 十七年三月五日

福岡縣ヨリ司法省へ

監視ニ付セラレタル犯人ヲ警察署ニ護送スル時當縣ニ於テハ是迄裁判所ヨリ送致ヲ受ケタル刑名宣告書ノ謄本ハ監獄署ニ止メ置キ同署書記ヲシテ之ヲ復寫セシメ其謄本ヲ以テ執行致シ來候處昨十六年十二月二十八日福岡縣へノ御指令出ニ據レハ監視ノ執行ハ裁判所ヨリ送致シタル刑名宣告書ノ謄本ヲ以テ之ヲ爲ス可シトアレ共犯人ノ被告人數名ニシテ其宣告書一通ナル時ハ各其住居ノ地ヲ異ニシ又刑期ノ長短アリテ之カ執行ヲ爲スニ際シ宣告書數通裁判所ヨリ送致ヲ受ケザルヲ得サル場合アルノヨナラス主刑ノ終ルマテ數年間監獄署ニ

(七)

宣告書ノ謄本ヲ保存スルニ散亂ノ患ナカラシメンカ爲メ簿冊ニ編纂ヲナサ、ルヲ得サルニ依リ裁判所ヨリ送致セラレタル宣告書ノ謄本ヲ警察署ニ送致スルハ太タ不便ニシテ裁判所ト監獄署ニ於テハ頗ル手數ヲ煩シ實際差支ノ筋不妙ヲ以テ當縣ニ於テハ從前ノ如ク監獄署書記ヲシテ謄寫セシメ其謄本ニハ書記署名官印ヲ押捺シ而シテ官署ノ印ヲ用ヒ之ヲ以テ監視ノ執行ヲ爲サシムルモ不苦候哉

指令 十七年三月二十五日

伺ノ趣共犯人アル場合ニ限り見込ノ通

但其旨ヲ送致ス可キ謄本ニ記載スヘシ

司法省內訓 十六年二月七日各裁判所警

視福岡縣(東京府ヲ除ク)

監視ニ付セラレタル者住居ノ地ニ送致中逃走シタル時逮捕ノ義ニ付別紙ノ通監視總監ヨリ上申候條右ハ監視ヲ執行ス可キ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ニ及フ可キ義ト心得可シ但被告人ノ申立タル地ニ住居ナキ者ハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ右處分ヲ爲ス可キ者トス此旨及內訓候也

(別紙)

上申 十六年一月二十七日

刑法附則第二十五條ニ依リ監視ニ付セラル可キ者へ旅券ヲ付與シ送致途中本人逃亡セシ場

合ニ於テハ現ニ監視ノ執行ヲ爲ス可キ地ノ警察署ニ於テ治罪ノ手續爲致置候ヘ共他府縣ニテハ其取扱區々ニシテ實際差支ヲ生シ候條一定ノ取扱ニ相成候様至急御訓示相成度此段上申候也

(八)

内務省達 十七年三月廿六日(第十九號) 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ

監視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スルキハ必ス監視票ヲ携帯セシメ其滞留數日ニ涉ル者ハ滞留地ノ警察署ニ到リ謹慎ヲ表シ官吏ノ認印ヲ受ケシム可シ此旨相達候事

但官吏ノ認印ハ監視票ノ裏面旅行中欄内ニ捺印スヘシ

伺 十六年七月四日 警視廳ヨリ司法省ヘ

(九)

刑法附則第二章第三十二條ニ據リ監獄中ノ別房ニ留置シタル監視人ハ全章第二十六條第二十七條等ニ據リ警察署ヨリ監視票ヲ下附シ總テ監視執行上ニ就テハ警察上ノ管理ニ屬セシムル義ニ候哉又ハ常ニ司獄官吏ニ於テ監督致シ候ヘハ其義ヲ爲スニ及ハサルモノニ候哉若シ監獄中ノ別房ニ留置シ唯ニ司法官吏ニ於テ之ヲ監督ヲ爲シ警察署ノ管理ニ屬セサル場合ニ於テ逃走シタル監視人ハ監視規則違犯ノ者ト認メ可然哉

指令 十六年七月廿四日

伺ノ趣在監中ハ司獄官吏ニ於テ監督ス可キ者トス但逃走シタル時ハ監視規則違犯者トシテ罰スル義ト心得ヘシ

(十)

伺 十六年九月廿五日 警視廳ヨリ内務省ヘ

通常監視ニ付セラレタル者ニシテ他管下ヘ旅行且ツ滞在スル節取締方ノ義ハ刑法附則第二章中ニ明文モアリ且ツ本縣ヨリ伺定置候次第モ有之候ヘ共住居地管内旅行ニ就テハ別ニ取締方法無之然ルニ力役等ヲ以テ糊口ヲ爲スモノ、如キハ其業體ノ都合ニ依リ住居地町村最寄ニ於テ其職業ニ従事スルコトヲ得ヌ數里外ナル他ノ警察署下ヘ數十日出稼スルモノアリ右等ノ者ニ至テハ毎月兩度住居地ノ所轄警察署ヘ謹慎ヲ表スル爲メ出頭スルハ時日ヲ費シ糊口上ニ困難スル趣ヲ以テ出稼地ノ所轄警察署又ハ分署ヘ出頭謹慎ヲ表シ度旨出願スルモノアリ右ハ事實惘然ノ至リニ付之ヲ許可シ其旨出稼先キノ所轄警察署又ハ分署ヘ通牒監視致候モ御差支之筋無之哉

指令 十七年一月九日

伺ノ趣事情無據者ニ限り許可シ不苦義ト可心得事

上申 十七年二月廿二日 長崎控訴 裁判所檢事ヨリ司法省ヘ

(十一)

監視規則中一月兩度所轄警察署ニ出頭セシムルコトアリ邊地人民ノ如キハ所轄警察署ヲ距ル或ハ十數里ノ遠キニ及ヒ山ヲ躡ヘ海ヲ航シ日數三四日ヲ要セサレハ往復スル能ハサルモノアリ爲ニ犯則スルモノ比々有之候故ニ自今警察署ナキ地ニ於テハ監視表ノ檢印ヲ戶長役場ニ受クルノ便ヲ與フルキハ獨リ犯則者ヲ減スルノミナラス實地ノ取締モ亦大ニ相立可申依

ヲ本規則御改正相成度此段及上申候也

(内訓) 十七年三月十八日

監視規則中改正ノ義ニ付上申ノ趣檢印ヲ受クヘキ警察署往復一泊以上ヲ要スル地ニアル場合ニ於テハ郡役所又ハ戸長役場ニ出頭シ檢印ヲ受クルモ妨ケナキ義ト心得ヘシ

同 十七年三月三十一日  
三重縣ヨリ司法省ヘ

交番所ニ於テ監視事務取扱ノ義ニ付別紙寫第一條ノ通相何朱書ノ通御指令有之候ニ付不得止警察署ノミニテ檢印爲致居候處長崎控訴裁判所檢事長ヨリ監視規則中ノ警察署ヨリ司法警察官ト改正ノ上申出ニ對シ檢印ヲ受クヘキ警察署往復一泊以上ヲ要スル地ニアル場合ニ於テハ郡役所又ハ戸長役場ニ出頭シ檢印ヲ受クルモ妨ケナキ旨御内訓相成候趣本年三月二十一日附第一四四一號ヲ以テ御省第四局副長ノ移牒ニ依リ致承知候右ハ郡區長ハ司法警察官ト關フノ故ヲ以テ斯ク御内訓相成候義ト相考候果シテ然ラハ當縣交番所ノ如キモ常ニ警部代理ヲ命シタル巡查即チ司法警察官ノ事務ヲ取扱フ巡查有之且ツ實際上ノ景況前同ニ具職スル通ニ付右御内訓郡役所戸長役場全權交番所ニ於テモ檢印爲致度此段重テ相伺候

指令 十七年四月廿一日

刑法附則第二十七條第一ノ場合ニテ所轄警察署マテノ距離往復一泊以上ヲ要スル時ハ伺之通

(別紙)

同 十五年八月廿三日

第一條 刑法附則第二章中ニ散見スル警察所トハ警察署及其分署ヲ指稱シタルモノトハ存候ヘ共當縣ノ如キハ該署部内延長十餘里ニ涉ルノ個所往々有之被監者ハ處刑人ナリトハ乍申毎月警察署ヘ往復スル困却不尠殊ニ其貧窶者ノ如キニ至テハ右往復スル時間ハ家業ヲ休止スルヲ以テ生計ニ差間候而已ナラス又路費モ無之遂ニ不參スル者可有之然ルニ該署部内ニハ數個ノ巡查交番所ヲ配置シ必ス舊一等巡查ヲ派遣シテ警部代理トナシ之ニ巡查數名ヲ附屬セシムルヲ以テ名ハ交番所ナリト雖モ其實ハ隣府縣ノ分署ニ異ナラス故ヲ以テ便宜ニ從ヒ右交番所ニテ前縣警察署同權監視ノ事務爲取扱候モ妨ケ無之哉

(朱書)

指令 十五年十月廿六日

第一條 交番所ニ於テ監視ノ事務ヲ取扱ハシムルヲ得ス

同 十六年九月十三日  
都府ヨリ司法省ヘ

甲地在籍ノ者乙地ニ於テ罪ヲ犯シ主刑滿期ノ上本人ノ申立ニ依リ在籍地ニ於テ監視執行ノ爲メ乙地警察署ヨリ甲地警察署ヘ本犯送致セシル甲地警察署ハ監視執行ノ爲メ其住所ヲ調フルニ本犯ハ丙某附籍ナリシカ其丙某ハ曾テ失踪シ唯戸籍ノミ存在スルニ本犯住居

(二十)

又ハキ家屋及ヒ引取人モ無之又赤貧ニシテ別ニ住所ヲ定ムルコト能ハス如此場合ニ於テハ在籍則甲地ノ監獄署ヘ引渡全署ニ於テ刑法附則第三十二條ノ處分ヲ爲ス可キ義ト相心得可然哉將タ乙地則主刑執行地ノ監獄署ヘ送戻シ全署ニ於テ全條ノ處分ヲ爲スヘキ義ニ可有之哉

指令 十六年九月廿六日

何之趣前段見解ノ通

十六年十月十一日  
 何 燒縣ヨリ司法省ヘ

茲ニ主刑満期后監視ニ附セラル、者アリ假令ハ甲警察署ニ於テ旅券ヲ附與シ丙警察署所轉即チ犯人居住地ナルヲ以テ歸路ノ際不計病ニ罹リハ或ハ正當ノ事故アリ又ハ途次車ニ乘シ又ニ欠乏スル 乙警察署所轄内ニテ滞在ノ爲メ旅金ヲ消費シ進退如何トモスル能ハス終ニ乙署ニ出テ救助ヲ請フコトアルハ刑法附則第三十二條ニ準據シ監獄ノ別房ニ留置スルノ處分ヲ爲スヘキモノト思考候ヘ共抑モ該條ニ於ケル單ニ監獄署ヨリ送致ヲ受ケタル節其居住地ヘ歸着スル資金ナキ場合ニ於テ處分スルノ法則ニテ有之候ヘハ聊カ疑義ニ涉リ候條如何取扱可然哉

若シ果シテ前條ノ如ク附則第三十二條ニ準據スヘキモノトスルキハ甲警察署ヨリ丙警察署即チ居住地ヘ送付セシ書類取扱ノ手續ハ如何取計可然哉

前條ノ場合ニ於テ若シ監獄署無之地ナレハ附則第三十二條ニ準據スルヲ得ヌ右ハ如何處分

シ可然哉

指令 十六年十月二十九日

(四十)

何之趣刑法附則第三十二條ニ準據シテ其滞在地監獄ノ別房ニ留置シ其書類ハ居住地ノ警察署ニ其事由ヲ報知シテ遞送ヲ求ム可ク若シ其滞在地ニ監獄署アラサル時ハ最近ノ監獄署ニ送致シテ全斷ノ手續ヲ爲ス可キモノトス

内務省達 十五年三月廿二日(第十九號)  
 監視總府(東京府ヲ除ク)

刑法附則中監視票旅券共別紙書式之通相定候條各應ニ於テ調製シ下附スヘシ此旨相達候事  
 但紙質堅緻ナルモノヲ用ユヘシ

(別紙)

白摺花枠

監視票	
刑名	何府區何町何番地住又ハ寄留何某
刑期	何年何月何日宣告
監視何年何月	何年何月何日滿
族籍	何
	何年何月何日生

刑法ノ部 〇刑法附則及監視ニ關スル事

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一 毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其勤慎ナルヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ至ルコト能ハザルハ其事由ヲ届出ツヘシ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アルハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此ノ票ヲ下附スル者也

東京ニテハ

何警察署

警察使何某

印

明治何年何月日

署名

面

府縣ニテハ

何府縣警察署

警部何某

印

認印表

初年		二年		三年		四年		五年	
月一	月二	月三	月四	月一	月二	月三	月四	月一	月二
十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前	十五日以前
十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後	十六日以後
頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參	頭痛 嘔吐 付不 參
旅行中	旅行中	旅行中	旅行中	旅行中	旅行中	旅行中	旅行中	旅行中	旅行中

刑法ノ部 ○刑法附則及監視ニ關スル事

表 面		月二十	月一十	月十	月九	月八	月七	月六	月五
		色摺花粹							
旅券									
何府何區何町何番地住又ハ寄置何某子孫妻女同居									

刑名	刑期	族籍
監視	何年何月何日 何年何月何日 何年何月何日	何某
<p>罪質犯數</p> <p>一此者何府縣何區郡何町村何某方へ旅行スルヲ許可ス</p> <p>一何年何月何日日本地ヲ發途ス</p> <p>一先方ノ地トキハ其旨ヲ記スニ滞在スル日數何日間トス</p> <p>一何年何月何日歸宅スルモノトス</p> <p>先方ノ地トキハ其旨ヲ記スニ到レハ此旅券ヲ直チニ其地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事</p> <p>旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムコトヲ得ヌシテ淹滞シタルキハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ歸著シタルキ若シクハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速カニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事</p>		

歸著シタルハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事  
右刑法附則第三十條ニ依リ下附スル者也

東京ニテハ

何警察署

明治何年何月何日

警察使何某

印

府縣ニテハ

何府縣警察署

警部何某

印

面

認 印 表

某警察署

、  
、  
、  
、  
、  
、

裏

何年何月何日ヨリ  
何年何月何日迄何  
府縣何區何町番地  
何某方ニ滞在ス

印

印

印

刑法ノ部 〇刑法附則及監視ニ關スル事

面

色摺花枠

旅券

刑名 刑 期 何年何月何日完告  
何年何月何日滿期 族籍 何 何府何區何町何番地住又ハ寄留何某  
子或妻女同居

監視何年何月 何年何月何日起  
何年何月何日滿 何 某

罪質犯數 何年何月何日  
何年何月何日 何 某

明治何年何月何日生

一此者監視<sup>假出獄ヲ許サ</sup>特別監視ニ付セラレ何地ニ於テ之ヲ執行スヘキニ付該地へ到ル者也

一何年何月何日日本地ヲ發途ス

一何年何月何日先方ノ地ニ到ルモノトス

先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出ス可キ事  
但シ本文旅券ニ假出獄證票ヲ添へ官吏ノ監査ヲ受クヘシ  
旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタルハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ到着ノ日此旅券ニ副へ警察署ニ差出ス可キ事

右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ

何警察署

明治何年何月何日 署 印

警察使何某 印

刑法ノ部 〇刑法附則及監視ニ關スル事



府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某

印

特別監視表

表

刑名	刑期	何府何區何村何番地住又ハ寄留何某 子弟妻女同居	族籍	何某
附加監視何年何月何日 何年何月何日滿	何年何月何日 何年何月何日滿			
假出獄何年何月何日許可				
特別監視何年何月何日 何年何月何日滿	何年何月何日 何年何月何日滿			
特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ				

一 毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサルキハ其事由ヲ届出ツヘシ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスルキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

(重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルキハ左ノ一項ヲ附加ス)

自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスルキハ刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下附スル者也

東京ニテハ

何警察署

面

明治何年何月何日

警察使何某 印

府縣ニテハ  
何府縣何警察署  
警部何某 印

認 印 表

二 月		一月 何日 疾症 出頭 不付	初	年	二	年	三	年	四	年
			一度 二度 三度 四度 五度 一度 二度 三度 四度 五度 一度 二度 三度 四度 五度							

面

三	月	四	月	五	月	六	月	七	月	八	月	九	月	十	月	十一	月	十二	

内務省達 十五年五月十五日(第三十一號) 警察視察府縣(東京府ヲ除ク)ハ  
 本年當省乙第十九號達前刑法附則第二十五條ニ依リ附與スル旅券第四項ノ但書ハ特別監視

刑法ノ部 乙〇刑法附則及監視ニ關スル事 七十五

ニ附セラレタル者ニ限り挿入シ尋常監視ニ附セラレタル者ニ挿入セス及ヒ監視票并ニ旅券ニ警察署トアルハ警察分署ヲモ包含セル義ト心得ヘシ此旨更ニ相違候事

治罪法之部

ち ○全般ニ關スル事

布告 十八年五月廿九日第十二號

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ抵觸スルモノハ當分施行セス

第一條 常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條 軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍需ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ被告ノ所屬長若クハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條 敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍需用ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ掲クルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上

治罪法ノ部 ち ○全般ニ關スル事

(一)

(二)

告スルハ被告人ニ限ルヘシ

第五條 多衆ノ軍人常人關毆殺傷其他疑獄ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍官法司會同審問スルコトヲ得

第六條 軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス已ニ確定シタル裁判ノ効力ハ互ニ之ヲ侵スコトヲ得ス

布告 十四年十二月廿八日第七十三號

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者

一未丁年者

二妻タル者

三白痴瘋癲人

四治産ノ禁ヲ受ケタル者

法律ニ定メタル代人

一未丁年者ノ父若クハ母又ハ全居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二夫タル者

三白痴瘋癲人ノ保管者

四治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

民事擔當人

一未丁年者ノ父若クハ母又ハ全居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二夫タル者

三白痴瘋癲人ノ保管者

四雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

布告 十四年十二月十五日第六十五號

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴發シ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ

第二條 船長告訴發シ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其中立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

治罪法ノ部 ち〇全般ニ關スル事

(三)

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ若港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港阜ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

布告 十五年二月一日第七號  
治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定ム

布告 十五年十一月十三日第五拾三號  
治罪法第二百六條第二百七條中ニ拾四時内ト有之處已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内五日以内ニ於テヌルコトヲ得

布告 十四年九月廿日第四十六號  
治罪法第一百條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ準シ處分ヌルコトヲ得

布告 十四年九月廿日第四十六號  
治罪法第三百二十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖ヨ其營業ヲ爲ス時間又旅館屋賃座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラス搜索致シ苦シカラヌ

請訓 十六年八月三十一日  
京都府ヨリ司法省ヘ

第一條 治罪法第三百二十三條ニ家宅ニ潛匿シタルト思料シタルキハ云々トアリ現ニ見認ル時ト雖モ客年第四十六號公布第五項(七)ヲ除クノ外日出前日没後ハ家宅搜索難致筋ニ有之候哉

第二條 全第百八十一條第百八十二條ニ左ニ記載シタルモノハ證人ト爲ルコトヲ許サスト有之立會人トナルコトヲ得サルノ明文無之ニ付無能力者ヲ除クノ外立會人トナルコトヲ得ル義ト心得可然哉  
內訓 十六年九月十一日  
請訓ノ趣第一條令狀執行人ニ於テ現ニ目撃シタル場合若クハ戶主ノ承諾アルキハ何時ニ拘ハラヌ家宅搜索ヲ爲スコトヲ得第二條ハ見解ノ通此旨及内訓候也  
司法省達 十四年十二月五日丙第百十六號大審院  
裁判所審視廳府廳東京府ヲ除クヘ  
治罪法中犯人證人等押印ノ條々實印無之者ニ限り從來ノ慣例ニ依リ押印爲致候義ト心得ヘシ此旨相達候事

り) ○裁判所ノ開閉ニ關スル事  
布告 十六年十二月廿八日第四十九號  
治罪法第八十三條ニ記載スル事件ニ付高等法院ヲ開カサル時ハ通常裁判所ニテ裁判スルヲ得

治罪法ノ部 一〇裁判所ノ開閉ニ關スル事  
八十一

(二)

司法省內訓 十六年一月十一日始  
 審判所長全檢中長  
 重罪裁判所開廳ノ期限ハ是迄各地區々ニ涉リ現ニ豫審終了ノ被告人ト雖モ開廳期限ノ爲メ自然數日間滯留セシムル義モ有之候處自今一年ヲ四期ニ分チ一月ヨリ三月迄ヲ第一期ノ開廳時間トシ隨時開廳シ第二期以下三ヶ月毎ニ之ニ準シ開廳開庭スルヲ得ヘキ義ト心得ヘシ此旨及內訓候事

但前期ノ審理後期ニ及フモ仍ホ前期ノ事件トシテ審判結了スヘシ

(三)

司法省書記官通知 十六年四月大審院檢察  
 裁判所始審裁判所へ

一ノ重罪裁判所ヲ全時兩地ニ開廳ノ件ニ關シ大坂控訴裁判所長ノ請訓ニ對シ別紙ノ通御內訓相成候條爲御心得此旨及御通知候也  
 請訓 十六年三月十六日

松山始審裁判所高松支廳ニ於テ第一期重罪裁判所ヲ開全重罪裁判所ノ義ニ付愛媛重罪裁判所長ヨリ別紙ノ通申出候處本年第五八七號ノ御內訓ハ該重罪裁判所長事故差支ノ場合代員ヲ命スルノ義ニ有之然ルニ右申出ノ趣ニテハ現今愛媛重罪裁判所開廳事務取扱居候折柄猶又高松支廳ニ於テ重罪裁判所開廳候義ニテ全時愛媛重罪裁判所長兩名ニ相成隨テ一ノ重罪裁判所ヲ兩地ニ開キ候筋ニ相成不都合ト存候ヘ共一應何分ノ御指揮ヲ蒙リ度至急御內訓ヲ仰候也  
 (右文中ノ別紙ハ左ノ如シ)

別紙御届之通當廳ニ於テ愛媛重罪裁判所開廳致候管内高松支廳分重罪事件數多有之ヲ以テ此度限リ該廳ニ於テ第一期重罪裁判所ヲ開ク事ニ決定致候就テハ拙官出張ノ上審判スヘキノ慮事故有之出張スルヲ得サルニ付該重罪裁判所長ハ本年司法省第五八七號內訓ニ依リ當期限リ次席判事へ被命度即チ判事人名左記ノ通ニ有之候此旨及御照會候也(於松山始審裁判所愛媛重罪裁判所長判事奥山政敬氏ヨリ大坂控訴裁判所長清岡判事宛)

內訓 十六年三月十五日

一ノ重罪裁判所ヲ全時兩地ニ開ク義ニ付別紙請訓ノ趣ハ書面見込ノ通ニ候條成ヘク本年一月廿五日第三五二號內訓ノ旨趣ニ從ヒ本廳へ經メテ之ヲ審判シ猶不得已支廳ニ於テ開廳スルヲ要スル節ハ前後何レ歎便宜ニ據リ一方閉廳ノ後開廳スヘキ様愛媛重罪裁判所長へ相示スヘシ此旨及內訓候事

(四)

司法省達 十五年十月五日丁第五  
 十三號大審院裁判所へ

罰金ヲ禁錮ニ換フル儀ニ付神奈川重罪裁判所判事荒木博臣ヨリ別紙甲號之通伺出候ニ付乙號ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

(甲號) 伺 十五年九月十八日

重罪裁判ニテ罰金ノ言渡ヲ受ケタル者期限内ニ納完セサル時ハ刑法第二十七條ニ照シ輕禁錮ニ換フヘキ處重罪裁判所開廳後ハ(始審裁判所ニ於テ開キタルキ)右禁錮ニ換フル事ヲ檢

治罪法ノ部 〇裁判所ノ開閉ニ關スル事

察官ノ求メニ因リ其始審裁判所ノ所長判事ニテ之ヲ命シ候様致度右ハ差掛リ候事件有之候  
間至急御指令相成度此段相伺候也

(乙號) 指令 十五年九  
月廿六日

伺之通

(ぬ) ○裁判所ノ職員及其職務ニ關スル事

布告 十四年九月二十日  
第四十六號 按察

治罪法第七拾三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト相定候事

布告 十四年十月六日  
第五十五號

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ義當分其裁判所長又ハ院長ノ  
臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

布告 十六年一月  
十日第三號

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内始審裁判所長ヲ以テ其裁判長ト爲スコト  
ヲ得

但沖繩縣札幌縣根室縣ノ儀ハ從前ノ通タル可シ

司法省内訓 十六年一月十一日 按察  
裁判所長全檢事長ヘ

本年(一月)第三號ニ公布ノ趣モ有之猶本日第七十一號ヲ以テ及内訓候ニ付テハ左ノ通心得

(一)

(二)

(三)

ヘシ

管内始審裁判所長ヘハ常ニ其重罪裁判所長ヲ命シ置ク可シ但該詞令書ハ期限ヲ以テ記載ス  
ルニ及ハヌ

右ノ場合陪席判事ヲ命スヘキ手續ニ於ケルモ豫メ始審裁判所長ヘ囑託致シ置クヘシ

管内始審裁判所上席檢事ハ常ニ其重罪裁判所檢察官ノ職務ヲ行フヘキ旨豫メ指名致シ置ヘ  
シ但其特達書ハ期限ヲ記載スルニ及ハヌ

治罪法第二百六十條第一項ニ從ヒ豫審書類ノ送致ヲ受ケ又第二項ニ從ヒ書類物件及被告人

ヲ重罪裁判所ニ移サシムルノ手續モ亦始審裁判所檢事ノ取扱ニ屬セシムヘシ

管内始審裁判所長并上席檢事轉任交代等ノ節ハ其時々前條ノ手續ヲ爲スヘシ

同 十六年三月神戶始審  
裁判所ヨリ司法省ヘ

第一條 重罪裁判所開庭ノ期ニ際シ本廳檢事疾病若クハ事故ニ因リ其職ヲ行フ能ハサル場  
合ニ於テ檢事補中上席ノ者ヲ以テ代理爲被不苦哉

第二條 若シ支廳ニ於テ重罪裁判所開庭ノ場合ニ於テ本廳檢事疾病若クハ事故ニ依リ出張

スルノ能ハサル場合ニ於テ其支廳詰檢事ヲシテ代理セシメ又ハ本廳詰檢事補中上席ノ者

ヲシテ出張セシムル等適宜取計ヲ得ル儀ト心得可然哉

第三條 前二條ノ場合ニ於テハ豫メ知り得ヘキ時ハ控訴裁判所檢事長ヘ其旨ヲ申立全官

治罪法ノ部 ぬ○裁判所ノ職員及其職務ニ關スル事

(四)

ノ命令ニ從ヒ若シ急遽ノ場合ニ於テハ代理セシメタル後其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ届出ルモ不苦儀ト相心得可然哉

(指令) 十六年三月

第一條 伺之通

第二條 支廳檢事ニ代理ヲ囑スヘシ

第三條 控訴裁判所檢事長へ通牒スルニ止リ命令ヲ俟ツニ及ハス

司法省達 十六年三月十九日丁 第十三號裁判所へ

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ケルノ手續等ニ付本年一月第七拾二號ヲ以テ内訓ニ及置候處其重罪事件ニ係ル事實ノ探討若クハ此ニ關スル景況ノ通報等ハ右始審裁判所檢事ヲシテ其取調ヲ爲シシムルモ總テ是迄ノ通治罪法第七拾六條并明治十四年當省丁第三拾四號達ニ據リ控訴裁判所檢事長ニ於テ之ヲ調成シ差出スヘキ事ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

司法省達 十五年十一月十四日 番外裁判所へ

豫審掛ハ滿一ヶ年經過スルトモ該掛ノ解免ヲ達スル迄ハ其職務ヲ繼續スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

布告 十六年三月七日第八號

豫審判事裁判所ニ於テ豫審ヲ爲ス時ハ當分ノ内書記ノ立會ナクシテ被告人證人ヲ訊問スル

(七)

コトヲ得

請訓 十六年九月十八日岐阜縣輕罪裁判所檢事ヨリ司法省へ

本年第八號(七)ヲ以テ豫審判事豫審ヲ爲ス時ハ當分ノ内書記ノ立會ナクシテ被告人證人ヲ訊問スル事ヲ得ト御布告有之ニ付書記ノ立會ナクシテ取調タル豫審事件ノ終結言渡書ノ如キハ無論書記ノ署名ヲ要セサル義ト存候へ共總テノ令狀ニハ治罪法第三百三十條第二項ニ依リ書記ノ署名捺印ヲ要ス可キモノナルヤ

内訓 十六年十月四日

別紙請訓ノ趣ハ令狀ハ勿論終結ノ言渡書ヲモ書記ノ連署ヲ要スヘキ者ト心得ヘシ此段及内訓候也

(九)

る ○裁判管轄ニ關スル事

布告 十六年一月十日第二號

明治十四年十月第五拾三號同十五年六月第二拾八號布告各裁判所ノ位置及管轄區畫別表之通改定シ始審裁判所支廳ハ本廳同一ノ權限ヲ以テ裁判セシム但明治十六年二月一日ヨリ施行ス

(別表)

始審	治安府縣	國名	區	郡	名
本廳	支廳				

治罪法ノ部 〇裁判管轄ニ關スル事



大														
京			東											
千葉			東京											
八日市場			八王子											
木更津			横濱											
北條			小田原											
千葉縣			神奈川県											
上總			武藏											
上總			武藏											
下總			相模											
安房			相模											
海上			相模											
山邊			相模											
西茨城			相模											
那珂			相模											
久慈			相模											
多賀			相模											
鹿島ノ内			相模											

八十八

水戸														
水戸			埼玉											
浦和			埼玉											
熊谷			埼玉											
前橋			埼玉											
高崎			埼玉											
群馬			埼玉											
下野			埼玉											
上野			埼玉											
武蔵			埼玉											
秩父			埼玉											
東群馬			埼玉											
西群馬			埼玉											
碓氷			埼玉											
諸野川			埼玉											
新田			埼玉											
山田			埼玉											
邑樂			埼玉											
庵原			埼玉											
有渡			埼玉											
安部			埼玉											
志田			埼玉											
益津			埼玉											
那加			埼玉											
加茂ノ内			埼玉											

治罪法ノ部  
る○裁判管轄ニ関スル事

八十九



裁										訴				
金澤		福井			大津		岡山				豊岡			
小松		小濱			彦根		津山		高梁		岡山		豊岡	
金澤		敦賀			福井		大津		津山		岡山		豊岡	
加賀		越前			近江		美作		備前		備中		但馬	
能美		遠敷			滋賀		全國十二郡		上房		小田		岡山	
江沼		大野			神崎		滋賀		阿賀		後月		備前	
		遠敷			愛智		野洲		阿賀		下道		備中	
		大飯			犬上		甲賀		哲多		窪屋		備前	
		大飯			坂田		栗太		川上		淺口		備中	
		大飯			伊香		蒲生		加陽		淺口		備中	
		大飯			坂井		高島		加陽		淺口		備中	
		大飯			足羽		高島		加陽		淺口		備中	

控										大											
神戶					大阪					宮津					宮津						
姫路					奈良					天王寺					福知山						
龍野					五條					天王寺					福知山						
兵庫縣										大阪府											
播磨		播磨		淡路		丹波		播磨		大和		河内		河内		河内		丹波		丹波	
揖東		加東		全國二郡		多紀		明石		宇智		宇智		南區		東區		天田		熊野	
赤穂		加古		全國二郡		氷上		美濃		葛上		高市		住吉		交野		加佐		竹野	
佐用		加古		全國二郡		氷上		美濃		葛上		高市		住吉		交野		加佐		竹野	
安栗		加古		全國二郡		氷上		美濃		葛上		高市		住吉		交野		加佐		竹野	



判所		廣島					控訴		裁	
岐	阜	尾	道	山	口	山口	赤間	關	松	江
高	山	三	廣	今	市	島	根	縣	石	見
御	大	廣	尾	山	關	關	關	關	關	關
岐	阜	岐	阜	岐	阜	岐	阜	岐	阜	岐
美濃	飛騨	安藝	備後	備前	備後	備前	備後	備前	備後	備前
厚見	羽栗	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
武儀	郡上	加茂	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
海西	石津	加茂	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
安八	池田	加茂	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
賀茂	可兒	加茂	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
賀茂	可兒	加茂	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
厚見	羽栗	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
武儀	郡上	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
海西	石津	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
安八	池田	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
賀茂	可兒	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島
賀茂	可兒	廣島	高田	御瀨	都濃	美禰	熊毛	大津	阿武	見島

判所		長					所		崎	
西	濱	米	島	長	大	島	平	福	巖	
西	濱	米	島	長	大	島	平	福	巖	
西	濱	米	島	長	大	島	平	福	巖	
西	濱	米	島	長	大	島	平	福	巖	
西	濱	米	島	長	大	島	平	福	巖	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	
石見	隱岐	因幡	伯耆	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	

治罪法ノ部  
る○裁判管轄ニ關スル事

宮		所				判			
仙臺	宮崎	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本
古川	仙臺	延岡	都城	宮崎	大島	水引	鹿兒島	天草	人吉
宮城縣	陸前	日向	宮崎縣	日向	大島	薩摩	日向	天草	肥後
志田	加美	玉造	栗原	遠田	大島	高城	伊佐	額島	出水
仙臺區	宮城	名取	黒川	西白杵	北諸縣	西諸縣	南瑯珂ノ内	宮崎	兒湯
東諸縣	北瑯珂	南瑯珂ノ内	鹿兒島	薩摩	日向	天草	人吉	八代	山鹿
阿蘇	山鹿	山本	菊池	玉名	八代	蘆北	求麻	天草	鹿兒島

裁		訴				控			
大分	中津	小倉	柳川	久留米	福岡	伊萬里	唐津	佐賀	肥前
熊本	豆田	中津	杵築	竹田	佐伯	大分	小倉	柳川	久留米
熊本區	飽田	託摩	宇土	合志	上益城	直入	大野ノ内	西國東	速見ノ内
豊後	豊前	豊後	筑前	筑前	筑前	筑前	筑前	筑前	筑前
玖珠	日田	下毛	宇佐	直入	大野ノ内	西國東	速見ノ内	南海部	北海部ノ内
大分	北海部ノ内	大野ノ内	速見ノ内	遠賀	田川	京都	中津	筑城	上毛
三池	山門	三潁ノ内	御井	上妻	下妻	生葉	竹野	山本	御原
福岡區	席田	粕屋	宗像	糟波	早良	嘉麻	上座	下座	夜須
御原	三潁ノ内	志摩	怡土	那珂	志摩	怡土	那珂	志摩	怡土
東松浦	西松浦	東松浦	西松浦	東松浦	西松浦	東松浦	西松浦	東松浦	西松浦

館												函												所												判											
弘前						秋田						盛岡						大曲						磐井						福岡																	
五所河原		青森		弘前		大曲		大館町		能代		本庄		秋田		磐井		宮古		福岡		岩手縣		秋田縣		青森縣		陸奥																			
北津輕		東津輕		西津輕		中津輕		雄勝		仙北		鹿角		山本		由利		川邊		南秋田		氣仙		陸前		陸中		陸奥																			
北津輕		東津輕		西津輕		中津輕		雄勝		仙北		鹿角		山本		由利		川邊		南秋田		氣仙		陸前		陸中		陸奥																			

裁												訴												控												城											
山形						福島						石巻						大河原						磐城						陸前																	
酒田		鶴岡		酒田		鶴岡		米澤		新庄		山形		若松		磐城		白河		中村		福島		石巻		大河原		磐城		陸前																	
西閉伊		東田川		飽海		置賜		最上		會津		磐城		磐城		磐城		宇多		信夫		桃生		柴田		陸前		陸前																			
西閉伊		東田川		飽海		置賜		最上		會津		磐城		磐城		磐城		宇多		信夫		桃生		柴田		陸前		陸前																			

(二)

院												
所根室		判札幌			裁			訴函館			控	
											八戸八戸	
厚岸	根室	岩内	小樽	増毛	幌泉	札幌	壽都	福山	江刺	函館	函館	八戸
根室縣		札幌縣			函館縣							
釧路	根室	後志	天鹽	日高	十勝	石狩	後志	渡島	渡島	渡島	三戸	上北ノ内
全國七郡	全國五郡 全國八郡 釧路網走帶広教別	古宇岩内	宗谷枝幸 利尻禮文	小樽余市 美國積丹 高島忍路	古平	三石浦河 樺似幌泉	全國七郡	三石浦河 樺似幌泉	島牧壽都 歌樂磯谷	松前	久遠太櫓 瀬棚奥尻	函館區 龜田上磯茅部

布告 十六年九月十日  
三十三號

(三)

明治十四年十月十二日 第七拾八號布告ヲ廢シ自今重罪裁判所ノ管轄ハ各始審裁判所管内ヲ以テ一區畫ト定メ各其地名ヲ冒シ其重罪裁判所ト名稱ス但沖繩縣札幌縣根室縣ノ地方ハ従前ノ通

布告 十四年十二月二十日  
第八日第七拾九號

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ義本年(十月)第五十三號(一)ニテヲ以テ布告候處北海道(函館始審裁判所管内ヲ除ク)并ニ沖繩縣ノ義ハ當分従前ノ通其所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ但控訴ノ義北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス

布告 十五年七月八日  
第三十三號

明治十四年十月十二日 第七十八號(ニ)ニテヲ以テ重罪裁判所管轄區畫布告候處沖繩縣管内重罪犯處分ノ儀ハ當分ノ内同縣ニ於テ審訊シ證憑擬律按ヲ具ヘ長崎控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ

布告 十五年六月二日  
第三十號

スヘシ治罪ノ手續ハ便宜ノ取計ヲ爲スコトヲ得

布告 十五年六月二日  
第三十號

札幌根室ノ各始審裁判所ニ於テハ當分ノ内治罪ノ手續便宜取計且重罪犯ハ之ヲ審訊シ證憑擬律按ヲ具ヘ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ

布告 十八年十月二十日  
第三拾三號

自今札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク但治罪ノ手續ハ當分ノ内便宜取計ヲヘシ

治罪法ノ部 〇裁判管轄ニ關スル事

(五)

(四)



(六)

司法省達 十五年六月十四日丙第二十一號大審院裁判所

被告事件重罪ナル時ト雖ハ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處ス可キ者ハ總テ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スル儀ト心得可シ此旨相達候事

(七)

布告 十四年九月二十日 第四十六號按察

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告入ト雖ハ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

(八)

布告 十四年十月六日 第五十四號

刑法治罪法實施ノ義布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限り始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此旨布告候事

(九)

但本文ノ場合ニ於テ認廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

布告 十四年十二月廿八日第七十七號  
本年十月第五十四號ノヨ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限り治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘシ旨布告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

(十)

但本文ノ場合ニ於テ認廷内治罪ノ手續等ハ本年第五十四號布告但書ノ通タルヘシ

布告 十四年十月十七日第七十七號  
伊豆七島裁判事務當分該島吏へ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ  
布告 十四年十月十七日第七十七號

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ豫審始審裁判所即チ輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(十一)

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

布告 十五年三月三日 第六拾六號  
樺戶集治監ノ囚人假出獄免刑者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ  
但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス  
布告 十五年八月十二日 第四十一號

空知築治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計ヲヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス  
布告 十六年十一月十日 第三拾八號

樺戸空知兩築治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ重罪ニ該ル者ハ當分ノ内札幌始審裁判所ニ於テ明治十五年六月第卅號布告（四）ニ準シ處分スヘシ

布告 十八年十二月十日 第七日第四拾二號  
釧路築治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計ヲヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス  
司法省達 十六年九月廿一日丁第 廿三號大審院裁判所へ

今般陸軍治罪法施行相成候ニ付左之通陸軍卿ヨリ照會有之候條爲心得此旨相達候事  
已決重罪囚其他裁判宣告ニ依リ軍籍ヲ脱シタル者ト雖モ犯罪之レ有ル時ハ舊慣ニ據リ軍籍ニ於テ審判致來候處今般陸軍治罪法御頒布ニ付テハ特例アルモノヲ除ノ外ハ軍籍ニ於テ審判シ得ヘキヲサル者ニ有之候間右已決囚ニシテ重罪ヲ犯ス者等有之候時ハ地方管轄裁判所ニ送付セシメ候間豫メ御達置相成度此段及御照會候也

(二十)

明治十六年九月十三日

陸軍卿代理

參事院議長山縣有朋

司法卿大木喬任殿

追テ自今本文ノ如キ罪囚ハ悉ク地方監獄ニ交付ノ見込ニ有之候此段申添候也

(を) ○書類送達裁判費用ニ關スル事

布告 十四年九月廿日 第四十六號拔萃

書類送達ニ付キ治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内ハ不及其義候事

司法省内達 十六年二月 各裁判所檢取ヘ

刑事上告ニ付各裁判所ヨリ大審院へ送達スル書類中ニ往々上告申立ノ月日明ナラサルモノ之レアリ爲メニ往復ノ時日ヲ費シ隨テ事務ノ延滞ヲ來シ候ニ付自今上告書類差出候節ハ必ス檢事ニ於テ月日ヲ証明シ送達スヘシ此旨及内達候也

司法省達 十六年七月十四日丙第四號大審院 裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ

監倉若クハ獄舎ニ在ル被告人へ送達スヘキ渾テノ書類ハ裁判所ヨリ監獄署へ送達ノ手續ヲ囑託シ該署ニ於テハ規則ニ從ヒ本人ニ送達シ令狀ハ其正本其他ハ送達書ノ一本ヲ裁判所へ返還スヘキ機取計ヘシ此旨相達候事

(一) (二) (三)

治罪法ノ部 之○書類送達裁判費用ニ關スル事

(四)

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ渾テ取消候事

司法省達

十七年六月廿三日丙第二號大審院  
裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ

已決囚ノ犯罪ニ付キ之ヲ裁判所ニ呼出シ審理ノ未刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ明治十五年  
當省丙第八號達(三)ニヨリ檢察官ヨリ其宣告書ノ原本ヲ司獄官ニ送達スルハ勿論自今已決囚  
ニ對スル其他ノ宣告ニ付テモ其豫審ニ係ルト公判ニ係ルトヲ問ハス書記ヨリ宣告書ノ原本  
ヲ司獄官ニ送致シ又証人トシテ出廷セシメタル已決囚用濟ニ至リタル時ハ亦書記ヨリ其旨  
ヲ司獄官ニ報告ス可キ義ト心得ヘシ此旨相達候事

請訓

十七年四月十日岡山始審裁  
判所ヨリ司法省ヘ請訓摘要

第一條

甲裁判所ノ重罪公判ニ對シ上告ヲナシ大審院ニ於テ之ヲ破毀シ乙裁判所ニ移サレ  
タル時ノ場合被告事件一切ノ書類ヲ送致スヘキ手續別段ノ正條ナキヲ以テ或ハ甲裁判所  
ヨリ直チニ其移サレタル乙裁判所ノ管轄檢察長ヘ送致スルモアリ或ハ乙裁判所ノ檢事ヘ  
被告人ト共ニ送致シ乙裁判所ノ檢事ニ於テ更ニ治罪法第二百六十條ノ例ニ原キ其控訴裁  
判所檢察長ヘ送致スルモアリ其取扱區々ニ有之輕罪ニ於テハ原裁判所ヨリ直チニ其移サ  
レタル裁判所ヘ送致スルヲ以テ例トナスモ重罪事件ニ於テハ必ス檢察長ヲ經サルヘカラ  
サルモノニ付何レノ手續ニ從フヘキヤ前説ノ如キハ其管轄ニアラサル裁判所ヨリ他ノ管  
轄檢察長ヘ送致スルハ或ハ事ノ順序ヲ逐ハサルモノ、如シ然ラハ後説ノ手續ニ從フヲ以

(五)

ヲ穩當トナス乎

内訓

十七年五  
月十日

(六)

請訓ノ趣第一條ハ甲裁判所檢察官ヨリ直ニ乙裁判所ヲ開ク可キ裁判所ノ檢察官ニ送致ス可シ

司法省達

十六年十一月十三日丙第九號大審  
院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ

刑事ニ付キ警察官ノ處分ニ屬スル費用ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立タサル者ト  
ス然レトモ豫審判事ノ囑托ヲ受ケ囑托處分ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス此旨爲心得相達  
候事

但本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候事

内務省達

十七年三月廿五日乙第十八號  
警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ

刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用ノ義義ニ指令又ハ訓示及ヒ置候次第モ有之處豫審判事  
ノ囑托ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ヲ除ク外ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立タ  
サル義ニ付之ニ矛盾スル指令及ヒ訓示ハ都テ取消候條支給方ハ明治九年第六十三號公布ニ  
據ル義ト心得此旨相達候事

太政官達

十七年六月十三  
日第五十七號

官吏職務上ニ係リ刑事裁判ノ証人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ治罪法ニヨリ旅費日當ヲ請  
求スルヲ得ルト雖モ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル義ト心得可シ但旅

(七)

治罪法ノ部 を○書寫送達裁判費用ニ關スル事

費日當ヲ請求シタル時其金額ハ雜收入トシテ大藏省ヘ納付ス可シ

伺 十八年九月四日千

崇願ヨリ司法省ヘ

一郡吏員戸長等職務上ニ係リ刑事裁判ノ証人トシテ裁判所ニ出頭スルトキハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルヲ得ルハ勿論ノ義ト存候ヘ共被告事件無罪又ハ免訴トナリタルトキハ明治十七年<sup>六月</sup>太政官第五十七號公達<sup>出</sup>ニ準シ請求セサル義ト心得可然哉又ハ右之場合ト雖<sup>ル</sup>郡吏員戸長等ニ在テハ請求スルヲ得ヘキ義ニ候哉

一前顯太政官第五十七號公達ニハ被告事件無罪又ハ免訴トナリタルトキハ請求セサル義ト有之候ヘ共治罪法第九十條ニハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルヲ得ト有之然レハ被告事件未<sup>タ</sup>判決ヲ經サル以前ニ在テ之ヲ請求シ置キ無罪又ハ免訴トナリタルトキハ之ヲ受取ル義ト心得可然哉

指令 十八年十一月二日

伺之趣第一項前段伺之通第二項伺之通

司法省達 十八年一月廿日

丁第二號裁判所ヘ

免訴無罪者ニ係ル証人醫師鑑定人通辯人及譯人等旅費日當其他ノ費用官ノ擔當ニ歸スルモノハ裁判確定ノ即日其請求書ヲ以テ書記局ヨリ會計課ヘ報告シ渡シ方取計ヲ可シ此旨相達候事

(八)

但從前本文ノ通報告ヲナサス會計年度經過セシモノハ其遷延シタル事由書ヲ添付シ速ニ報告致ス可シ

(九)

司法省達

十五年七月七日丙第二十六號大審院  
裁判所警視廳府縣東京府ヲ除クヘ

治罪法第三百七條第二項公訴裁判費用官ニ於テ擔當スヘキ場合該金額ハ裁判所ヨリ支出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル件々ハ取消候事

伺

十五年八月十一日  
警視廳ヨリ司法省ヘ

治罪法第二百八十五條ニ依リ調書ヲ作リタル司法警察官及ヒ罪犯ヲ告發セシ巡查証人トシテ裁判所ヨリ呼出ヲ受タル場合ニ於テハ職務上ヲ以テ出頭スル者ナルモ該報知書召喚狀ノ送達賃錢ハ一個人民ト等シク本人ヨリ拂フヘキ儀ニ候哉果シテ然ラハ司法警察官及ヒ巡查ハ公務ニ對シ私費ヲ以テスルノ理ニ當リ勤務上多少ノ關係ヲ及シ可申儀ト考量致候依テ相伺候條至急御指令相成度候也

追テ本文報知書及召喚狀ノ送達ハ治罪法ノ定式ヲ踐マサルモ然ルヘキ義ニ候ハ、當廳ヨリ日々各署ヘ馬車往復ノ便モ有之ニ付當廳ヘ送付アラハ速ニ本人ヘ可相達候爲御參考添申候也

指令 十五年八月二十二日

治罪法ノ部 〇書類送達裁判費用ニ關スル事

何ノ越送賃銀ハ支拂ニ不及候事

但書面追テ書ノ趣ハ至使ノ儀ニ付大審院及ヒ東京控訴始審兩裁判所ヘ其旨相達置候事

司法省達 十五年六月廿九日丙第廿五號大審院  
裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

刑法治罪法實施以來刑事ニ付出庭セシメタル証人鑑定人等ノ旅費日當等一時官廳ニ於テ立  
換渡ヲ爲シ候儀モ有之候處該旅費日當等ハ則チ裁判費用ニシテ總テ被告人ノ擔當スヘキモ  
ノナルハ勿論ノ儀ニ付自今右立換渡ヲ爲ヌニ不及儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令及ヒ内訓本文ニ抵觸スル件々ハ都テ取消候事

司法省達 十六年二月一日丁第  
五號大審院裁判所

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類ヲ送達スヘキ際是迄戸長ニ於テ使丁賃銀繰替渡シヲ爲シ候  
儀モ有之候處自今右繰替渡ヲ要スル節ハ一時裁判所ニ於テ繰替置追テ本人ヨリ償却セシム  
ヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

內務省達 十六年二月六日  
乙第百四號府縣

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類送達ノ節戸長役場費ヲ以テ使丁ヘ送達賃銀繰替相渡候儀自今  
不相成候條此旨相達候事

但從前ノ指令本文ニ抵觸ノ廉ハ取消ス

(一十)

(二十)

(三十)

(四十)

(一)

司法省布達 十四年十二月  
二日甲第七號

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上  
納スル義ト心得此旨相達候事

司法省達 十四年十二月十五日丁  
第三十一號裁判所

本年甲第七號布達出前裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者代價ノ義無資方ニシテ上納スル  
能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦義ト心得此旨相達候事

司法省達 十五年三月廿七日丙第十二號裁  
判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治十四年十二月當省甲第七號布達出前裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ下附スル費用ハ當分違警  
罪ニ限り徴收セサル機取計ヲ可シ此旨相達候事

司法省達 十八年十二月九日丙第拾  
號裁判所警視廳府縣

明治十五年三月當省丙第十二號(註)ヲ以テ違警罪裁判言渡謄本又ハ其拔書ヲ下付ス可キ  
費用ハ當分徴收ス可カラサル旨相達置候處本年九月第三拾一號ヲ以テ違警罪即決例公布相成  
候付テハ自今該裁判ノ正式ニ係ルモノハ該費用ヲ徴收シ其即決ニ係ルモノハ從前之通取計  
可シ此旨相達候事

(わ) ○告訴告發證據搜查豫審ニ關スル事

司法省內訓 十六年一月三十一日大審  
院裁判所警視廳府縣

治罪法ノ部 わ○告訴告發證據搜查豫審ニ關スル事

始審裁判所支廳ノ管轄ニ屬スヘキ告訴告發取扱方ノ件ニ付安濃津始審裁判所檢事ヘ別紙ノ  
通及内訓候條爲心得此旨及内訓候事

請訓 十六年一月  
二十三日

第一條 支廳ノ管轄ニ屬スヘキ告訴告發ヲ本廳ニ爲シ若クハ便宜司法警察官ヨリ事件ノ送  
致アリタルトヤハ直ニ本廳ニ於テ之ヲ受理シ即チ捜査ノ手續ヲ爲シ而シテ該事件ヲ其管  
轄支廳ニ移シ又ハ本廳ノ豫審公判ニ付シ不苦候哉

第二條 本廳ニ於テ管理スヘキ事件ト雖モ便宜ニ依リ犯罪ノ捜査ヲ支廳ノ檢事ニ囑托シ且  
其事件ヲ直ニ該支廳ノ豫審公判ニ付スルヲ得ルハ勿論ノ義ト心得可然哉

内訓

一月卅一日支廳ノ管轄ニ屬スヘキ告訴告發取扱ノ義ニ付別紙請訓ノ趣ハ實際便宜ト見込  
事件ニ限り書面ノ如ク取扱不苦候此旨及内訓候事

例 十六年九月十三日前橋始  
審裁判所ヨリ司法省ヘ

脅迫姦淫ノ如キ被害者ノ告訴ヲ待テ論スヘキ罪其告訴ニ因リ檢事ノ請求シタル事件ハ假令  
豫審中被害者ノ棄權アルモ豫審判事ハ通常ノ規則ニ從ヒ仍終結ノ處分ヲ爲スヘキ筋ト相心  
得候ヘ共意見反對ノ向モ有之ニ付此段相伺候也

但豫審判事ニ於テ未タ豫審ニ着手セザル内被害者ノ棄權アル場合ト雖モ檢事ノ請求ニ係

(二)

ル事件ハ本文全權處分スヘキ義ト相心得可然哉

指令 十六年九月  
二十九日

檢察官ノ起訴ヲ爲シタル後被害者棄權ヲ爲シタル時ハ豫審判事ニ於テ本案ノ取調ヲ要セ  
直ニ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ者トス

請訓 十六年十一月一日高知始審  
裁判所檢事ヨリ司法省ヘ

茲ニ一ノ犯姦既ニ處斷ヲ經當時上告中ニ係レル者ニ對シ姦婦ノ本夫ヨリ其姦夫ニ對スル告  
訴ニ限り棄權致度旨願出タルモノアリ右ハ裁判言渡以前トモ違ヒ言渡以後ニ係ルモノハ裁  
判未確定ト雖モ無論公訴ヲ消滅スルノ力ナク又假令言渡以前ト雖モ所謂犯姦ノ如キニ至テ  
ハ即二人一罪ヲ爲シタルモノニテ一半ヲ問ヒ一半ヲ措クノ理ナキヲ以テ姦夫一人ニ限リタ  
ル願下ハ棄權ノ効ナキモノト相心得候ヘ共其分界上ニ於テ聊カ疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御  
指揮相成度此段仰御内訓候也

内訓 十六年十一  
月十五日

請訓ノ趣姦夫ニ對シ棄權ヲ爲シタルモハ姦婦ニ對スル告訴モ從テ消滅ス但裁判言渡後ハ棄  
權スルモ其効ナキ者トス此旨及内訓候也

司法省達 十七年八月十三日丙第三號大審院裁判  
所發祝庭府縣(東京府)ヲ除ク憲兵本部ヘ

郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方ノ義ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相

(三)

治罪法ノ部 ぬ○告訴告發證據捜査豫審ニ關スル事 百十五

違候事

司 法 省

驛遞局ヨリ郵便犯則者ヲ告訴スルト併セテ未納稅不足稅等ノ徵收ヲ請求スルトキハ其請求ニ應シ之ヲ受理スヘキ義ト可心得此旨相違候事

明治十七年七月二十三日

太政大臣三條實美

(四)

同 十八年八月二十一日  
滋賀縣ヨリ司法省へ

町村戸長疾病其他事故アリ用掛リ又ハ筆生等ニテ戸長ノ職務ヲ代理シ事務執行中輕罪又ハ重罪アルコトヲ認知シタルトハ治罪法第九十六條ニ依リ官吏ノ資格ヲ以テ告發スヘキ哉又前條ノ場合ニ於テハ同法第十七條ニ準シ損害賠償ノ責ナキ哉ト明治十六年九月八日付徳島縣ヨリ御省へ伺出タルニ同年十月五日付御指令第一條ニ職務上ニ於テハ告發ノ責任ナシト爲ヌヲ得サルモ治罪法第九十六條ニ依ルヘキ者ニアラス通常人民ト同一ノ手續ヲ以テ告發スヘシ第二條前條指令ノ通りタルモ職務上ニ係ル者ハ伺之通トアリ右第一條御指令ニ告發ノ責任ナシト爲ヌヲ得サル云々トアル上ハ即チ戸長同様告發ノ責任アルモノト思量ス又第二條御指令ニモ職務上ニ係ル者ハ伺ノ通トアリ是亦戸長同様ナルニ獨リ告發ノ手續ニ至ツテ一般人民ト同一ナラシムルハ元來其身分官吏ニ準スヘキモノニアラサル故カト存候得共戸

(五)

長ノ職務ヲ代理執行中ニ告發スル次第ニテ其書面ニモ戸長代理ト署名シ一般人民同様ノ手續ヲ以テ告發セシムルハ少ク穩當ナラサル様相考候其他縣廳並警察署郡役所等ノ無等用掛即チ附ト同等ニ於テ各上官ノ命令ヲ奉シ廳内又ハ出張先キニテ職務執行中犯罪アルコトヲ發見シタル場合モ其告發ノ手續ニ至リ一般人民同様ノ手續ニ據ラシムルトハ職務上其犯罪ヲ發見シタルコト證明スルニ甚不都合ノ際有之様存候如何相心得可然哉  
指令 十八年十月二十四日

伺ノ趣用掛筆生ノ如キモ官吏ノ行ヲ可キ職務ヲ行フトハ官吏ト同視ス可キモノニ付其長官ノ職務代理中ハ治罪法第九十六條ニ從フ可キモノトス

同 十六年九月二十七日  
福岡縣ヨリ司法省へ

官吏職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪アルコトヲ認知又ハ思慮シタルトキハ相當ノ官吏ニ告發スヘキハ治罪法第九十六條ニ於テ命令アル義ニ有之候然ルニ告發后若シ其被告人罪トナラサル場合其損害ノ償ヲ要ムルモ法律ノ命令ニヨリ職務ヲ以テ爲シタルモノナレハ其要償ノ義務ヲ有セン全法第十七條ニ準據スヘキモノト被存候得共全條ニハ檢察官又ハ司法警察官ト指定シ一般官吏ニ適用スルノ明文ト難認候條爲念一應相同候也  
指令 十六年十月九日

伺ノ趣治罪法第十七條ニ掲載シタル官吏ト均シク要償ノ訴ヲ受ケサル義ト心得ヘシ

治罪法ノ部 わ〇告訴告發證據搜查豫審ニ關スル事 百十七

請訓 十六年十二月十日大坂總府  
裁判所檢事ヨリ司法省へ

凡ソ公訴ノ豫審タルヤ毎常極メテ難讞疑獄ニ係リ務メテ鄭重慎重ヲ旨トシ要スルニ被告事件ノ證據微憑ヲ集取シ以テ充分ノ證據アルヤ否ヲ判決スルノ一點ニ外ナラス然リ而シテ其集取シタル數個ノ證據中必スヤ信否取捨一ナラスシテ之レカ判決ヲ與フルヤ精確ニ心證ノ資料ヲ擇フヒ事實ノ真據ヲ明カニシ判決ノ理由ヲ示シ以テ裁判ノ公平無偏ヲ保チ須ラク證憑曖昧ノ間ニ事實ヲ誤リ無辜ノ民ヲシテ不幸ノ害ニ陥ラシメサルヲ要ス可キ者タルヤ言ヲ俟タス然ルニ當廳所轄ノ各裁判所ニ於テ間ニハ豫審ノ言渡書中證憑ノ事項ヲ明示セス單ニ證憑充分トノミ略記スル者有之是等ハ何ノ證據ニ依テ充分ナリト判定シタルヤ漠然トシテ其必信ノ證據更ニ知了スルニ由ナク乃チ檢察官ニ於テハ犯罪ヲ證明スルノ資料ヲ擇フニ煩ハシク被告人ニ於テハ自認ノ反證ヲ照考スルノ便ヲ缺キ被告人ノ幸不幸ヲ來タス而已ナラス公衆ノ危險モ亦渺ナシトセス旁々不都合ヲ生スルヲ覺フ抑モ治罪法第二百二十八條末項ニ違警罪裁判所輕罪裁判所又ハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質模樣證憑ノ充分ナルヲ及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ明示ス可シト有之夫レ本條ノ精神タルヤ證憑ノ充分ナルヲ明示スル最モ緊要點ニシテ所謂證憑充分ナルヲ明示ストハ決シテ證憑充分トノミ單示スルノ謂ニ非ラスシテ必ス證憑ノ事項ヲ明確ニ臚列明示スルノ謂ニ外ナラサル可シ茲ニ當廳ノ所轄中ニ於テ過半ハ本議同感ノ者有之ト雖ヒ二三ノ裁判所ニ在テ前顯ノ

如キ證憑略記ノ判文ヲ用ヒ反テ簡便ニシテ適法ナリト主張スルモノ有之是レ必竟法律ノ見解ヲ異ニシ且手續ノ鄭重簡易ノ兩主義互ニ相背馳スルニ之レ職由セン固ヨリ當廳ニ於テハ一同本議ニ異論無之ト雖ヒ他ノ各裁判所ニ在テハ議論異同有之抑亦豫審判事ノ判決ニ於テ證憑ノ取舍信否ノ異同之レ有ルハ格別ナルモ判決ノ言渡書ニ其心證ノ資料即チ豫審ノ必要タル證憑ノ事項ヲ明示スルト否ヲサルトノ異同有之一定ノ制規無之ハ頗ル不都合ト謂ハサルヲ得ス倘シ或ハ謂ハシテ是等ノ異同有ルモ法律上敢テ妨ケナシトシ猶ホ各自ノ意見ニ放任シ去ヲハ恐クハ豫審ノ處分自然荒疎ニ傾キ泛濫ニ流レ如何ナル弊害ヲ生センモ難測就テハ假令法律上明文アルニ非ラスト謂フモ前顯ノ通治罪法第二百二十八條末項ノ精神ニ釋ヌルニ必ス證憑ノ事項ヲ明示スルヲ以テ元則トセン最モ實際ノ利害ニ試ミ以テ本議ヲ是認セサルヲ得ヌ就テハ前陳ノ如ク議論兩岐ニ涉リ終結一定致サ、ル義ニ付御内訓ヲ仰キ候條何分御垂示被成下度此段稟請候也

內訓 十六年十二月廿八日

請訓之趣豫審ノ言渡書ト公判ノ言渡書トハ自然其趣ヲ異ニスル者ニ付キ治罪法第二百二十八條末項ニ定メタル言渡書ハ犯罪ノ性質模樣ノ如キハ成ル可ク明白ニ記載スルヲ要ス可シト雖モ證憑ニ至テハ一々明示スルニ及ハヌ其證憑ノ充分ナルヲ記載スルヲ以テ足レリトス此旨及内訓候也



(七)

司法省達 十七年五月三十日丙第一號大審院裁判

所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)憲兵本部へ

犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル義ニ付甲號而并縣上申ニ對シ乙號之通及指令候條爾后戸籍帳ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ義ト心得可シ此旨相達候事

(甲號) 上申 十七年一月廿九日

犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戸長役場備置ノ戸籍帳又ハ土地建物船舶賣買讓渡質入書入與書割印簿等ヲ差押ヘ數日間還付セサルコトアリ然ルニ戸長役場ニ於テハ部下ノ人民生死送入籍其他ノ異動加除ヲ要シ又ハ陸續公證ヲ請ヒ就中質入書入契約ノ如キ義務消盡ニ據リ公證取消ノ義申出アルモ本簿へ照帳消印スル能ハサルコト以テ其旨ヲ具ヘ簿冊下戻方裁判所へ照會スルモ某事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ難キ旨回答有之取扱上頗ル差支候趣ヲ以テ伺出候向アリ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止ルヘクシテ而シテ該簿冊ニ登記セル其他ノ事件全體ニ關シ行政上取扱ニ支障ヲ來シ不都合不勘就テハ斯場合ニ於テハ其必要ノ際ハ裁判所ニ於テ謄寫シ本書加除スルヲ得サル様掛紙契印等ヲ爲シ而シテ簿冊ハ直ニ還付スヘキ様致度御詮義ノ上何分ノ御指揮相成度此旨上申候也

(乙號) 十七年五月廿八日

書面上申之趣開屆候尤モ裁判所ニ於テ謄寫セシ該書ヘハ戸長之レニ調印スヘシ若シ其謄寫ニ拘ハル内ニ加除等ヲ要スル時ハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘキ義ト可心得事

(八)

司法省書記官通牒

十六年三月廿九日大審院裁判 所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ

治罪法第二百六十一條解釋ノ義ニ付東京控訴裁判所檢事長岡本豐章ノ伺ニ對シ別紙ノ通御指令相成候ニ付此段爲御心得及通牒候也

(別紙)

伺 十五年七月廿二日

豫審ニ於テ法律上當サニ罰スヘキノ事件ニ對シ誤テ罪ト爲ラサル者トシ治罪法第二百二十四條ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲シタル者アリ其言渡已ニ確定シタル後ト雖モ法章及條理等ヲ以テ該言渡ノ不當ナルコトヲ證明シ得ルハ即チ法律上新ナル證據ナル者ニ付假令事實上新ナル證據ナキモ全第二百六十一條ニ基キ會議局ヲ經由シ再訴ノ手續ヲナストハ實際法律ノ活用大ニ其宜シキヲ得ヘシト雖モ必シモ新ナル事證アルニ非サレハ假令新ナル法證アルモ再訴スヘカヲサルモノトセハ現ニ有罪人ニシテ法網ヲ脱スル者アルモ復々之ヲ如何トモスル能ハス實際上甚々不都合ト被存候且又全第二百六十一條但書ニ於テハ單ニ「新ナル證據」云々トアルニ止リ事實上ノ證據ト法律上ノ證據トニ就キ別段區別無之以上ハ寧ロ該兩證據ヲ含蓄シタル者ト看做シ前項ノ場合ニ在テハ尙再訴ノ手續ヲ爲シ可然哉

指令 十五年八月十五日 伺之通

(九)

司法省書記官通牒 十六年三月廿七 日名裁判所へ  
東京控訴裁判所檢察長岡本豐章ヨリ別紙ノ通上申之アリ朱書ノ通指令相成候條爲念此段及  
御通牒候也

(別紙)

上申 十六年三月十七日

民事詞訟上原被告ヨリ差出ス證據物本紙ニ付テハ明治七年七月本省第十四號御達ニ依リ裁判官ニ於テ年號月日番號ヲ記シ且認印スル成規ニ有之候處該成規ハ單ニ民事上ニノ行ハレ未タ刑事上ニ及ハス即チ當職ニ於テ檢閲スル所ノ重罪書類中ニモ往々訴訟關係人ヨリ差出ス證據物ノ本紙アレハ裁判官之ニ年號月日ヲ記サハ勿論認印セサルノ慣行ニ有之候故ニ當職ニ於テハ其認印之レナキヲ以テ聊カ疑義ヲ生スルコトナシトセス何トナレハ其本紙ニ張紙ヲ貼付スルモノアリ又ハ首尾ノ餘白ヲ切斷スルモノアリ又ハ文字ヲ改竄増補スルモノアリ況ンヤ其本紙ナルモノハ人民ヨリ直チニ取揚ケタル後チ該官吏ノ手ヲ經ル其後回ナルヲ知ラス且其受授ノ際ニ於テ如何ナル錯誤ヲ生スルモ又未タ知ル可ラス是ヲ以テ治罪法第六十條豫審判事證據物件ヲ差押ヘタル時ハ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ルヘキノ成規ニ基キ官吏ノ押取シ若クハ訴訟關係人ヨリ差出シタル本書ハ其本紙ニ年號月日番號ヲ付シ且認印スヘキ條各裁判所へ御達相成度此段上申候也

(朱書)

指令 十六年三月廿七日

上申ノ趣取上タル證據物件ハ治罪法第六十條ニ照準シ見込ノ通處分スヘキモノトス  
但裁判所へ通牒セシメ候事

(十)

司法省内訓 十六年三月第八九九 號大審院各裁判所へ  
司法警察官吏(治罪法第六十條及當省明治十四年甲第五號布達<sup>ニ</sup>ノ巡查)ノ其監臨スヘキ事件ニ於テハ監臨ノ特權ヲ有スルモノタルハ論ヲ待タサル所ニシテ(集會條例)監臨中犯人ヲ處分スルハ現行犯ノ尤モ著シキモノタルヲ以テ其調書ハ豫審判事ノ調書トハ効力ヲ全スヘキモノナリ(治罪法三百三條全二百五條)依テ監臨官吏ノ調書ハ檢事ニ於テ直ニ公判ヲ求ムルヲ得(治罪法第二百九條)

右ハ兼テ心得モ可有之候へ共尙又爲念及内訓候也

司法省書記官通知 十六年三月大審院各裁判所へ

司法警察官吏監臨中犯人ト認ムル者ハ條例ニ據リ夫々處分スルヲ得ルハ當然之義ニ有之候處犯人多クハ言語上ニアルヲ以テ其犯證ヲ悉ク形跡ニ收メントスルハ不可得ノ事ナリ抑監臨官公衆ノ前ニアリテ其視聽スル所ヲ檢舉スルハ現行犯ノ尤モ著明ナルモノナルニ付監臨官一面ハ中止解散ヲ命シ一面ハ法律ノ處分ヲ求ムルニ方リ裁判所ニ於テ或ハ之ヲ無罪放免

治罪法ノ部 ね〇告訴告發證據搜查豫審ニ關スル事

(一十)

ノ申渡ヲナス等ノ事有之甚々不可然義ニ付今般第八九九號ノ内訓ニ被及候條右邊厚ク注意可有之候機長官ノ命ニヨリ尙又及御通知候也

布告 十年二月二十一  
日第二十二號  
變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事<sup>檢事派出ナキ地</sup>方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルヲ得

同 十九年九月<sup>國務省</sup>根  
縣ヨリ内務省へ

第一條 刑法第四百二十六條第九項ニ變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者ト有之右變

死人ノ檢視ハ自ラ生命ヲ斷テタルモノナルカ他人ノ爲メニ害セラレタルモノナルカヲ證明シ其自殺ニ係ルハ親族ニ交付シテ埋葬セシメ被殺ニ係ルハ司法官ノ處分ニ移ス等ノヲ處置スルモノニシテ行政警察ノ事務ニ屬シ候義ト相心得可然哉

第二條 果シテ前條同ノ如クナルトキハ死體ヲ解剖セサレハ自殺ト被殺トヲ確知スル能ハサル場合ト雖モ檢事ハ未タ其事件ニ干涉スルノ理ナキヲ以テ檢視ヲ行フ官吏ハ其長官マ

ル縣令ノ指揮ヲ得テ死體ヲ解剖スルヲ得ヘキ哉

指令

何之趣左ノ通心得ヘシ  
第一條 司法官ニ移ス迄ノ手續ハ何之通

(二十)

(三十)

第二條 解剖ヲ要スル場合ニハ十年第二十二號公布<sup>(注)</sup>ニ據ルヘシ

布告 十六年十二月二  
十日第四十三號

酒造稅則營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

同 十七年一月十日長  
崎縣ヨリ司法省へ

客年第四十三號公布<sup>出</sup>ニヨリ主任官吏犯則ノ證憑取調ルル本人拒ムトモ家宅倉庫ヲ搜查スルノ權アリヤ

指令 十七年一  
月十四日

客年第四十三號公布ニ依リ家宅倉庫搜查ノ件ハ何ノ通

司法省内訓 十五年七月十二日大審院裁判  
所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ

司法警察官檢察官ニ於テ犯罪搜查ノ手續ヲ盡サスシテ豫審判事ニ送致シ豫審判事ハ證憑ヲ具備セヌシテ豫審ヲ終結スルカ如キ事アルニ於テハ實際不都合少ナカラサルニ付以後左ノ通心得ヘシ

第一條 司法警察官ニ於テ告訴告發其他ノ原由ニ因リ犯罪アルヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ遲滯ナク之ヲ檢察官ニ送致ス可キハ勿論ナリト雖モ成ルヘク充分ニ證憑

(四十)

治罪法ノ部 わ〇告訴告發證據搜查豫審ニ關スル事

及ヒ被告人等ヲ捜査シ起訴ノ資料ト爲ル可キ事實ヲ具備シ然ル后檢察官ニ送致スヘキモ  
ノトス尤モ非現行犯ノ場合ト雖モ報知書ニ因リ出廷シタル證人等ノ申立ヲ聽クハ妨ケナ  
カル可シ但急速ノ處分ヲ要スル事件ニ付テハ先ツ其事件ヲ檢察官ニ送致シ然後尙ホ捜査  
ヲ爲シ隨テ證憑ヲ得レハ隨テ送致スヘシ

第二條 檢察官ニ於テ司法警察官ヨリ被告事件ノ送致ヲ受ケ若クハ直チニ告訴發其他ノ  
原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ自カラ捜査ヲ爲シ又ハ司  
法警察官ヲシテ更ニ捜査ヲナサシメ成ルヘク充分ニ起訴ノ資料ヲ具備シ然ル後豫審若ク  
ハ公判ニ付スヘキモノトス尤モ非現行犯ノ場合ト雖モ報知書ニ因リ出廷シタル證人等ノ  
申立ヲ聽クコトヲ得但急速ノ處分ヲ要スル事件ニ付テハ先ツ起訴ノ手續ヲ爲シタル后尙ホ  
捜査ヲ爲シ隨テ證憑ヲ得レハ隨テ送致スヘシ

第三條 豫審判事ニ於テハ檢察官ノ起訴其他ノ原由ニ因リ豫審ニ着手シタル后ト雖モ司法  
警察官ヲシテ必要ト思料スヘキ事件ニ付更ニ捜査ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキモノナルニ因  
リ成ルヘク充分ニ證憑ヲ具備シ然ル后豫審ヲ終結セサルヘカラサルモノトス

(か) ○警部巡查憲兵并官吏呼出ニ關スル事

布告 十四年十二月廿  
八日第七十一號

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理

(二) 〇

セシム

司法省布達 十四年十月十  
日甲第五號

新法實地ノ后ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル義モ可有之  
候條此旨相達候事

司法省達 十四年十月十日丁第十  
七號大審院裁判所へ

司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ候條本年當省丙第十三號ヲ以  
テ相達候條此旨可相心得事

司法省達 十四年十月十日丙第十三號  
警視廳府廳(東京府ヲ除ク)へ

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲  
サシメ不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫メ其地方輕罪并違警罪裁判所へ通牒致シ置キ候義ト心  
得ヘシ

司法省達 十六年二月廿四日丁第  
九號大審院裁判所へ

明治十四年十月當省甲第五號布達出ニ據リ巡查ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テ  
ハ裁判上渾テ警部同様ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令丙訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

治罪法ノ部 か○警部巡查憲兵并官吏呼出ニ關スル事

(三)

布告 十五年五月十三日丙第二十三號

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

(四)

司法省達 十五年三月廿二日丙第十號大審院  
裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ圖書ヲ作りタル司法警察官ヲ證人トスルキハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出處セシメ宣讀セシムルニ及ハス書記ノ次席ニ着テ陳述セシム可シ此旨相達候事

(五)

司法省達 十五年六月十二日丙第拾二號大審院裁判  
所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)東京憲兵本部ハ

治罪法第九拾六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ證人トシテ公庭ヘ呼出ス時ハ本年本省丙第十號達カニ準シ處分スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但巡查及ヒ等外ノ着席ハ此限ニアラス

司法省達 十五年十月廿八日丙第三十二號大審院裁判  
所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)東京憲兵本部ハ

總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付證明セシムル爲メ其呼出ヲ要スルキハ本年當省丙第十號達カニ準シ取扱フヘシ此旨相達候事

但シ巡查及ヒ等外吏ノ着席ハ此限リニアラス

よ ○令狀ニ關スル事

布告 十四年十月八日第百五十九號

(一)

治罪法中豫審判事拘引狀ヲ發シ拘引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

(二)

司法省達 十五年二月六日丙第拾四號裁判  
所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ

治罪法ニ定メタル拘引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラズ但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用ヒサル儀ト心得此旨相達候事

同 十八年八月十五日  
警視廳ヨリ司法省ハ

(三)

茲ニ輕罪犯アリ檢事ヨリ直ニ公判ニ付シ審問中拘留期限經過シ收監狀ニ換ヘサルヨリ其旨檢事ニ通知セシニ公判ニ付シタル以上ハ關係セスト云ヒ公判々事ニ於テハ法律上明文ナシトテ收監狀ヲ發セヌ又被告人ニ於テ異議ノ申立ヲナシタルニ收監狀ヲ發付スル如キハ總テ被告事件豫審中ノ處分ニ屬シ公判々事ニ於テ之ヲ發スルハ法律ニ規定スル處ナシ然ラハ拘留狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ經過スルモ既ニ公判々事ノ管理ニ屬スル以上ハ其効力ノ消滅スルモノニ非スト判決セリ抑拘留十日ヲ過クルコトヲ得サルハ治罪法ニ明文之レアリ又檢事ヨリ直ニ公判ニ付シタル事件ニシテ拘留十日ヲ過ルルハ治罪法第百廿七條第二項ニ從ヒ檢察官ノ請求ニ依リ更ニ二十日間拘留ヲナシ又ハ公判々事ニ於テ收監狀發スルヲ得ヘキ旨往々御指令有之就テハ公判々事ト雖モ收監狀ヲ發スルヲ得ルハ勿論ニシテ若シ其處分ヲナサハルキハ典獄ニ於テハ令狀ナキ被告人ヲ拘留スル不能ヲ以テ直ニ解放セサルヲ得ス然ルニ前

治罪法ノ部 一〇令狀ニ關スル事

顯判決ニ依テ見レハ拘留十日ヲ過クルモ其効力ヲ有スルモノ、如シ右ハ果シテ効力之レア  
ルモノニ候ヤ若シ之ニ反シテ効力ナキモノトセハ前顯ノ如キ判決アリタル場合ニ於テハ如  
何相心得可然哉

指令 十九年四月九日

同之趣被告事件ヲ公判ニ付シタル後ハ治罪法第百廿七條ノ規則ニ據ルヘキモノニアラヌ即  
チ裁判宣告ニ至ルマテ拘留狀ノ効力ヲ有スルモノト心得ヘシ

布告 十四年九月廿日  
第四十六號按察

治罪法第百二十五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サル旨記載有之候ヘトモ  
當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ得シカラヌ

司法省内訓 十五年十二月十四日第六七八〇號裁判所  
警視廳府縣(東京府ヲ除ク)東京憲兵本部ヘ

明治十四年第四十六號布告末項ニ據リ司法警察官ニ於テ發スル令狀ハ拘留狀迄ニ止ル旨  
指令或ハ内訓及ヒ置キタル處右指令内訓ハ取消シ收監狀ヲモ包含候義ト心得ヘシ

但司法警察官ハ一月毎ニ左ノ雛形ニ依リ收監表ヲ作り所轄檢事ニ差出スヘシ又檢事ハ一  
月毎ニ同一ノ雛形ニ依リ收監表ヲ作り司法警察官ヨリ差出シタル收監狀ト同時ニ司法卿  
ニ進達ス可シ

起訴前收監表

收監シタル 被告人氏名	收監シタル 年月日	罪名	急遽ニ處分ヲ 終ラサル事由

司法省訓令

十九年五月一日第二號按察  
判所檢事長檢事裁判所檢事ヘ

明治十五年十二月常省第六七八〇號内訓但書ニ從ヒ檢事ヨリ當省ヘ差出スヘキ收監表ハ

自今所轄按察裁判所檢事長ニ差出スヘシ又檢事長ハ之ヲ取纏メ三月毎ニ一紙表ヲ製シ當省  
ヘ差出シ且意見アルトキハ之ヲ附記スヘシ但收監表雛形ハ各檢事長ニ於テ適宜ニ之ヲ定ム  
ヘキモノトス

請訓

十五年十二月十八日  
警視廳府縣司法省ヘ

本月十四日附第六七八〇號<sup>(五)</sup>ヲ以テ明治十四年第四十六號布告末項ニ依リ司法警察官ニ於  
テ發スル令狀ハ收監狀ヲモ包含スヘキ旨内訓有之候處右ハ治罪法第百二十九條ノ程式ハ踐  
マサルモ妨ケ無之哉

前項收監狀ヲ發シタル被告人ハ訊問結了ニ至ルマテ監倉ニ送致セスシテ警察署ニ留置スル  
モ妨ケ無之哉

治罪法ノ部 一〇令狀ニ關スル事

内訓 十五年十二月廿二日

收監狀ノ義ニ付請訓之趣第一項ハ治罪法第百二十九條ノ規則ニ從フ但檢察官ニ意見ヲ要セ  
又第二項ハ見込ノ通

(七)

司法省達 十六年三月十二日(内第一號大審院  
裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ハ)

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ備ハレタル内國人ニ對シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百二十  
八號公達<sup>(九)</sup>ニ據リ公使館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其ノ唯諾ヲ經ルノ手續  
ハ明治十四年第五十三號公達<sup>(四)</sup>ノ旨ヨ有之ニ付大審院并裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省へ申  
出指令ノ上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省へ申出右唯諾ヲ經ルノ手  
續キヲ了シ令狀ヲ執行セシムヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

但本文令狀執行者ハ專ラ明治七年第百二十八號公達ノ旨趣ニ據リ聊不都合ノ取計無之様  
厚ク注意セシムヘシ

(八)

司法省内訓 十五年七月十三日  
大審院裁判所ハ

禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ニシテ豫審ヲ求メス直ニ公判ニ付スヘキ者ニ付テハ公判呼出狀發  
付前ト雖モ檢察官ヨリ其事件ノ送致アリタル時ハ公判々事ニ於テ治罪法第三百五十一條ノ  
旨趣ニ因リ豫審ニ付キ定メタル規則ニ從ヒ令狀ヲ發スルコトヲ得ヘキ義ト心得ヘシ此旨及内  
訓候也

(九)

司法省内訓 十五年四月十八日  
番外大審院裁判所ハ

被告事件禁錮以上ノ刑ニ該リ輕罪裁判所又ハ重罪裁判所ニ移ス可キ場合ニ於テ留置ヲ要ス  
ル者ト思料スル時ハ豫審終結前收監狀ヲ發スル義ト心得ヘシ此旨及内訓候也

(十)

司法省達 十五年四月十二日  
丁第廿四號裁判所ハ

左之通豫審判事ニ及内訓候條爲心得此旨相達候事

輕罪裁判所

豫審判事

治罪法第百三十四條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ巡查ヲシテ令狀ヲ他管ニ帶行セシムルハ被  
告事件殊ニ急速ヲ要スル時ニ限り輒ク其處分ヲ爲ス可キ者ニアラス又第百三十五條ノ場合  
ニ於テ豫審判事ヨリ人相書ヲ發シ搜查及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スル者ハ專ラ重大ノ罪  
ヲ犯シタル被告人ニ對シテ發スル者ニ有之被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ罪ノ  
輕重ヲ問ハス悉ク人相書ヲ發スル者ニアラサルナリ此等ハ兼テ注意アル可キ事ナレモ猶ホ  
誤解無之様爲念此旨及内訓候也

十五年四月十二日

司法卿大木喬任

同 十五年十月廿七日  
兵庫縣ヨリ内務省ハ

第一條 拘引狀拘留狀收監狀逮捕狀ヲ執行シ若クハ重罪輕罪ノ現行犯ヲ逮捕スル時ニ於テ

治罪法ノ部 上〇令狀ニ關スル事

百三十三

百三十二

被告人又ハ犯罪人三歳以上ノ幼児ヲ携帶シタルハ該兒ハ其被告人又ハ犯罪人所在地ノ戸長へ交付スルヲ順序トスル哉

第二條 果シテ前條ノ如クナレハ戸長ニ於テハ被告人及犯罪人所在地即チ其原籍ナレハ該兒ハ直ニ其親戚故舊へ引渡至當ト考量ス然ルニ若シ親戚故舊アラサル歟假令有之モ赤貧ニシテ養育之費ニ堪ヘサルハ辛未六月廿日公布及六年四月二十四日第百三十八號公布ニ據リ預リ人ヲ需ムルモ該養育米ハ糶ニ糊口ノ一端ニ止リ被服其他ノ諸費ニ充ツル能ハサルヲ以テ預リ人無之キハ養育米ノ餘ハ實費支給ヲ以テ其人ヲ需メサルヘカラス然ルハ該費ハ官費ニ屬スヘキモノナル哉將タ地方稅教育費ニ歸スルモノナル哉  
但養育年齡ハ本文公布ノ通滿十三年ヲ限界トシ可然哉

第三條 前條被告人及犯罪人所在地其原籍ニアラサルハ直ニ原籍戸長へ送致シ而シテ該送致ニ係ル諸費ハ其原籍地ノ官費又ハ地方稅ニ歸スルモノナル哉

但無籍ナルハ第二條ニ據テ處理ス

指令 十六年七月二十一日

第一條 家元又ハ親族アルモノハ之ニ引渡スヘク其家元親族ナキモノハ伺之通  
第二條 恤救規則ニ適當スルモノハ右規則ニ依リ救助シ若シ増費ヲ要スル歟又ハ該規則ニ適當セサルモノハ末文伺ノ通

但書年齡ハ本文規則ノ通

第三條 家元又ハ親族ヲシテ引取人ヲ差出サシメ之ニ引渡スヘク若シ引取人難差出事情アル歟又ハ無籍ナルハ第二條指令ノ通取計フヘシ

司法省達 十四年十二月廿八日丙第廿號  
府縣(東京府ヲ除ク)大審院裁判所へ  
新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル義ト可心得此旨相達候事

司法省達 十五年四月十七日丙第十四號  
府縣(東京府ヲ除ク)大審院  
裁判所(東京府ヲ除ク)へ

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第廿號出ヲ以テ相達置候處始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

司法省達 十五年二月十四日丙第廿六號  
府縣(東京府ヲ除ク)大審院  
裁判所(東京府ヲ除ク)へ

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左ノ通心得可シ此旨相達候事

第一條 逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二號書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ但管轄地ノ内外ニ拘ハラヌ急遽ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

治罪法ノ部 よ○令狀ニ關スル事

(二十)

(三十)



第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條 管轄地外ハ第一號書式ニ準シ人相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地外ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第四條 司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スコシ

第一號(縦七寸五分)(横七寸八分) (ヲ附セシ者ハ朱字以下倣之)

人相書		
(本籍身外) (氏)		
(年 齡)		
丈		
顔		
色		

頭	髮																		
眼																			
眉																			
鼻																			
口																			
耳																			
齒																			
音	聲																		
痘	痕																		
疵	所																		
鬚髭ノ有無																			
其他特徴																			
長所																			

治罪法、部、令狀ニ關スル事

父母妻子					
逃走用衣ノ服					
持同去上物ノ品					
罪名及限					

右者(何方)ニ於テ處刑中明治(何)年(何)月(何)日(何)時(何)分逃走候ニ付逮捕ノ御處分有之度候也

明治 年 月 日  
朱 何裁判所之印

朱 何裁判所  
 檢事(氏名) 印

(何)裁判所  
 檢事(氏名)殿

〔第二號〕(縦四寸九分 横三寸一分)

逮捕狀

(本籍身分) (罪名并ニ刑名及ヒ其期限) 氏 (名) (年 齡)				
右者(何方)ニ於テ處刑中明治(何)年(何)月(何)日(何)時(何)分逃走(管内ニ發スル逮捕狀ニハシタル以下有之迄ノ二十二字ヲ除ク)シタル趣ヲ以テ(何)裁判所檢事ヨリ逮捕方囑託有之候ニ付嚴密搜索ヲ遂ケ見當リ次第逮捕ス				
執行シタル月日時	執行シタル場所	家宅搜索ヲナシタル時ハ其事由	勾引スルヲ能ハサル時ハ其事由	

表

治罪法ノ部よ( )符號ニ關スル事

可者也

右本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治年月日  
朱何裁判所  
朱何裁判所  
朱何裁判所  
朱何裁判所

(何裁判所)

檢事(氏名)  
朱印

右之通取扱候也

明治年月日

(巡查又ハ憲兵氏名印)

裏											
音	齒	耳	口	鼻	眉	眼	頭	色	顔	丈	八相書
聲							髮				

治罪法ノ部 上〇令狀ニ關スル事

瘡	痕	疵	所	發露ノ有無	其他特徴	長	所	父母妻子	逃走ノ際着用衣服	同上ノ際持去物品

司法省内訓 十五年十月廿九日  
始審裁判所へ

當省本年丙第六號達第三條前已決囚ノ逃走シタル者逮捕方ノ義ニ付往々其潛匿シタルヘキト思料スルノ地ト否ヲ問ハヌ一般ニ囑托致ス向モ有之哉ニ候處右ハ固ヨリ其潛匿又ハ通過スヘキト思料スル地ノ始審裁判所檢事ニ限り囑托スヘキモノニ有之候條爲念此旨及内訓候也

(四十)

請訓 十六年十一月二十六日京都  
始審裁判所ヨリ司法省へ

第一條 司法警察官ニ於テ現行准現行犯罪人ヲ訊問スルニ其共犯者他ノ犯罪ニ依リ現ニ既決監ニ在リ訊問ヲ要スル場合ニ於テハ別ニ令狀ヲ要セス司法警察官ヨリ該囚護送方ヲ監獄署ヘ照會シ監獄署ニ於テハ右照會書ニ依リ護送ス可キ者ニ有之候哉將々勾引狀ヲ發シ引致セシメ訊問ス可キ義ニ可有之哉

第二條 司法警察官ニ於テ事實考參ノ爲メ既決囚ノ陳述ヲ聞カントスルキハ該囚護送方監獄署ヘ照會スヘキモノニ有之哉將々報知書ヲ監獄署ヘ送致シ監獄署ニ於テハ其報知書ヲ本人ヘ下付シタル上無論護送スヘキモノニ可有之哉

内訓 十六年十月五日

第一條 後段見解ノ通

第二條 前段見解ノ通

司法省達 十五年三月二十日丁第  
十八號始審裁判所へ

軍人軍屬ノ犯罪既決後逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丙第六號達(十三)ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相達候事

司法省達 十五年三月二十日丁第  
十七號陸海軍衙ヨリ

軍人軍屬ノ犯罪未決中逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丁第十

治罪法ノ部 一〇令狀ニ關スル事

(五十)